
けいおん!パート 3 Final

ESP Bardic

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

けいおん！パート3 F i n a l

【Nコード】

N 2 8 0 7 N

【作者名】

E S P B a r d i c

【あらすじ】

オリジナルキャラクターが多数登場します（・▽・）ノ
苦手な方はご遠慮下さい

*ト書きが嫌いな奴はすぐに立ち去れ

あと、つまらん・おもしろくない・ト書きで見る気が失せたなどの
悪口はいらんからな（||・ω・）／

見たくなかったら？ボタン押して退場b（・▽・●）

※バンド活動で忙しい為更新はめっちゃ遅くなります、ご了承ください
下さいm（ m

〓登場人物紹介〓

平沢 唯……（リードギター&mp;ヴォーカル担当）
皆さんご存知けいおん！の主人公。

超天然のドジっ子娘でおっちょこちょいな一面がチラホラ。
ギターはギブソン・レスポール・スタンダードを愛用。

田井中 律……（ドラム担当）

軽音部の部長（一応ね）

大胆かつマイペースでチマチマしたことが苦手。
よく濡をおちよくっては濡の鉄拳を食らっている。
ドラムはヤマハ・ヒップギグを愛用。

秋山 滯……（ベース&mp;ヴォーカル&mp;コーラス担当）

怖い話や痛い話が大の苦手で、人見知りの所がある。
フィンガーピッキングとピック奏法を使いこなす。
ベースはフェンダー・ジャズ・ベースを愛用。

琴吹 紬……（キーボード担当）

ふわふわ&mp;しっとりした性格で、部室によくお茶とお菓子
を持ってくる。

作曲をしたりするなど曲を作る才能はある。

キーボードはコルグ・TRITON・Extreme（76鍵盤モデル）を愛用。

中野 梓……（リズムギター担当）

軽音部で唯一の後輩で、軽音部一の真面目。

唯によく抱きつかれては嫌がっている。

ギターはフェンダー・ジャパン・ムスタングを愛用。

片山 圭吾……（ギター&mp;ヴォーカル担当）

元「フェニックス」のメンバーで、ヴォーカルの女の子が事故死した影響でバンドは解散し、高校入学まではギターに触れていなかったが、慎弥に誘われて再び音楽活動を再開した。

ギターの腕前は軽音部一のテクを持つ。

ギターはFernandes・Burny・LSDー55NとFernandes・LAー115KKを愛用。

山河 慎弥……（ベース&mp;コーラス担当）

慎弥も圭吾と同じ元「フェニックス」のメンバー。

最初はギターから初めたらしいがあまりのコードの多さに挫折し、ベースに転向した。

ベースの腕前はトップクラスで濤も尊敬していて、ジャズ研のベシスト達にも尊敬されている。

ピック奏法を主に扱う（というか慎弥はフィンガーピッキングが苦手らしい）

主にコーラスを担当しているがヴォーカルの圭吾より高音を出せる声を持つ。

ベースはEDWARDS・ETー170BDーSee Thru Festa Red tetsuyaモデルとBacchus・STDーJB5Ashを愛用。（慎弥は家にあと四本ベースを所有しているが主に使っているのはこの二本）

高山 修一……（ドラム担当）

修一はドラムに対するこだわりが強く、絶対に2バスドラムしか扱わない。

16ビートの曲を演奏する時はオープンハンド奏法を多用する。（圭吾談によると修一は中学の時他のバンドでドラムを叩いていたら調子が悪かったのか修一はまだ演奏中なのにいきなりスティックを地面に叩きつけ怒って帰って行ったという）

普段は標準語だがキレると関西弁になる。修一の親父は元F1ドライバーで親父はレーサーにならせたらしいが本人はあまり乗り気じゃない。

ドラムはパールの最高級品でMasterworksという完全オーダーメイドのドラムセットを愛用。

宝井 奈々……（キーボード&コーラス担当）

北海道出身の天然娘。

方向音痴でよく道に迷う。兄は現在人気急上昇のロックバンド「ジキル」のベーシスト哲哉（アーティスト名はtetsuya）である。

転校してきたのには実は理由があり、奈々は兄がテレビによく出始めた影響で前の学校のクラスメイトからイジメを受け、責任を感じた哲哉が北海道から桜ヶ丘に転向させた。

奈々はキーボードの他にドラムも演奏できる。

キーボードはKORG・SVI-73・SV-1（73鍵盤）シンセサイザーを愛用。

山中 さわ子……軽音部の顧問。元桜高軽音部OGで、ギターとヴォーカルを担当していた。メタルの曲を聞くと性格が変わってしまう。コスプレを作るのが趣味で、唯達のライブ時に着させようとしているが嫌がれている。（圭吾達はさわ子の作った衣装は絶対に着ない）

平沢 憂……唯の実の妹。

姉の唯よりしっかりしており、よく唯の面倒を見ている。

鈴木 純……梓、憂の友達。ジャズ研に所属しており、ベースを弾いている。

滯と慎弥を尊敬してる。

（しかし純によると慎弥は見た目が少しイカツイので話掛けるのが少し怖いらしい）

真鍋 和……生徒会長。

唯とは幼稚園からの幼なじみ。

昔から唯の行動に驚かされている。

飯田 友成

嵯峨 京助

伊川 孝太郎

……こいつらは桜高のチンピラで、圭吾にやられるまでは桜高一の超問題児だったが、最近は大人しくなってきた。

圭吾の事を兄貴と呼んでは圭吾に殴られている。

#01 掃除!! (前書き)

時は過ぎて……唯達は無事進級し、偶然?にも8人(和も含む)とも同じクラスという出来事があった。

担任がさわ子なので恐らくさわ子が決めたんだと思うが……………。

#01 掃除!!

……ジャーン……♪

律「よしっ、こんなもんだな!」

梓「唯先輩また弾き間違えてますよ!」

唯「うっ!! あずにゃん手厳しい…… (泣)」

紬「まあまああ♪」

滯「いよいよ明日か……緊張するな……」ドキドキ

奈々「皆すご〜い♪」パチパチ

圭吾「んじゃ次は俺らの番だな」スクッ

慎弥「よいしょっと…」スッ

修一「……よっ……」スッ

奈々「3人とも頑張れ〜♪」

律・滯・圭・慎・修「お前もするんだよっ!!?」

奈々「へっ?」

.....

奈々「うう……」フラフラ……

圭吾「ほら、しっかりしろよ！」

奈々「うう……お菓子を食べてないから力がでない……」フニャ
……

修一「唯かお前は？」

慎弥「……？」

紬「奈々ちゃん、おいしいケーキがあるから頑張ろ♪ねっ？」

奈々「頑張ろう皆！！」シャキーン

圭吾「なんなんだこいつは……？」

律・濤「さすがムギ？」

慎弥「？」

修一「……？……じゃ、じゃあいくぞ？？」

圭吾「……？……オホンッ！！……じゃあ仕切り直して……S
TAY AWAYな……」

慎弥「あいよ」スッ

……ジャーン♪

慎弥「♪」ボンボン♪

澤「……慎弥のベースの技術はいつ見ても凄い………」

慎弥「……抜け出した大地で♪手に入れたのは自由♪」

慎・圭「maybe lucky maybe lucky I
dare say I'm lucky♪」

慎弥「レールの上に沿って♪どこまで行けるかな♪」

慎・圭「maybe lucky maybe lucky I
dare say I'm lucky♪」

慎弥「焼き増しの世界には惹かれないから♪」

慎弥「君の未来はあっちさあtrying trying in
yourself♪」

慎・圭・奈「causes stay away♪
causes stay away♪」

……ジャーン……♪……

律「格好よかったぞ♪慎弥……!!!(笑)」

慎弥「……なっ!」

漣「……」ウツトリ…

慎弥「……なっ、なんか……恥ずかしいな……／＼俺あんまり褒められた事ないから……／＼／＼」へへへ…

圭吾「慎弥お前知らないのか？ジャズ研にお前のファンが結構いるらしいぞ？」ヨイシヨツ…

慎弥「……へ？」

修一「慎弥結構他校でも有名なんだよ？桜高に凄いベーシストがいるって……」

慎弥「……！！！／＼／＼」ボンツ！！

律「あらら……？頭から湯気が……？」

梓（なんか……漣先輩に似てるな……）

紬「……ねえ圭吾くん、今回慎弥君もヴォーカルなの？」

圭吾「ああ、でもまだこれだけじゃないぞ？」

紬「？」

圭吾「おしっ！！新曲をするぞお前ら！」

唯「えっ！？新曲出来たの！？」

圭吾「ああ、今回の曲はベースライン重視だからかなり慎弥が目立つように作ったんだ」

慎弥「……んでこれが楽譜」スツ

漣「……」スツ

律「どれどれ？」

漣「……これはかなり難しいな……」

律「意味がわからん♪」

唯「……」プシュー……

紬「大変！！今度は唯ちゃんから湯気が……！！」アセアセ

梓「何やってるんですか唯先輩！！」

漣「…今回この曲はどんな感じなんだ？」

圭吾「今回はバラード系にしてみたんだ」

律「バラードかあ……」

唯「私達もやってみたいね……」

紬「バラード……今度作ってみようかしら……！」

梓「いいですね！バラード！！」

圭吾「それで今回作詞したのは慎弥です！」

慎弥「……書いてみました……」ハズカシイ……

律「へへ慎弥が……どんな歌詞なんだ？」

慎弥「曲名は愛するあなたへって言うんだけど………なんか恥ずかしい……／＼／＼」

律「へへ……」↑遠目

慎弥「…なっ、なんだよその目はっ！！／＼／＼」

律「いや………なんか慎弥にはかなりかけ離れた曲名だなあ～と思つて……」

慎弥「恋愛音痴って言いたいのかよっ！？？」

律「べっ、別にそんな事言っていないじゃんか！」アセアセ

慎弥「言っでなくても目を見たらわかんだよっ！！！？」

律「ひえええ………滞しやん助けてえ………！」

滞「知らん」

律「そっ、そんな……（泣）」

圭吾「はいはい、茶番はいいから早くすんぞ！」

慎弥「……くそっ……」

……

ジャラ〜ン……………

圭吾「……つとまあこんな感じかな？」

唯「……かつ、感動しましたわ〜（泣）……」

奈々「なぜ唯ちゃん関西弁を！！？」ガビーン

修一「……明日は早く学校に来ね〜と……」

奈々「何で？」

修一「今使ってるドラムは練習用でもう一台ドラムがあるんだ」

奈々「……凄い……」

律「あのドラム凄い高いんだって〜！！いくらなんだ修一？」

修一「えっと……値段はわかんねえけど……国産車が数台買える値段らしいんだ……完全オーダーメイドだからそれ位の値段はするって親父が言ってた」

8人「何ですとっ!!!?!」ガビーン

律「国産車が数台買える値段……去年の学祭の時私はそんな高価なドラムを叩いていたのか……?」

漣「…完全オーダーメイド……?」

唯「オーダーメイドって何?」

梓「オーダーメイドって言うのはその人に合わせて作ったいいわゆる特注品って事ですよ」

紬「凄い修くん♪」

圭吾「……そんだけの金があったら……ギター何台買える事やら……?」

慎弥「全くだ……?」

奈々「……なんと……」

修一「まっ、まあその話は置いておこうぜっ!!!?!」アセアセ

圭吾「……そうだな……さて……明日の新歓ライブの曲順表をもう一回確認するか……」

……曲順表←

1, 私の恋はホッチキス

2, カレーのちライス

3, ふわふわタイム

4, 翼をください

5, HONEY

6, HONEY 2007

7, STAY AWAY

8, 愛するあなたへ…

9, 空の虹（全員）

……………

圭吾「……………んで最後のトリの曲なんだけど……………今回は誰が演奏する？」

唯「私ギターやりたい！」

圭吾「はい決定」ビシッ

律「早っ！」ガビーン

圭吾「んで次はベースなんだけど……」

漑・圭「やりたいですっ！」ハイッ

圭吾「ん？」

漑・慎「…あ……」ジッ…

律「じゃんけんだなこの場合は」

漑「……じゃあ……三回勝負で……」

慎弥「……いいよ……」

………

漑「……」

慎弥「……」

漑・慎弥「……じゃんけんぽんっ!!」

漑○

慎弥×

漑「……よしっ！」

慎弥「くそお……!!」

律「……なんか小学生みたいだなあいつら？」

圭吾「まあいいじゃないの……さて次はドラムだな………」

奈々「はいっ！あたしドラムやりたいっ！！」

圭吾「うお？……なんだよその張り切り様は……？」

律「そーいや奈々ドラム叩けるんだったっけ？」

奈々「うん！！修一くんちょっとドラム貸してね！」

修一「あつ、ああ………」

奈々「……よいしょっと……じゃあいくね〜♪」スッ

ダカダカダカダンッ！ダカダカダカダカダカダンッ！

圭吾「……うっ、上手い……？」

律「……私より上手いかも……？」

唯「奈々ちゃん凄〜い………」

絢「ドラムを叩いている奈々ちゃん……いいわねえ〜♪」キラキラ

梓「その代わり奈々先輩……髪が……？」

奈々「……ふうっ！……どうだった？」

梓「……凄く上手かったですけど……奈々先輩……髪……凄いことになってますよ……?」

奈々「のわわっ!!?」アセアセ

圭吾「すっげー爆発へアーだな……?」

奈々「えへへ……?朝起きたらいつもこんな感じなんだ……?」

律「なんか……ライブの時の圭吾の髪型みたいだな……?」

漣「いや……それ以上だな……?」

奈々「ライブの時の圭吾くんってどんな感じなの?」

修一「話変えやがった?」

律「一言で言うとな圭吾はライブになるとヒトが変わる」

奈々「へえ……どんな?」

慎弥「よっしゃ勝った!」ウオオオ!

漣「まっ、負けた……(悲)」

圭吾「うっせーぞ慎弥!!」

奈々「ねえねえどんな？」

律「確か去年の学祭のライブのDVDがどこかにしまってたはず…
」ゴソゴソ…

紬「多分隣の部屋にあるんじゃない？」

律「そっか!! さすがムギ♪」

〃〃物置部屋〃〃

梓「…それにしても……凄い荷物の量ですね…」

律「確かこの辺に……」ゴソゴソ…

奈々「凄いホコリ…!!」ゴホゴホッ!

律「…あっ! あったぞ!!」
グラッ…!!

律・奈「…へっ？」

ガラガラドッシャーン!! ……

紬「…っ!!」

梓「…っ!! ちよっ…!! 2人とも大丈夫ですかっ!!?」

律・奈「……!!」ヒクヒク…

圭吾「どうした………っておい!! 何やってんだよお前らっ!!?」

唯「だっ、大丈夫2人とも!!?」アセアセ

漣「何をしてるんだ全く……?」ハア…

慎弥「……にしても……汚ったねえなあ……私物だらけだな……」

修一「ホッ、ホコリが……!!」ゲホゲホッ…

圭吾「……ったく……仕事を増やすなよ……!」

律「うう……」

奈々「……あ……なんかお花畑が見えて来たあ……」ウヘヘヘ…

紬「ダメよ奈々ちゃんあの世に行っちゃ!!」ユサユサ…

奈々「えへへ……♪」

梓「奈々先輩しっかりしてください!!!」

圭吾「……お前らちょっと退いてろ……」スッ

律「なんだその巨大ハリセン!?!」

慎・修（この光景かなり前に見たような……？）

漣「どうかしたか2人とも？」

慎・修「いや別に何も…」

漣「？」

圭吾「せゝの……おりゃっ!!」ブンッ!

バチーン!!

奈々「ふぎゃっ!!?」（泣）

律「…おいおいおい？」

紬「あらあゝ……?」

梓「奈々先輩が可哀想……?」

漣（圭吾の奴はアイドル顔してるけど中身は悪魔だ……？）

奈々「ううゝ……」（泣）

圭吾「ほらっ、さっさと起きろ馬鹿たれが」

奈々「……圭吾くんの鬼……」ボソツ……

圭吾「何だったゴルアッ!?」

奈々「ひっ……ごっ、ごめんなしゃい……(泣)」

7人「?」

唯「……でも凄いねこの散らかりよう……」

澪「……確かに……少しこれはちよつと汚な過ぎるな……」

梓「ですね……」

澪「掃除するか……」

律・唯「!」ピクツ……

澪「よしっ……じゃあこれから掃除でもs……」

律「よぉーし!!明日の新歓ライブに向けて練習するか!!」

唯「そうだねりっちゃん!!」

澪「こらお前ら!!?逃げるな!!?」

律「……ここの掃除は音楽室担当の子がやってくれるんじゃないかな?」
「ブーブー」

唯「そうだぁーそうだぁー!!」ブーブー

滯「それはそうだけど……普段ここを使ってるのは私達なんだし……」

律・唯「うつ……！」グサッ！

梓「とにかく！律先輩と唯先輩も手伝ってくださいよっ！？」

律・唯「……はぁ……い……」

……

奈々「ねえりっちゃん、さっきのDVDは？」

律「あああれ？あれならさっき机の上に置いたよ？」

奈々「今日一晩だけ借りてもいい！？」ズイッ

律「うおっ？近いな？……別にいいけど？？」

奈々「やったぁっ♪」

圭吾「無駄話してないで早く運べ！」

律「へーい……じゃあまた後でな……」ヨッコラセツ……

奈々「うん♪」

慎弥「…しまあ……今までよくこんな状態にしてたもんだ……」
ヨイシヨツ…

修一「一杯出てくるなあ……がらくたが……」ゴソゴソ…

……数時間後……

律「…ん……！疲れたあ……！！」

澤「……しかし、私達の私物じゃない物がたくさんあるな……」

紬「昔は部員が多かったみたいねえ……」

唯「みんな見て見て……」ヨイシヨツ……！

律「おっ♪お宝かつ？」

梓「高そうなケースですね……」

圭吾「……なんか……カビ臭え……？」

慎弥「…確かに……？」

修一「開けてみたら？唯」

唯「何が入ってるんだろ……」パカッ…

律「何だ何だ〜♪……ん？」

澤「…ギターだ……」

梓「なんかこのギターちょっといい物かもです……」

圭吾「おいおい……結構年代モンだぞこのギター……！」

律「もうちょっと面白い物期待してたのにな……」

唯「つまんなあ〜い……」

梓「軽音部なんだから興味持ちましょうよっ!!?」

ガチャツ……

さわ子「あらっ?そのギター懐かしいわね!どこにあったの?」

紬「さっき物置部屋を掃除したら奥から出てきたんです」

圭吾「…ひょっとしてこのギター先生の!？」

さわ子「ええそうよ」ニコツ…

梓「さわ子先生昔軽音部だったんですか!？」キラキラ

さわ子「ええそうよ、言ってなかったかしら?」

梓「去年の学園祭のライブのギターの演奏上手いなあって思ってたんですよ!!」キラキラ

さわ子「今の唯ちゃんよりは上手いかな?」ニコッ:

梓「今度ギター教えて下さい!」キラキラ

さわ子「ええいいわよ!」

唯「因みにこれが学生時代のさわちゃんです!」スッ:

梓「:やっぱりいいです:」

さわ子「なんでよっ!!」ガビーン!

圭吾「とにかく、このギター先生のなら持って帰って下さいよ」スッ:

さわ子「え:」スッ:

さわ子「:」げっ!カビ臭っ!!」ウツ!

圭吾（やっぱり:）

さわ子「うーん:」もう弾く時間もないし:」:」そうだ!このギターを売って部費の足しにでもしなさい!他の人に使ってもらおう方が

このギターにとってもきつと幸せよ!」

律「でもこのギターかなりの年代物って感じだなあ〜…」

さわ子「お父さんの友達から貰ったギターだから……………50年くらい前のギターかしら…………?」

圭吾「古いな…………」

さわ子「まあとにかく、そのギターを楽器屋に持って行って買い取ってもらいなさい!私これから職員会議があるから…………じゃあね♪」

ガチャン…………

紬「行っちゃった…………」

律「しよ〜がない…………帰りにいつもの楽器屋に寄るか…………」

圭吾「俺は行かね〜から」

慎・修「俺も…………」

律「ええ〜!!なんでだよ〜!!」

圭吾「だってその楽器屋かなり遠いから…」

律「たった15分じゃんか!」

圭吾「とにかく俺は明日のライブのために無駄な体力使いたくない

から行かん、わかったな？」

律「……ったく……で？ あんたらは何で来ないんだよ？」

慎弥「今日家に親いねえから寄り道せずに真っ直ぐ帰って来いって
愛美に言われてるから……？」

律「兄の威厳全くなしかよ……？」

慎弥「だから今日は勘弁してくれ……！！」パンツ！

律「……わかったよ……で？ 修一は？」

修一「俺は明日のライブに使う機材とかトレーラーに積み込む作業
の手伝いがあるから……」

律「トッ、トレーラー……？」

滯「なんか……凄いな修一の所は……？」

修一「……あつ、そうそう！ 明日のライブに一流の音響さんとか照
明さんとかが来てくれるらしいよ？」

律「マジかよっ！！！？ お前ん家どんだけ凄いんだよっ！！」ガビ
ーン！

梓「プロのライブみたいになりそうで明日がとっても楽しみです！
！」ワクワク

圭吾（…こんなに嬉しそうな梓の顔……久々に見たな……）フツ…

奈々「……」そろり…

慎弥「……？おい奈々！！どこ行くんだ？」

奈々「いっっ！！！！？」ドキンッ！

律「……まさか奈々まで来れないとか言うんじゃないだろうな？…
…」

奈々「げっ！！……なぜバレた……！！？」

ガシッ！！

奈々「いやああああっ！！」（泣）「ズルズル……

律「はいはい、行くぞ奈々」

奈々「ヘッ、ヘルプミ……！！」（泣）「ズルズル……

濤「？」

唯「待つてよろっちゃんっ！！」ヨイシヨッ…

紬「あらあら？」

梓「律先輩ったらもう……!!……それじゃ皆さん、また明日……!!」ペコリ……

圭吾「ああ、また夜にメールするから」

慎弥「…帰ったら洗濯物取り込まないと……」

修一「電車間に合うかな……」

梓「それじゃ……さようならです……!!」ガチャン……

圭吾「……帰ろ……」

……

〃〃圭吾宅〃〃

圭吾「ただいまあ……」ガチャ……

ミー太「にゃあ……」スリスリ……

圭吾「はいはい……あとで飯持って来てやるから少し待ってな……」スッ……

圭吾「……」ドカツ……

圭吾「ふい……疲れた……」コキッ……コキッ……

圭吾「……………」

圭吾「……さて……明日のライブはどんな髪型でいこうかな……」
ペラッ……

〃〃慎弥宅〃〃

慎弥「ただいm……」ガチャ…

愛美「遅いっ!」ビシッ!

慎弥「ええっ!!?」ガーン!

愛美「寄り道しないで真っ直ぐ帰って来てってあれ程言ったじゃない!!」

慎弥「寄り道してないのに……」ブツブツ…

愛美「お兄ちゃん!!ちょっと聞いているの!?!」

慎弥「聞いている聞いているって………ったく毎回毎回………お前本当田舎のばあちゃんに似てるな」

愛美「なっ……!!」ガーン!

慎弥「洗濯物取り込んだら俺7時まで寝てるから先に飯食っててくれ……」スタスタ…

愛美「ちよっ……お兄ちゃん!!」

ぎゃーぎゃー……………

〽〽修一宅〽〽

修一「〽♪」スタスタ…

修一「……げっ!!あのバカ親父……!!何自分のレーシングチームのトレーラー使ってたよ……!!?」

作業員「……これで最後ですか?高山さん」

修一父「ああ、すまないねこんな事お願いして…」

作業員「いえいえ……それじゃ明日の朝五時にまた桜ヶ丘高校で……」

修一父「ああ……それじゃまた……」

ブロロロン……!!

修一「……いくら何でもスケールがでかすぎだろ……?」

修一父「おお?なんだ修一帰ってたのか!」

修一「……だからあんまり目立つ事は止めろってあれ程言ったのに

……?」

修一父「まあまあ！細かい事は気にするな！」ハッハッハッ…

修一（こいつ……!!?）

修一父「それはそうと……お父さんのチームのクルマ急遽別のクルマにチェンジする事にしたんだ」

修一「へっ?なんで?」

修一父「実は今使ってるクルマのシャシーがもう限界だったんだ…
…昨日マシンメンテを担当してもらってる所から連絡があって…
…」

修一「ふうん……その新しいクルマって何になんの?」

修一父「新型のポルシェ」

修一「はあっ!!?」

修一父「明後日ぐらいには日本に来る予定なんだ」

修一「……?で?そのポルシェいくらしたんだ?」

修一父「約四千万ぐらいかな?」

修一「…………っ！！！」ズルッ！

修一父「今シーズンはシリーズチャンピオンを狙えるぞ！」

修一「…………バカだ…………？…………俺は地下室でドラムの練習してるから入って来んなよ…………」スタスタ…

修一父「頑張って練習してこいよっ！」

修一（うぜえ…………？）スタスタ…

…………一方、唯達は…………

唯「重いよ…………！！」フラフラ……

律「じゃんけんに負けたのはお前の責任だろ！」

紬「唯ちゃん頑張って〜♪」

唯「うう…………」フラフラ……

ブロロロ…………！

滯「…………ん？あのトラック…………高山レーシング…………まさかな…………」ハハハ…

律「漣〜！何やってんだ行くぞ〜！」

奈々「漣ちゃん！早く早く〜！」

漣「あつ、ああ………」スツ…

〜〜楽器屋〜〜

唯「お願いしま〜す！」スツ…

店員「はい！……それじゃ査定が終了するまで店内でお待ち下さい」

唯「は〜い♪」

奈々「このキーボードいいなあ〜……」キラキラ…

律「そーいや奈々が今使ってるキーボードって……」

奈々「お兄ちゃんのバンドの人のお下がりなんだあのキーボード」

律「すっ、すげえ………」

梓「……」ジーツ…

唯「な〜に見てるのあずにゃん？♪」ガバツ

梓「にゃはっ！？」ビクンツ！

唯「あずにゃん♪」スリスリ…

梓「やつ、止めて下さいっ!!こんなところで……!!」アセアセ…

唯「ええ?」ブーブー…

梓「もうっ……!!」

唯「……このギターって……」

梓「片山先輩と同じ黒のレスポールですね……」

唯「でも圭吾くん最近はあるの真っ赤なギターだよね……何であの黒のレスポールじゃないんだろ?」

梓「さあ……?」

店員「査定でお待ちのお客様!作業が終了しました!」

律「いくらになるんだろ?なあ?2~3万くらいかなあ?」

漣「さあ……あの古さだとそれくらいいたらマシな方だけど……」

店員「このギターですが……50万円で買い取らせてもらいます!」

律・唯・漣・梓・奈「……50万っ!!!!?」ガビーン!

.....

店員「……あつ、あの……?」

滯「ごちそうさまでしたっ!! よしっ!!」クルッ

律「待てっ!」ガシッ!

滯「だだだだって……!! ごひゃくまん!!」
……
(泣)「オロオロ

律「落ち着け……桁が変わってる……?」ポンッ

紬「ありがとうございます♪」スッ

律「おめくは躊躇なさすぎだ!!」ビシッ!

奈々「50万……何それおいしいの?」ボヘー…

梓「何意味わからない事言ってるんですか……?」

律「店員さん! ちょっと……!」チヨイチヨイ…

店員「はい?」

律「なんでそんな値段になったんですか?……まさかムギに気を遣
って……」ヒソヒソ…

店員「いえ、それは関係ありませんよ！」

……ギターについて説明中………

6人「………」ポカーン…

店員「とっ、とにかく！価値のあるギターって事ですよっ！！」
（汗）

〃〃某ハンバーガーショップ〃〃

律「いや〃……まさかあのギターが50万もするとは………」

梓「びっくりです…」

奈々「そんなにお金があったら欲しい物が沢山買えるね♪」

漣「……確かに………これだけの金額だと………」

梓「この事片山先輩達に報告しておきますね」ピッ…

律「まて梓っ！！」

梓「へっ?」

律「あいつにこの額を言ってみろ………そんな事したら………」

.....

圭吾「これとこれと……あとそれと……」

律「あつ、あの〳〵片山ちゃん? ? ? ……いくら何でもそれはちよつと……?」

圭吾「何だ?」ギロツ…

律「なつ、何でもありましえ〳〵ん! (泣)」

.....

律「……ってな事になりかねん……」

梓「あの人だと無いとは限りませんね……?」

奈々「ここのポテトおいし〳〵」モグモグ

律「とにかく、今回はこの事は圭吾達とさわちゃんには内密にだな……」

梓「っ!!」ハッ!

滯「あゝっ……!!!!」ガタガタ…

紬「……?」

唯「あわわわ……!!」ガタガタ…

奈々「……んぶっ!!?」ドキーン!

律「…どうしたんだよ皆? そんな慌てて…?」

滯「律! 後ろ後ろ……!!」チヨイチヨイ…

律「?」クルツ…

圭吾「何を黙ってるだってえ? ?りっちゃ? ゴゴゴ…

律「……あっ? ?」ダラダラダラ…

圭吾「……? ?」

~~~~数分後~~~~

律「ごっ、ごべんなざい……(泣)」ピクピク……

圭吾「ったく……」

奈々「…痛そう……」パクツ…

滯「……よくこんな状況で食べれるな……? ?」

奈々「だっておいしいんだもん♪」パクパク：

漣「……？」

梓「……先輩はどうしてここに？」

圭吾「家の猫の餌がちょうど切れてたからさつきホームセンターに行って来たんだ、ほらっ」ガサツ：

奈々「猫かぁ……あたし猫アレルギーなんだよなぁ……」ハア……

梓「奈々先輩がですか？」

奈々「うん……あたし猫大好きなのに……」

梓「そうですか……それはちょっと残念ですね……」

圭吾「……んな事より、その50万……何に使うんだ？」

漣「それがまだ……」

圭吾「皆が使えるモンを買った方がいいと思うぜ俺は？」

紬「何があるかしら……？」

梓「アンプ……とか？」

滯「それが一番無難かな……」

圭吾「まあとにかくまた皆で話し合って決めようぜ？……んじゃ俺  
帰るわ……」 スッ……

……

唯「……あんまり言わなかったね圭吾くん……」

滯「珍しいな……」

梓「なんか……片山先輩らしくなかったです……」

紬「……そうねえ……」

律「私だけ何故二発もあいつの鉄拳を……」 ウウ……

奈々「……」 パクッ……

滯「……それじゃ私達もそろそろ帰るか……」

律「ああ」

.....

〵〵 奈々宅〵〵

奈々「お兄ちゃんは今日は遅くなるって言ってたし……暇だなあ〵  
……」

奈々「……そうだ！借りてきたDVDでも見よう♪」

奈々「プレーヤーにセットしてと……」スッ……

〵〵〵〵♪

奈々「……りっちゃん達の演奏上手いなあ〵……」ジー……

奈々「……あつ、終わった……次は圭吾くん達の番かな？……」

〵〵〵〵♪

奈々「……」

奈々「……誰？？」

}  
F  
i  
n  
{

## #02 新歓ライブ!! (前書き)

この章から新キャラが登場します (||・ω・)／

名前 大田 結花

身長 152

関係 新一年生

……………です (・▽・)

## #02 新歓ライブ!!

〳〳新歓ライブ当日〳〳

さわ子「嘘……あのギター50万円にもなったの!? 凄いじゃない!!」

慎弥「すげえ……?」

修一「あんなボロだったのになあ」

圭吾「そんでこいつ昨日ギターの買い取り金一万円にしようとかふざけた事言ってたんだよこのバカが?」

律「あまりの金額の多さにおつ、おら気が動転してしもうてえ……  
:(泣)」ヨヨヨ……

梓「心が汚いですね……」

漣「昔からこうなんだ……」

律「お前らに言う資格ないだろう!!? (泣)」ウガー!

さわ子「とにかく、このお金は部費に計上しておくから……」

律「ええ……!?」ガーン!



さわ子「真面目に話せば全部あげたのになぁ〜♪」

律「そっ、そんなぁ〜（泣）」

漣「…まったく…律がいけないんだぞ…？」ハア…

梓「そうですよ、私はちゃんと話した方がいいって言ったのに…！」  
ハア…

律「……っ!？」イラッ!

唯「さわちゃん先生!」ハイッ!

さわ子「?」

唯「その札束で…頼っぺを…頼っぺを叩いて下さい!!」キラ  
キラ…

さわ子「……」ピシヤン…

唯「……ああ……幸せ……」／／／ウヘヘ…

律「お前はいいよなぁ〜……平和で?」

圭吾「バカが…?」ハア…

さわ子「しょうがないわねえ……このお金でひとつ何か買ってあげるから……皆でよく話し合っておきなさい……」

律「1つとか言わずに5つぐらいバババァンと!!」

漣「図々しい!」バチンツ!

律「あいたあっ!!」

さわ子「……そうだ♪今日のライブの為に衣装作って来たの♪ほらあ♪」バツ!

8人「制服でいいです」

さわ子「ええ?……じゃあこれは?」バツ!

漣「制服で」ズイツ!

さわ子「かわいいのに……」ブーブー……

奈々「皆どお?」フリフリ……

圭吾「お前は何しとんじゃっ!?」ガビーン!

さわ子「あら奈々ちゃんかわいいじゃない!」

律「いやそーゆー事じゃなくて…?」

紬「でも奈々ちゃんかわいいわぁ〜……………」♪「キラキラ…

梓「奈々先輩……………かわいい……………／／／」ジー…………

律「おいお前らもかよ?」

慎弥「……………／／／」ボー…………

奈々「慎弥くんどこ?」♪

慎弥「……………えっ!? あっ、いや……………その……………／／／」アセアセ…………

圭吾「動揺すんなアホ」スパンツ!

慎弥「っ!」

修一「……………」ニヤニヤ…………

さわ子「まあとにかく……………皆ライブ頑張っただけ? それじゃ……………」ガチヤン…………

律「さて……………そろそろ時間だし行くか……………」

滯「…もうそんな時間か……………」

奈々「頑張るぞぉ♪」

律「その前にまず服着替えろっ!？」

……………

〵〵講堂、舞台裏〵〵

律「…………去年よりなんか色んなモンが付いてるなぁ……………?修一のドラムセット…………」

唯「りっちゃんのドラムセットの何倍もあるね」

滯「なんせオーダーメイドだからな……………?修一のは……………」

梓「講堂の一番後ろの隅っこになんか怪しい人達が……………」チラッ

修一「怪しい人って……………?だから昨日言ったプロの音響さんと照明さんだって?」

圭吾「今年はかわいい娘いるかなぁ?」キョロキョロ…

梓「片山先輩っ!?!?」

圭吾「じょっ、冗談だって……？」

『以上、合唱部でした！』

律「あっ、終わった」

和「……それじゃあなた達、そろそろスタンバイお願いね」

修一「よし……ドラムを移動させるか……よいしょっど！……」ゴロゴロ……

梓「よしっ……！」スツ……

澪「……」ドキドキ……

唯「頑張るぞ〜！」

律「張り切り過ぎて歌詞を忘れたりするなよ唯？？」

唯「なっ、なんという事を田井中じゃん……？（泣）」

……

ガヤガヤガヤ……

純「まだかなあ……？」

憂「あともうちよつとで始まるんじゃない？」

『次は、軽音楽部によるバンド演奏ですっ!!』

憂「あっ! 始まった始まった♪」

ヴィーン……………

純「滯先輩カッコいいなあ……………!!」キラキラ…

唯『え……………新入生の皆さん!! 入学おめでとうございます!! 私達は放課後ティータイムというバンドを結成して活動しています!!』

〃〃舞台裏〃〃

圭吾「唯のMCにはいつもハラハラさせられて胃が痛い……………」ウウ…

慎弥「まあまあ……………」

修一「滯の奴……………緊張し過ぎてガツチガチだ……………」

圭吾「いい加減慣れろよな……………」ハア…

慎弥「全くだ？」

奈々「……っ!!!!」ガチガチ…

圭吾「お前もかいっ!?!」

……しばらくして………

ジャン……!!

唯『ありがとう!!!!』

パチパチパチパチ……!!

憂「わああ……!!!!／／」キラキラ…

純「皆スッゴいカッコよかったね憂!!」

憂「……!!!!」キラキラ…

純「……憂?」

バツ……!!

純「……あれ? 舞台の照明が……」

憂「……故障かな?」

『次は、片山圭吾君・山河慎弥君・高山修一君・宝井奈々さんによるバンド演奏ですっ!!!!』

純「山河先輩……あの人のベースの技術は凄い尊敬するんだよねえ  
〜……」

憂「お姉ちゃんも同じ事言ってたよ！山河先輩のベースはまるで歌  
ってるみたいだって……！！」

純「あの人の真似はできっこないね……」

バツー！

憂「あつ、照明ついた」

圭吾『え〜……皆さんこんにちは〜……軽音部で〜す……』

純「片山先輩は相変わらずだね……」ハハハ……

憂「うつ、うん……？」

圭吾『え〜……それと……ん？』

律（MCはいいから早く始めろっ！！）コソコソ……

和（早く始めて片山くん！）コソコソ……

圭吾「……早くしろってか？……」



修一「そろそろ始めるか……いくぞ」スッ…

奈々「オツケー♪」スッ…

慎弥「おう！」スッ…

圭吾「……そんじゃ聞いて下さい……HONEY……」スッ…

純「いよいよだぁ……！！」ワクワク…

憂「楽しみ……！！」ワクワク…

友成「兄貴頑張って下さーい！」

京助「頑張れー兄貴ー！！」

孝太郎「頑張れー！」

圭吾（こいつら……？）

律「……あのバカ3人？………」

澪「……？」

ジャラ〜ン……♪

圭吾「……ずっと眺めていた♪遠く♪幼い頃からあ♪今も♪色褪せたその景色は♪真白な壁に♪飾ってあるう♪」ジャカジャカ…

修一「…!!」ダダンッ!

慎弥「♪」ヴォーンッ!

奈々「♪」ポロン♪

圭吾「かゝわいた♪風をからませ♪あなたを♪連れてくのさあ♪」ジャカジャカ♪

圭吾「honey so sweet♪限りない夢を♪この両手に♪つかんでえ♪イエーイ!!」ジャカジャカ♪

修一「♪」ダカダカダカ♪

奈々（凄く楽しい……!!）ポロンポロン♪

慎弥「新人生の皆さん御入学おめでとうございま〜す!!」ボンボン♪

♪♪舞台裏♪♪

律「慎弥の奴テンションMAXだな?」ハハハ…

梓「でも、とっても楽しそうですね!」

澪「…だな……奈々の奴も楽しそうにやってるし……」フフッ…

唯「凄い迫力〜!!」

紬「奈々ちゃんさっきまでかなり緊張してたのに今は全然大丈夫そうね!」

律「ああ……けど修一のドラム2バスだからかなり扱いにくかったな……?」

滯「まあ多少は慣れただろ?」

律「一応な……?」

……プログラムを次々にこなし、いよいよ最後の曲の番になった……

律「よし行くぞ〜!」 タツ!

滯「こら律!! 走ったら……!!」

ガッ!

律「うわっとなとなとっ!!」 アセアセ

ガシッ!!

律「おっ?」

圭吾「何やってんだよバカ？」

律「もっ、申し訳ない……？」アハハハ…

圭吾「ったく……よしっ、皆位置についたか？」

8人「はい」

圭吾「んじゃ和、幕上げてくれ」

和「了解」

ヴィーン……………

新人生A「軽音部ってこんなにいたんだ……」

新人生B「意外だね」

純「おお……オールスターですか……」

憂「お姉ちゃんがギター……ちょっと心配……？」アハハハ…

律「え……この曲はそこにいる片山圭吾が作詞・作曲を手掛けました！」

圭吾「作りました」イエーイ

律「何だそのノリは？」

紬「まあまあまあ♪」

圭吾「この曲はちょっとテンポが速い曲と言いますか……なんというか……とにかくテンションが上がる感じに作ったつもりです、はい……」

律「……だそうです？」

漣（こんな真面目な圭吾初めて見た……？）

クラスメイトA「片山く！頑張れよう……！」

クラスメイトB「片山の彼女も頑張れよう……！」

梓「……！！！！／／／カァ……」

圭吾「うっせえぞバカども！！！！……？」キーン！

漣「……っ！！バカ！！声がでかい……！！」

慎弥（あいつら後で圭吾に殺されるなあ………？）ハハハ……

律「………？とっ、とにかく始めよう……！！？」



律「ありがとう♪」

圭吾「……」

滯（……このライブで新入生が入部してくれるかな……）

梓（……楽しかったな……）

紬「ありがとう～みんな～♪」

……

謎の少女「……」

謎の少女「……」スッ……

？「……ねえ！！○○ちゃん……！！」

謎の少女「……何？」ピタッ……

？「○○ちゃん……軽音部に興味あるの？」

謎の少女「……あなたに私がどの部に入るかは関係ないでしょ……」スッ……

？「……でっ、でも○○ちゃん中学の時バンドを組んで……」

謎の少女「その事は話さないでって言うてるでしょ!!」

？「……っ!!」ビクッ！

謎の少女「……とにかく……私にはもう関わらないで……!!」スッ……

？「……」

………

……音楽室……

律「……ぷはぁっ!! ライブ後の水は格別だなぁ!!」

紬「はいりっちゃん、タオル♪」スッ……

律「おっ？サンキュームギ♪」スッ……

滯「今年は何人くらい来るかな……？」

圭吾「2人ぐらいは来てほしいなぁ……」

律「……そうだ!! また勧誘しに行くか？」

慎弥「え……それはちよつとやだなぁ……？」



圭吾「なんで？」

修一「なんで嫌なんだ？」

律「そっか……あんた達は知らなかったんだっけ……………」

慎弥「律……頼むからあれだけは止めてくれマジで……………」

……………

~~~~敷地内~~~~

律「新入生の皆さん♪是非とも我が軽音部へ♪」

唯「いつでも大歓迎で♪」

紬「お待ちしてま〜す♪」

奈々「してま〜す♪」

慎弥「また今年もかよ……………」

澪「すまない慎弥……………」

圭吾「なんで俺まで……………」

梓「正直言ってこの着ぐるみ暑いです……………」

修一「……♪」↑意外と楽しんでる

圭吾「それに……なんだよこの動物シリーズの着ぐるみ……どっから持ってきたんだ?」

律「演劇部から借りてきたっ!!」ブイツ!

慎弥「演劇部もなんでこんなモン持ってた?」

修一「……しかし……暑いな?……」

圭吾「ある意味この中サウナだな?」

律「ほらあんた達もボーツとしてないでビラ配りなよ!!」

慎弥「配れたって……俺らの事にビビって誰も来ねーじゃんか?」

圭吾「……もーやってらんねえー!!?俺は先に音楽室に戻ってるからな!!?」スタスタ

律「あっ!おい圭吾ー!!」

梓「怒って帰っちゃいましたね……?」

漑「私達もそろそろ戻ろう……もしかしたら音楽室に入部希望者が来てるかもしれないし……」

律「あれえ?漑ちゅわんやけに+思考じゃん?♪」ニヤニヤ……

滯「うっ、うるさいっ！……！／／／」ゴツンッ！

律「いдаあっ！！（泣）」

梓「……？」

……

……一方、圭吾は……

圭吾「こんな不気味な着ぐるみで勧誘なんかしても誰も来ねえっての……！」スタスタ……

圭吾「……早く着替えて帰ろ………ん？」

謎の少女「………」チラッ……

圭吾（なんだあの娘……音楽室を覗き見して……）

謎の少女「………軽音部………か………」

圭吾「何してんだ？覗き見なんかして？」

謎の少女「うっ………！」チラッ……

圭吾「……もしかして………入部希望？」

謎の少女「………！」アングリ……

圭吾「……ああごめんごめん？こんな格好じゃビクリするよな？」
スッ…

謎の少女「……あっ……あなたはさっきのライブの……」

圭吾「あれ？ライブ見てくれたの？ありがとなー！」

謎の少女「…いえ……」

圭吾「それで何？入部する気にでもなったの？」

謎の少女「………いいえ……」

圭吾「っ！！！？」ズルッ！

謎の少女「……それじゃ私はこれで……」スッ…

圭吾「えっ、あっ！！ちょっと……！！」

圭吾「……行っちゃった……？」

律「どうかしたか？圭吾？」

圭吾「今黒髪の女の子と遭遇しなかったか？」

律「……そーいやさっきそこですれ違ったなあ……それがどうか

したのか？」

圭吾「……あのな、さっきその娘が音楽室を覗いてたんだよ」

梓「……もしかして……入部希望者ですか!？」キラキラ…

圭吾「さあ……そこまでは……」

梓「そう……ですか……」シュン…

漣「梓……」

紬「とにかく、お茶にしましょう♪」

奈々「わ～い♪お菓子お菓子～」

唯「楽しみ♪」

律「まったく……お前ら小学生かよ？」ハハハ…

慎弥「ふう～……疲れた疲れた～……」ガチャ…

圭吾「……ん？またお前ピアス空けたのか?？」

慎弥「?ああ!!今回は軟骨にプスツと……」

律「うわあ～……痛々しい～……?？」

慎弥「何ならお前らのも空けてやろうか?（笑）」

圭吾「今までは真面目に勧誘してなかったかよ?？」

律「……てへっ♪」

圭吾「てへっ♪……じゃねえよ?」スパンツ!

律「あたっ!!!」ズキズキ…

漣「1人か……」

漣「……………」

……………

梓「せんぱい……………寂しいよお……………」(泣)「シクシク…

……………」

漣「……うわああ……………」梓「……………」ごめんよお……………」(泣)「ダキッ!

慎弥「なっ、なんだあ…………?？」

梓「ちよっ…………?!?」漣先輩…………?」アセアセ…

紬「漣ちゃんったら…………大胆…………」ウツトリ…

律「ころころ?」

奈々「おお…………」ジ…

修一「いやいやいやいや……?」

圭吾「……んじゃ俺帰るわ……今日のライブで疲れたし……」ス
ッ……

梓「あっ、あの!! 片山先輩!!」

圭吾「…なんだ?」クルッ

梓「……やっぱ何でもないです……／／／」

圭吾「? おかしな奴だな……んじゃあなあ……」スタスタ……

ガチャン……

律「……何を言おうとしたんだ梓?」

梓「ひっ、秘密ですっ!!／／／」カー……

慎弥「気になる……」

………

~~~~廊下~~~~

圭吾「♪」スタスタ……

?「……あっ、あの!!」ドキドキ……



圭吾「ん？俺？」ピタッ

？「実は……片山先輩にお願いがあるんです……！！！」

圭吾「何？入部希望？」

？「あつ、すみません……違います……？」

圭吾「あつ、そう？」

？「すつ、すみません！！！！……あつ、私 本城槇と言います！！！」  
ペコリッ！

圭吾「ああ別にそんな堅苦しくしないで！？」アセアセ：

槇「そのお願いなんです……」ゴソゴソ：

圭吾「……」

槇「……あつ……あつたあつた……この写真に写ってる黒髪の娘……軽音部に来ませんでしたか！？」

圭吾「……ああ、その娘ならさっき俺らの部室覗いてたっけ……」

槇「やっぱり……結花ちゃん音楽を捨ててはいなかったんだ……」

圭吾「結花？」

槇「彼女の名前です、結花ちゃん中学の時バンドを組んでたんですけど……」

圭吾「けど………何？」

槇「……いえ！！何でもありません！！」アハハハ…

圭吾「…？」

槇「お願いします！！……結花ちゃんを……結花ちゃんを説得して下さいー！！」ペコッ！

圭吾「説得つつつてもなあ………？」ポリポリ…

槇「お願いします………！！」ポロポロ…

圭吾「おっ、おい………大丈夫かよ………？」アセアセ…

槇「…うつ………うつ………！！」ヒック…ヒック…

圭吾「………わかった………一応説得はしてみるけど………あんまり期待はしない方がいいと思うぜ？」

槇「………グスッ………ありがとうございます………！！」ペコッ！

圭吾「ほら………もう泣くなって………せっかく可愛い顔してんのに泣いてちゃ台無しだよ？」

槇「……はい……」グスツ……

圭吾「……じゃ……」スツ……

………

……商店街……

圭吾「……しかし……その結花って娘……俺昔どっかで見たような見なかったような……」ウーン……

圭吾「……うん……」スタスタ……

圭吾「……あつ……コンビニ……ちよいと腹減ったし……なんか買って帰るか……」

……某コンビニ……

圭吾「……」スタスタ……

圭吾（……あつ！あの娘は………！）

結花「……」ペラッ……ペラッ……

圭吾（……俺には気づいてないらしいな……どのタイミングで説得するか……）コソコソ……

結花「……」パターン……スッ……

圭吾（おっ？店を出るらしいな……）

〵再び、商店街〵〵

結花「……」スタスタ……

圭吾……………  
コソコソ……

圭吾（……俺……なんかめっちゃストーカーみたいじゃん？）  
コソコソ……

結花「……」スタスタ……

圭吾（……こんなの引き受けるんじゃない？）

圭吾（……もう帰ろうかな……？）

ヤンキーA「ねえねえ！君もしかして桜高の生徒だね？」

結花「……なんかようですか？」

ヤンキーB「俺らと一緒にカラオケでも行かない？♪」へへへ……

圭吾（……なんかちょっとヤバい雰囲気だな……あつ、裏路地に入った……！）スッ……

結花「……ナンパなんてしないで勉強ぐらいしたらどうなんですかあなた達？」

ヤンキーA「あぁんっ!？」ギロツ…

ヤンキーB「まあ落ち着けて……そんな事言わないでさぁ……俺らと遊ぼうよ♪」ヘラヘラ…

結花「生理的にムリ」キツパリ

圭吾（ズハッと言うなぁ……？）ハハハ…

ヤンキーB「おい……調子に乗るのもここまでだぜ？これ以上調子ぶっこいてると俺らマジでキレルよ？」

ヤンキーA「調子に乗んなよオラァッ!!？」ズイッ

圭吾（……女子相手に本気って……？）

結花「キレルならキレなさいよ……どうせ大したことないくせに……」フツ…

ヤンキーAB「っ!!!？」ブチンッ!

圭吾（あーあ……完全に怒らせた……？）

ヤンキーA「このクソアマーっ!!!？」グワッ!

圭吾（ヤバい！！助けに行かねえと……！！）タッ！

結花「……」ヒラリ…

ヤンキーA「なっ、何だと！！？」クッ…

結花「……何？たったそれだけ？」スッ…

圭吾（嘘……？）ピタッ…

結花「……せいっ！！！」ブンッ！

ヤンキーA「ぐほお……！！！」ザッ…

圭吾（すげーな？……一発で相手の膝をつかせるとは……？……しかも今の突きは……）

結花「……ふんっ……」スッ…

ヤンキーB「ふざけやがって……！！！」バッ

圭吾（おいおい？……女相手に鉄パイプって……？……ダッセえ  
く……？）ポリポリ…

ヤンキーB「死ねやあ……！！！」グワアッ！

結花「……」ガシッ！

ヤンキーB「何い!!?」

圭吾（すげえ?）

結花「……まだヤル気?」　ハア…

ヤンキーB「くっ……!」

圭吾（……そろそろ俺の出番かな?）　スッ…

結花「……どうするの?」

ヤンキーB「……っ!」

圭吾「もうその辺にしとけよ」　ザッ…

結花「!?」　クルッ…

ヤンキーB「だっ、誰だ!!?」

ヤンキーA「うっ……」

圭吾「俺? 俺は桜高の片山ってモンだ……大田……結花だな?……  
本城槇って娘から君の事を色々聞かせてもらったよ……」

結花「…あの娘ったら……余計なことを……」

ヤンキーB「おいっ！何の用だっ！！」

圭吾「うっせえな……今取り込み中だ」

ヤンキーB「こっちも取り込み中なんだよ！？」

圭吾「まああの野郎は無視しといて……君中学の時……バンド組んでたんだって？」

結花「……………」

圭吾「……トラブルがあって解散したらしいな……」

結花「……………」

ヤンキーB「おいっ！？」

圭吾「うるせえつつってんだろぅがあゝ！！！？？埋めるぞてめえ！！！？？」ギロツ

ヤンキーB「ひいっ！！？？」ビクッ！

結花「……………」

ヤンキーA「……くそっ……気を失ってた……ん？……あっ！！！！！！」  
おおおおお前は！！！！」ビクビクッ！



ヤンキーB「どうしたんだよ？」

ヤンキーA「おい早く逃げるぞ！！俺大分前こいつにやられたんだよっ！！」アセアセ

ヤンキーB「はあっ！！？」

圭吾「……ああ……お前確か梓を誘拐した奴か……」

ヤンキーA「すっ、スンマセンでしたあゝ！！！！今日のトコは勘弁して下さいっ！！！」↑土下座

ヤンキーB「おっ、おい……？」

圭吾「……なんか俺めっちゃ悪い奴みたいじゃん……？」

結花「……片山先輩あなた一体何者なんですか？？」

圭吾「俺はそこら辺にいる普通の高校生だよ？」

ヤンキーA「ホントにスンマセンでした！！！！ほら行くぞっ！！！！」ガシッ！

ヤンキーB「おいおいおいおいおいっ！！？」

……

圭吾「……おい、大丈夫か？」

結花「大丈夫ですけど……何故片山先輩がこんな場所に……？」

圭吾「そつ、それは……？（言えない……尾行してたなんて……？）」

結花「……まさか……尾行をし……」

圭吾「なあ腹減っただろっ！？？なんかおごってやるからついてくるか！？？」アセアセ

結花「はっ、はい？……ありがとうございます……？」

……  
〳〵某ハンバーガー店〳〵

結花「……」ズズズ……

圭吾「ホントにジュースだけでいいのか？遠慮すんなって」

結花「……私……少食なんで今食べたらず飯食べれなくなっちゃうんで……」ズズズ……

圭吾「あつ、そうですか？」

圭吾「……そんじゃさっきの話に戻すけど……いいか？」

結花「……いくらあの娘の願いがあっても……私は音楽を捨てました……だからもう私は音楽をしません……」ズズズ……

圭吾「……だったら……なんでさっき俺らの部室を覗いてたりしてたんだ？それはまだ音楽に未練があるからだろ？違うのか？」

結花「……」

圭吾「俺は別に無理には引き止めたりはしないけどよ……自分がやりたい事をすればそれでいいんだよ……」

結花「……」

圭吾「……まあ……よく考える事だな……意地はってないで素直に……」

結花「……あなたに何がわかるの……？」

圭吾「ん？」

結花「あなたに一体何がわかるのよっ！！私が……どれだけ辛い思いをして音楽を捨てたか……！！」ポロポロ……

圭吾「……」

結花「……うつ……うつ……！！」ヒック…ヒック…

圭吾「……詳しく……話を聞かせてくれないか？……音楽を捨てた理由を……」

結花「……」ヒック…ヒック…

……およそ二年前……

〵〵〵某貸スタジオ〵〵〵

ジャン♪……………

メンバーA「今のは良くなかったか？」

メンバーB「完璧だったなっ!!」

メンバーC「この調子なら次のライブも大丈夫ね!!」

結花「……」

メンバーA「結花もかなり良かったぞ!？」

結花「…あつ、ありがとう……／／／」

メンバーB「……やばっ!!もう7時回ってるよ…!」アチャー…

メンバーC「じゃあもうそろそろ帰る?あまり暗くなったら危ないし……」

メンバーA「そうだな……」

結花「……しまった……お母さんに今日遅くなるって言うの忘れてた……」

メンバーC「結花ちゃん？もう帰るよ？」

結花「あっ……うん、ごめんごめん……」

……

〃〃結花宅〃〃

結花母「あなた今何時だと思ってるの！！？もう7時半よっ！！？」

結花父「結花っ！！遅くなる時はちゃんと前もって言うておくようになっ！ってあれ程言っておいただろっ！！」

結花「……」

結花母「ちゃんとお父さんにも謝りなさいっ！！」

結花「……」プイッ

結花父「……っ！！」プチッ！

結花母「結花っ！！」

結花父「もう我慢ならんっ!!今すぐお前のギターを叩き折ってやるっ!!そもそもウチは昔から代々伝わる伝統ある空手道場だっ!!ウチにはこんなモノはいらんっ!!」ガシッ!

結花「いやっ!!!!放してよっ!!!!」ググッ

結花母「お父さんっ!!いくら何でもやり過ぎよっ!!!」

結花父「これぐらいしないと気が済まんっ!!!!言う事を聞きなさい結花っ!!!」

結花「嫌だ放して放してよっ!!!!」グググッ…

結花父「いい加減にしなさい結花っ!!!!」スッ…

パチンッ!!……………

結花「うっ…………!!!」

結花母「お父さんっ!!!」

結花父「ハアハア……………こんなモノ……………こうしてやるっ!!!」バツ!

結花「やっ、やめてえっ!!!!!!」

バキンッ!!!!……………

結花「…………っ!!!」

結花父「……いいか結花、お前はいずれこの道場を継がなくてはならない運命だ……それだけは頭の中にたたき込んでおけ……」スタスタ……

結花「……っ！！！」プルプル……

……それ以来……結花はバンドメンバー達とは関わらなくなり、バンドは自然消滅した……

……

結花「……」ヒック……ヒック……

圭吾「……ひでえ話だな……」ポリポリ……

圭吾「……結花ちゃんよ……ホントは軽音部に……入りたいんだろ？」

結花「……入り……だい……でず……ギダー……弾ぎだい……でず……！！」ヒック……ヒック……

圭吾「決まりだな……よしっ！！今から大田道場に行くかつ！！」

結花「えっ……？」グスッ……

圭吾「実は俺小学校から空手やってて結花ちゃんの親父さんとは顔見知りなんだよ」

結花「でも……」

圭吾「大丈夫だよっ!! 絶対説得してみせるって!」ニッ!

結花「片山先輩……」

圭吾「でもその前に……」スッ:

結花「?」

圭吾「お前らいつまでそこで盗み聞きしてんだよ?」

7人「っ!!」ビクッ!

結花「えっ?」

律「いつ、いやあゝ!!? 偶然だなあゝ!!?」アセアセ

唯「ほっ、ほんと偶然だねえゝ!」アセアセ

漣「そっ、そうだなっ!」アセアセ

紬「ほっ、ほんと偶然よねえゝ!」アセアセ

梓「まっ、全くですっ!!?」アセアセ

慎弥「きっ、奇遇だなあゝ圭吾ゝ!!?」アセアセ



修一「だっ、だなっ!!?」アセアセ

結花「!?!」

圭吾「ハァ?……まあいい?……それより……話、聞いてたんなら……わかってるよな?」

律「あぁっ!!必ず結花のお父さんを説得させるぞ!!」

唯・紬「おっっ!」

漣「……でも……結花ちゃんのお父さんってどんな人なんだ?」

梓「私も気になります…」

結花「私の父は凄く厳しい人なんです……」

圭吾「お前ら結花ちゃんの親父さん見たら多分腰抜かすと思うぜ（笑）」

7人（それだけ恐ろしい人という事ですか…?）

圭吾「それはそうと……奈々の奴どうしたんだ?」

律「あいつなら用事があるからって言って先に帰ったぞ?」

圭吾「正直奈々の奴助かったな……」

7人（だからただけ恐ろしい人なんですか？）

圭吾「無駄話はこちらまでにしてと……早く行こうぜ？大田道場まで結構遠いから」

漣「そっ、そんなに遠いのか？」

結花「〇〇町です」

修一「なんだ、俺の近所じゃんか！」

律「それでも遠いな……？」

梓「けどそれも結花ちゃんの為なんだから頑張らましようっ！！」

律（梓がやけに張り切ってる…）

唯（あずにゃんかなり張り切ってる…）

漣（梓の奴かなり張り切ってるな……）

紬（梓ちゃんったら……／＼／＼）

圭吾（一人視線が怪しい奴がいる……）

慎弥（……もう帰りたい？）

修一（…腹減った……なんか食いたい……）

……  
一体どうなるのやら……

~~~~~

#03 説得!!

結花「…ここが私の家です……」

律「おお……？なんか迫力があるな……？」

唯「スッゴいおっきな門だね……」

漚「きつ、緊張するな……」ドキドキ…

紬「私こうゆうのに憧れてたの♪」

梓「なんですか？」

紬「だってカッコいいじゃない♪」キラキラ

梓「……？」

圭吾「……大田道場か……何年ぶりだろ……」

慎弥「…なあ圭吾？俺もう帰っていい？？」

圭吾「てめえ……？」ギロツ…

慎弥「スンマセン！今の言葉撤回させて下さい！？」

修一「おい？」

圭吾「……よしっ……じゃあ行きますか……!!」スッ……

結花「ではこちらへどうぞ……」スタスタ……

………

ガラッ!

結花「ただいま……」

結花母「あらお帰り!!……結花……その人達は?」

結花「学校の先輩」

結花母「あらまあ……結花がお世話になってます〜!」

8人「あっ、いえいえ……?」

結花母「それで結花、今日はどうしたの?学校の人達を大勢連れてきて……?」

結花「……そっ、それは……」モジモジ……

律「実は今日結花ちゃんのお父様にお話があってお伺い致しましたっ……!」ビシッ!

結花母「は、はあ……?」

圭吾「…お母さん……今館長さんは道場にいらっしゃるんですか？」

結花母「え、ええ……でもどうして……」

圭吾「ちよっとお話したい事がありました…」

結花母「…もしかしてあなた圭吾君!？」

圭吾「はい……でもよく覚えてますね……俺の事……?」アハハ…

結花母「こんなイケメンさんなんだもん、覚えてるに決まってるじゃない〜!」

圭吾「ア、アハハハ……?」ヒクヒク

結花「おっ、お母さん!!?」

結花母「あっ、ごめんなさい!!じゃあ皆さん、あがって下さいな!」

結花「…皆さんどうぞ」スツ…

7人「お邪魔します!」

圭吾「お邪魔します…」スツ…

.....

~~~~道場~~~~

結花「お父さんただいま……」ガラッ……

結花父「おお、早かったな……ん？その人達は？」

結花「えっと……その……学校の先輩方っ！」アセアセ……

結花父「そうかぁ……ん！？君は……！」

圭吾「片山です……お久しぶりです、大田さん……」ペコッ……

結花父「やっぱり片山君かっ！！久しぶりじゃないかっ！！」ハッ  
ハッハッ……

圭吾「どうも……」

結花父「それで今日はどうしたんだ？稽古でもしにきたのか？」

圭吾「あっ……今日は稽古じゃなくて……？……実は大田さんにお話  
がありました……」

結花父「話？」

圭吾「はい…」

……………

圭吾「……という事なんです……」

結花父「……」

圭吾「…お願いします大田さん…」 ペコッ…

結花父「……わかった……君とは長い付き合いだ……」

圭吾「それじゃあ……!」

結花父「しかし!……条件が一つある…」

圭吾「じょつ、条件ですか!?」

結花父「そうだ…」

律「まっ、まさか結花のお父さんと試合とかないよな……?」 ヒソ  
ヒソ…

澪「わからないけど……その可能性は無いとは限らないし……  
?」

唯「どうなるんだろう?」

梓「片山先輩は空手三段らしいですけど……もしそうだとしたら勝ち目がないですよ……?」



紬「まだわからないわよ梓ちゃんっ！あきらめちゃダメよっ！」

梓「ムギ先輩……」

結花父「瓦割り10枚……一発で出来たら結花の軽音部への入部はそっちの自由だ……しかし……もしも一枚でも割れてなかったら……この話は無しだ……それでもいいかな？」

圭吾「…はいっ！」

梓（よかった……試合はさすがにありえないよね……）ホッ……

結花「かつ、片山先輩っ！！無茶ですっ！！……10枚なんて……手がおかしくなってもいいんですかっ!？」

圭吾「さあ……やりますか……」パキッ……ポキッ……

結花「片山先輩っ!!」

慎弥「大丈夫だよ……圭吾を信じろ……」ポンッ……

結花「でっ、でも……!」

修一「あいつはやる時にはやる奴なんだ……何も心配することないよ……」

律「そうだぜ結花？あいつはやる時はやるんだ!!」

唯「大丈夫だよ結花ちゃんっ!!きつと上手くいくよっ!!」ニコッ

潐「圭吾は見た目はぼーっとしてるけど、いざというときには頼りになるんだ……」

紬「マイナス思考じゃなくてプラス思考でいきましょ結花ちゃん♪」ニコッ

結花「皆さん……」

梓「……片山先輩……」

結花父「……よし……」

圭吾（……とは言ったものの……）チラッ…

弟子A「よいしょっ……と……」ゴトッ…

弟子B「結構分厚いなこの瓦」ヨイシヨッ…

圭吾（……流石に10枚はキツいな……？）パキッ…ポキッ……

律「しっかりテーピングしたか圭吾？」

圭吾「…ああ……」

結花父「片山君……準備はいいかい？」

圭吾「…いつでもOKっす……」パキッ…ポキッ…

結花父「それじゃ始めてくれ…」

圭吾「…」スッ…

……シ～ン……

圭吾「…」

律・唯・滯・紬・梓「……」

慎弥（頼むぜ……圭吾……！）

修一（…お前なら必ずできるっ！）

結花「……」ドキドキ…

結花父「……」

圭吾「……………っ！…！」ブンッ！

バコオオオンッ！！！！！

結花「……………うっ！」

圭吾「…ハアハア……………くっ……………！！！」プルプル……………！」

唯「どっ、どうなったの！！？」

律「せっ、成功したのかっ！！？」

澪「頼む……………全部割れててくれ……………！！！」

紬「……………っ！！！！皆見てっ！！！！全部割れてるわっ！！！！！」

梓「……………っ！！！！…ホントだ……………全部割れてますっ！！！！！」

慎弥「すっ……………すげえよ圭吾っ！！！！！」

修一「なんてラッキー奴なんだ……………」

結花「……………嘘……………全部割れてる……………」

圭吾「…ハアハア……………大田さん……………全部……………割りましたよ……………」  
へへ……………

結花父「……………ああ……………私の負けだよ……………見事だった……………」

圭吾「…へへっ……………ありがとうございます……………うゝうっ！！！！！」ズキ

ンッ！

梓「片山先輩っ！！！」タッ！

律「おい圭吾大丈夫かっ！！？」タッ！

滯「まずいぞ……拳が紫色に……！！！」

結花「今氷を持ってきましたっ！！」タッ！

紬「私も行くわっ！」タッ！

唯「わっ、私はどうしたら……！」オロオロ……

律「お前は少し落ちつけっ！」ビシッ！

慎弥「ったく……張り切りすぎだっつーの……」ハア……

修一「まあ……アレはアレで圭吾らしいからいいじゃないの……」  
フッ……

圭吾「……いってえ……骨折れた……」

滯「何のんきな事言ってるんだっ！！」

梓「そうですよっ！！笑い事じゃないんですよっ！！？」

圭吾「怒られた…？」

律「当たり前だ？」

結花「氷持ってきましたっ!!」ハアハア…

紬「今タクシー呼んだからすぐに病院に行って圭吾くんっ!!」

圭吾「…おお……わりいなそこまでしてもらって……」ハハハ……

紬「もうすぐ着くから急いで!!」

圭吾「…ちょっと待ってくれて……？」イテテテ…

梓「ほらっ、しっかりして下さい!」

圭吾「…へい……」

結花父「……オホンッ!!……君たち、結花をよろしく頼んだ…  
…」

律「任せて下さいっ!!」

唯「結花ちゃん♪よろしくねえ♪」ガバッ

結花「ふえっ!!?!?／／／」カー……

律「あゝ……気にしないで？……挨拶代わりみたいなもんだから……？」

結花「／＼／＼」ボンッ

慎弥「あゝあ……？顔真っ赤になっちまってるよ……？」

紬「いいわねえ……」キラキラ……

慎弥「何妄想しとるんだオメーは？」コツンッ

紬「あいたあゝ……？」ズキズキ……

ギャーギャー………

圭吾「……全く……？」ハア……

結花父「……仲がいいんだな……君たちは……」

圭吾「……まあ一応……？」

結花父「……君たちのおかげで……目が覚めたよ……ありがとう……」

圭吾「……いえ……」

弟子A「あの～……すみません……門の前にタクシーが止まってるんですが……」

圭吾「あつ、それ俺だ……じゃあ大田さん……俺はこれで……」ペ  
コッ……

結花父「ああ……またいつでも来なさい……今度ウチの者と手合わせでもしてやってくれ」

圭吾「勘弁して下さいよ?……」ハハハ……

梓「せんぱい!? タクシー来てますよ?」

圭吾「わかった! 今行く!」タタタツ……

……

結花父「……」

結花「……」

結花父「いい先輩達に出会ったな、結花……」

結花「……うん／＼／」

結花父「……結花、後でお父さんの部屋に来なさい……渡すものがある……」

結花「…渡すもの?」



結花父「ああ…」

……次の日の朝……………

〓〓〓教室〓〓〓

ザワザワザワ…………

圭吾「ウィース……」ガラツ……

クラスメイトA「あつ、片山くんおはよ……………って片山くんその手  
どうしたの!!?」?

クラスメイトB「何やらかしたんだよ片山〓?」

クラスメイトC「喧嘩でもしたのか?」

圭吾「…バゝカ……何もやらかしてねえゝよ……ただのケガだよケ  
ガ…………?」スタスタ…

律「……でもしばらく圭吾ギター弾けないからどゝしよゝか……」

澪「……確か……あの子ギター経験者だって言ってたような……」

唯「おおっ!!? またまたギター仲間が増える♪」

紬「よかったわね唯ちゃん♪」

律「あーよかったよかったな」↑軽くあしらってる

唯「あしらわれた…?」

慎弥「よく圭吾、調子はどうだ？」

圭吾「ああ……利き手が使えなくなると不便だな……飯もロクに食えねえ……」ガタン…

律「梓にア〜ンってしてもらえば?」(笑)

圭吾「?」ゴツンツ!

律「あんぎゃあああ〜っ!……!」(泣)

修一「バカ……?」

漣「…?」

唯「あららあ〜……?」

紬「あらあらまああ?」

圭吾「まだ左手が残ってんだよ?」

慎弥「……?……あれっ?そーいや奈々は?」

圭吾「なんだ？まだ来てないのかあいつ？」

澤「いつもなら早く来てるのに……」

律「あいつが遅刻なんて珍しいな……」

修一「誰かさんと違って見た目は天然なのに遅刻はした事ないからなあ……」↑唯の方を見て言ってる

唯「……へっ？？」

ガラッ………

さわ子「みんな～！席に着いて～！出席取るわよ～！」

さわ子「さてと……あらっ？片山くんその手どうしたの？」

圭吾「あ～…これっ？昨日成り行きで瓦10枚割ったら見事に骨折した……」

さわ子「成り行きで普通瓦10枚は割りませんっ！！？何馬鹿な事してるのあなたはっ！！！！？」

圭吾「怒られたよ……？」

慎弥「ったりめ～だよ普通は？……どこの世界に成り行きで瓦10枚割るバカがいんだよ？」

さわ子「全く……あれっ？宝井さんはお休み？」

律「さわちゃん何も聞いてないの？」

さわ子「まだ休むっていう連絡もきてないし……どうしたのかしら……」

ガラッ……

他の先生「ホームルーム中失礼します、山中先生……ちょっと……」

さわ子「あっ、はい……」

……

さわ子「……そうですか……わかりました……」

ボタン……

さわ子「今宝井さんのお兄さんから学校に連絡があって今日宝井さんは風邪でお休みです」

滯「……風邪か……」

紬「……帰りにお見舞いに行っておけないと……」

圭吾「……………」ボーツ……

圭吾（…………そーいや結花ちゃん…………ギターどうするのかな…………今結花ちゃんはギター持ってないし…………）

…………一方、結花の教室…………

結花「…………」ガラッ……

槇「……あつ、結花ちゃんおはよ…………えっ!? 結花ちゃんそのギター…………!?!?!?」

結花「…………」ゴトツ……

槇（…………心をひらいてくれたんだ…………結花ちゃん…………）フフッ……

…………昨日、唯達が帰った後…………

結花父「結花、この封筒に入っているお金でギターを買ってきなさい…………」スッ……

結花「……えっ?…」

結花父「ギターがなかったら意味がないだろ？さあ早く楽器屋に行  
って来なさい」

結花「……お父さん……ありがとう……！！」

結花父「ほら……早く行きなさい……」

結花「……うんっ！」

……

結花（……ありがとう……お父さん……）

……一方、梓は……

梓（……どうしよう……昨日のゴタゴタで片山先輩の誕生日プレゼ  
ント渡しそびれちゃった……1日過ぎた後に渡すっていうのは  
あれだしなあ……？）ハア……

憂「どうしたの梓ちゃん？ため息なんかついて？」

梓「あ……いや別になにも……」アハハ……

純「片山先輩となにかあったとか？（笑）」ニヤニヤ……

梓「べっ、別になにもないもんっ！！／／／カァー……

純「へえ…?」ニヤニヤ…

梓「ほっ、ホントだもんっ!!／／」アセアセ…

〃〃〃奈々宅〃〃〃

哲也「……それじゃ……お兄ちゃん仕事行って来るから……何かあったらすぐ電話しろよ?」

奈々「うん……」ゴホゴホ…

哲也「じゃあ行ってくるな……大人しく寝とけよ?」

奈々「うん……行ってらっしゃい……お兄ちゃん……」ゴホゴホ…

哲也「じゃあな……」スッ…

ガチャン………

奈々「………」ゴホゴホ…

奈々「………風邪ひくなんて………参ったな………」ゴホゴホ…

}  
f  
i  
n  
{



### 休憩!!

律・唯・奈「休憩だぁー!!!」イエーイ

圭吾「うるせーよ?」

漣「……まあ、アニメの方は無事終了したみたいだし……」

紬「そういえば映画化が決定したらしわね私達♪」ワクワク

梓「はいっ!! 凄く楽しみですねっ!!」ワクワク

律「私達もいよいよハリウッド進出かぁ?」(笑)

梓「流石にそれは無理かと……?」

圭吾「……まあ俺達は架空の登場人物だから……頑張れよ……」

慎弥「いいよなぁ……映画……」ハア……

修一「うらやましい事か?」

奈々「私も出たいなぁ」

結花「奈々先輩、現実を見てください……」キツパリ

奈々「うつ……結花ちゃんそんな……グサツと……？」ウウ……

律「結花はハッキリ言うよなあ……？」ハハハ……

圭吾「……そーいや唯の奴どこ行ったんだ？さっきから会話に入ってきてないけど……」

滯「確かに……どこに行ったんだろ……」

唯「みんなあゝ！！こっちに來てえゝ！！」

慎弥「あ、いた」

律「どこ行ってたんだよ唯」

唯「探検してたらこんなの見つけたんだゝ！」

紬「なあにそれ？」

唯「わかんないけど……なんか甘い匂いがする……」クンクン……

律「開けてみよゝぜ♪」

滯「こっ、こら律っ！！」アセアセ

パカッ……

梓「こっ、これは……!!」

圭吾「ケーキ……だな……」

慎弥「なんか書いてあるぞ？」

~~~~内容~~~~

祝「!!けいおん!!映画化決定おめでとう!!」

作者より……

……

澤「…作者……」

律「すっ、スゲェ泣きそう何ですけど今……」

結花「作者も粹な事しますね……」

圭吾「……ん？」

修一「…どうした？」

圭吾「今……そこに誰かいたような……」

修一「まさか…」ハハハ…

律「とりあえず食べよ〜ぜ〜♪」

梓「そうですね!」

唯「ケーキケーキ♪」

奈々「おいしそ〜♪」

漚「全く……しょうがないな……?」

律「あれえ〜? 漚ちゃんいらなんだあ〜?♪」ニヤニヤ…

漚「だっ、誰もいらなんて言っていないだろっ!!」／／／「アセアセ

紬「今切り分けるから待ってて♪」スツ…

………

作者「ふう……危なかった……」

作者「……彼らにはあれでも食べてもらってパワーをつけてもらいますかね……」

く
お
わ
り
く

#04 お見舞い!!

漣「……………」

圭吾「…………さっきから何広告ばっかみてんだ？」

漣「ん？…ああ、この広告に載ってる棚が在庫処分セールでかなり安くなってるんだ…」

圭吾「どれ…………めっちゃ安いじゃん！これくらいの値段だったら部費でなんとかなるんじゃないか？」

漣「ああ…………一応さわ子先生に部費で買ってもらおうか迷ってるんだよ……………」

圭吾「普通こーゆーのは部長がする仕事なんだけどな…………？」

漣「…………？」

律「今日も疲れたなあ……………」グタァ……………」

唯「今日はもう練習しなくていいんじゃない……………」グタァ……………」

圭吾「ダメだこの二人……?」

慎弥「……で? 体の方は大丈夫なのか? ……そうか……まあとにかく大人しく寝とけよ……なんか食いたいもんでもあるか? ……アイス? アイスだけでいいのか? ……わかった、じゃあ俺が帰ってくるまで大人しく寝とけよ、じゃあな」ピツ…

慎弥「ふう……」

紬「誰と電話してたの?」

慎弥「妹だよ、今日あいつ風邪ひいて学校休んだよ」

圭吾「愛美ちゃんがか?」

慎弥「ああ……あいつ今まであんまり風邪ひいたことなんてなかったのになあ……」

唯「でも慎弥くんて意外と優しい所があるんだね」

律「慎弥って妹思いだよなあ」ニヤニヤ…

慎弥「やかましい?」ゴツンッ!

律・唯「あだあっ!!!!」

梓「遅れてすみません!」ガチャ…

結花「遅れてすみません…」ヌツ…

律「びっくりした?…梓と結花かよ?」

結花「……………」スツ…

唯「あれっ?結花ちゃんギター買ったの!?!」

結花「はい……………昨日の内に買っておきました……………」

圭吾「どんなギター買ったんだ?」

結花「…フェンダーの白のストラトです……………」

唯「見せて見せて〜♪」

結花「どうぞ…」スツ…

圭吾「……………へ〜……………カッコいいギターだな〜……………」

唯「このギターかわいいね!結花ちゃん!」

結花「そっ、そうですか?／＼／＼」

澪「…でもギター買うお金あったのか?フェンダーはそう安くはな

いし……」

結花「…実は……父が昨日皆さんが帰った後、大金が封筒を渡されてそのお金でギターを買ってきなさいって言われたんです……」

圭吾「へえ……あの人もいいトコあんだな……」

律「それじゃさっそく弾いてみなよ結花！」

結花「えっ！？今ですか！？……」

紬「私も聞きたあ……い♪」

唯「早く弾いて弾いてえ……♪」

結花「そっ、それじゃ……」 スッ……

梓「……」 ジーッ……

ギュワーン！！

滯（かなりの腕前だな……）

圭吾
ほおほお……なかなかだな……

結花「……つとまあこんな感じですよ……」

唯「まっ、まだまだだねっ！！！！？」

律「なんとっ！？？」ガビーン！

梓「唯先輩っ！！！？？」ガビーン！

慎弥（…唯の奴……自分より上手かったから焦ってやがるな……）

圭吾「なんちゅー事言ってるんだよ？」ゴツンッ！

唯「うゝっ！！！」

圭吾「……ったく……まあいつもはダラダラしてやってるから、気難しくなくていいよ」

結花「は、はあ……？」

修一「……そうだ！昨日のライブの写真、できてるぜっ！！？」スッ……

律「おっ♪マジ？♪」ワクワク

滯「でもこの写真誰が撮ったんだ？」

修一「親父んトコの人」

漣「誰だよ？」

修一「知らね」キッパリ

漣「おい？」

律「まーまーいいじゃんか〜♪それより早く見ようぜ〜♪」

.....

唯「わ〜……すっご〜い……!!」

漣「……げっ!？」

圭吾「どした？」

漣「なっ、なんでこんなトコ撮ったんだよお〜!!!!」(泣)「ガシッ！」

修一「しっ、知らね〜よ!!!(汗)俺に言うな俺に!!!!?」

唯「漣ちゃんその写真見せて〜♪」

漣「ぜっ、絶対駄目だっ!!!!?」ガバツ!

慎弥「何そんなに焦ってんだよ滯？」

滯「とっ、とにかくこれは絶対駄目だっ！！！？」「アセアセ

結花（秋山先輩なんであんなに焦ってるんだろう……？）

梓（……マズい姿でも撮られてたのかな……？）

梓（……それより片山先輩に早くプレゼントを渡さないと……！！）

紬「みんな！お茶入ったわよ♪」

律「おっ♪待ってましたあ♪」

唯「ムギちゃん今日のお菓子は？♪」ワクワク

紬「今日はクッキーよ♪」

結花「あの……すみません？……これって……？」

圭吾「ああ……この部はいつもお茶飲んだりしながら活動してるんだ？」

紬「結花ちゃんも遠慮しないでね♪」ニコッ

結花「は、はあ……？（大丈夫かなこの部……？）」

……

律「……平和だなあ……」グタァ……

唯「このまま死んでもいい……」グタァ……

圭吾「死ぬな」

慎弥「…さてと………今日はちょっと早めに上がらせてもらうぜ……
…」ガタツ……

滯「そっか……愛美ちゃん風邪ひいてたんだっけ………」

律「しっかり看病してあげなよ！！」

紬「……そうだ！慎弥くんちょっと待ってて！」タツ

慎弥「？」

紬「えっと……確かこの辺に……あっ！あった！」

紬「このお茶を愛美ちゃんに飲ませてあげて！このお茶は風邪にも

効果があるから!」スッ

慎弥「あっ、ありがと……………」

圭吾「兄貴らしくちゃんと看病しろよっ!? いつも愛美ちゃんに色々世話してもらってたんだから!」

慎弥「わかってるって?……………じゃあなっ!!」バタンツ……

梓(……………今プレゼントを渡そうかな……………ええい!! いつまでオドオドしてちゃ駄目だっ!! 今渡s……………!)

律「風邪と言えぱ……………奈々の奴も風邪で休んでたっけ!」?

唯「そーいえぱそうだね……………奈々ちゃんがないとなんか調子でないなあ……………」ハア……

圭吾「唯と奈々は似た者同士だからな」

漣「……………奈々の奴……………ちゃんと寝てるかな……………?」

結花「奈々さん……………? 昨日のライブでキーボードとドラム叩いてた方ですか?」

律「そっ……………でも漣の言う通り心配になってきたな……………?」

唯「お見舞いに行かない!？」

漣「……でも……私達が押し掛けたら奈々がゆっくり休めないんじゃない……」

律「行こーぜ行こーぜ♪」

漣「なっ!!?」

圭吾「……多分哲也さん仕事でいないと思うし……晩飯も多分ろくなモンじゃないと思うからなんか買って行って奈々に栄養あるモン食わせようぜ?」

漣「……仕方ないな……」

紬「私も何か持って行ってあげようっと♪」

結花「……そうですね……片山先輩って友達思いなんですね……!」
フッフッ

律「圭吾は普段はこんなんだけど意外と優しい所もあるんだな〜これが♪」

圭吾「最初の一言は余計だポケッ？」ゴツンッ！

律「いだあっ！！！！（泣）」

圭吾「くそっ……右手じゃねーから力が全く出ねえ……！」チツ……

律「ひっ、左手でも十分痛いんですけど……（泣）」ズキズキ……

結花「……？」

圭吾「さあて……そろそろ行くか……」

修一「ああ……ん？」

梓「……」ポカーン……

修一「おい？梓？」

圭吾「どした？」

修一「梓が呼んでも反応しないんだけど……？」

圭吾「どれ……おい梓？」ユサユサ……

梓「……はっ!!? あっ、すみませんっ!! ちょっと考え事してました!」アセアセ

圭吾「……?」

梓「そっ、それじゃさっそく練習を……!」アセアセ…

律「梓? 何言ってるんだあ? ……今から奈々の看病をしに行くんだぞ?」

梓「へっ!??」キョトン

澤「梓今日なんか変だぞ? 体の具合でも悪いのか?」
梓「いつ、いえ! ? 大丈夫ですっ!」

紬「……むう……」キラーン!

……

~~~~奈々宅~~~~

奈々「……ゴホゴホッ! ……もうすぐ五時かあ……お兄ちゃんは何時に帰ってくるかわかんないって言ってたし……」

グウ……

奈々「…………お腹すいた…………」

ピンポーン♪

奈々「…………誰だろ…………？」ムクツ…

奈々「…………はい…」カチャ…

律『奈々〜！生きてるか〜！？』

澤『バカッ！近所迷惑だろっ！！』ゴツンッ！

律『いでえっ！！！！』ズキズキ

奈々「…………皆どうしたの？…………こんな所まで来て…………」ゴホゴホ…

律『な〜に言っただよ〜！看病しに来たに決まってるじゃん！！』

唯『奈々ちゃん体の調子はどう〜？』

奈々「うん…………だいぶ良くなったよ…………！！」ゴホゴホ…

紬『奈々ちゃんが好きなお茶持ってきたわよ〜♪』

奈々「わあ…………ありが…………ゴホッゴホッ！！」

梓『だっ、大丈夫ですか!?!』

奈々「うん……! 大丈夫だよ! 今玄関開けるからちよっと待ってて!」カチャン…

奈々「……またひどくなってきたかも……」ゴホゴホ…

ガチャ……

律「おっす!」ビシッ!

漣「元気そうだな奈々」

唯「奈々ちゃんあゝん!」ガバッ!

奈々「ひゃあっ!?!?／／／」

梓「ダメですよ唯先輩!! そんなことしたら風邪移っちゃいますよっ!?!?」アセアセ

唯「今日奈々ちゃんがいなかったから寂しかったよおゝ……」スリスリ…

奈々「ゆっ、唯ちゃん……／／／」

圭吾「バカかお前ら？」

奈々「ごっ、ごめんごめん？……って圭吾くんその手どうしたの！？」

圭吾「ああ……これ？？まあ話せば長くなるというか……？」

奈々「あんまり無茶したらダメだよ？…」

圭吾「お前に言われたかねーよ？」

奈々「えへへ？……？梓ちゃんの横にいる子は誰？」

唯「この子は今日から入部した大田結花ちゃんだよー♪」

結花「大田結花です、よろしくお願いします…」ペコッ…

奈々「よろしくねー♪……うっ……ゲホッ！！」

漣「おっ、おい大丈夫か！？」

奈々「うっ、うん……大丈夫……ゲホッ！ゲホッ！！」フラッ…

紬「奈々ちゃんしっかりして！！」ガシッ！

圭吾「……」スッ…

圭吾「……こりゃまた熱上がってきたなこりゃ……」

奈々「…………ご…………めんね…………迷惑…………かけて…………」ハアハア……

修一「早く奈々を寝かせてやんねーと！」

圭吾「奈々、立てるか？」

奈々「…うん…」

圭吾「肩貸してやるから…………ホレッ…」スッ

奈々「…ホントに…………ごめんね…………」フラフラ……

圭吾「…謝る暇があったら…………早く風邪治せて……………」

奈々「…えへへ…」フラフラ……

……………

奈々「……………」スースー……

律「寝たみたいだな……………」

滯「ああ……………」

唯「洗濯物全部畳み終わったよ♪」

修一「哲也さんの俺が畳んだけどな？」

梓「…でも奈々先輩も大変ですよね……仕事で忙しい哲也さんを一人で支えているんですから……」

結花「あの……すみません……哲也さんって？」

律「奈々のお兄さんは凄いんだぞ〜!? あのジキルのベースリスト et s u y a なんだぞ〜!? ♪」

結花「えっ!!?」ドキンッ!

澤「こら律っ!! あまり言い振らすんじゃないっ!!」ガンッ!

律「つてえ〜!! 別にいいじゃん……後でわかることなんだし……」ズキズキ……

結花「ジキル……／＼／」

修一「結花の目がかなりキラキラしてんだけど……?」

律「もしかして……ジキルのファン？」

結花「はっ、はい!! 私ジキルの大ファンなんですっ!!」↑大興奮

律「すっ、すげえ興奮してるな……?」

圭吾「さて……ムギ、運んでくれ」

紬「凄いわ圭吾くん……片手で料理しちゃうんだから……」

圭吾「まあお粥ぐらいだったらなんてことねーよ……」へへッ……

滯「……それじゃ私達はそろそろ帰るとするか……」

唯「……！ちょっと待って！」

律「どうした唯？」

唯「ちょっと待ってて〜♪」ゴソゴソ……

梓「紙なんか出してどうするんですか？」

唯「奈々ちゃんに寄せ書きしようかなーと思って♪」

圭吾「めんどくせえ？」

律「ナイスアイデアじゃん唯♪」

唯「えへへ〜♪」

滯「確かに唯にしてはいいアイデアかもな……」

紬「賛成〜♪」

修一「それじゃサツサと書いちまお〜ぜ、長居したら奈々にも悪いし」

梓「そうですね」

結花（ジキル……宝井先輩のお兄さんがあの t e t s u y a……凄  
い……！）↑まだ興奮が治まらない

圭吾「あゝめんどくせえな〜……」

梓「めんどくさがらないで下さい！」

圭吾「へいへい……」

……

奈々「……うつ……うつ〜ん……」ムクツ……

奈々「……あれ？……私寝ちゃったのかな……みんないないや……」  
フワァ〜……

奈々「……冷蔵庫に何かあったかなあ〜……」スタスタ……

奈々「……？コレなんだろう？」

奈々「……お粥だ……あっ、なんか書いてある……」スッ……



~~~~内容~~~~

『早くよくなれよっ!』

b y 律

『早く良くなってまた一緒に頑張ろうな!』

b y 濤

『奈々ちゃん♪頑張って風邪治してねえ♪』

b y 唯

『美味しいお茶とお菓子を準備して奈々ちゃんをお待ちしてまゝす
♪』

b y 紬

『無理せずゆっくり体を休めて下さいね!』

b y 梓

『まだあまり話した事ないですけど……よろしくお願いします……
ゆっくり休んで体調を整えて下さい……』

b y 結花

『よう奈々、お粥作ったからこれ食って元気になれよっ!残す
んじゃねーぞ!?!』

b y 圭吾

『熱が下がっても大人しくしとくだぞ!?早く治してまた一緒に
セッションしようなっ!!!』

.....

奈々「…ふふっ……」クスッ…

奈々「さて……私も早く風邪治さないと……！」

……一方、律達は………

律「帰ったら何しよゝかなあゝ……」

漣「勉強しろ？」

圭吾「腹減った……律、なんかおこれ」

律「なんでっ！！？？」ガビーン！

圭吾「冗談だって（笑）」

律「お前の冗談は冗談に聞こえないんだよっ！！？」

ぎゃーぎゃー………

梓（どうしよう……どのタイミングで渡そう……）

紬「梓ちゃん？」ヌッ…

梓「にゃっ!!?」ドキンッ!

紬「さっきから気になってただけど……どうしたの? 今日梓ちゃんなんか変よ?」

梓「いつ、いえっ!!? 何でもありませんっ!!?」アセアセ…

紬「ホントに?」↑小動物みたいな目で梓を見つめている

梓「うっ……(ムギ先輩凄い目力……?)」

紬「ね〜梓ちゃん♪」

梓「…わっ、わかりました……けどこの事は内密に………」

紬「オフコース♪」

梓「なんで英語……?」

結花「…それじゃ私はこれで………」

律「また明日な結花〜」

滯「またな」

唯「またね〜結花ちゃん♪」

圭吾「また明日な～……」

修一「またなあ～……」

結花「……」ペコツ……

律「……」

澪「……」

律「って!?!?修一帰らないのか!?!?」

修一「今日は車で帰る」

圭吾「……親父さんか?」

修一「うん……もうそろそろ来るはず……」

ブワアアアアン……ブオンツ!!

修一「あっ、来た……」

律「なんか……遠くから凄い爆音が……?」

漣「…?」

圭吾「…この甲高い排気音……あのNSXか……?あの車めちゃくちゃうっせえんだよねあ……?カッコいいんだけど……?」

ブォンツ!……ボボボボ……

修一「…んじゃ皆さん、また明日」ガチャ…スツ…

ピキッ!

修一「ぐおお……つつ……つった……」ピクピク…

律・漣・紬・梓「…?」

唯「だっ、大丈夫修一くんっ!!?」

圭吾「……?まあ仕方ないな……このクルマ車高低いから……?」

修一「わっ、脇腹が…?」ピクピク…

修一父「おいおい?大丈夫か修一?」

修一「あっ、ああ……じゃ……また明日……」ピクピク…
ブォンツ!!……ブワアアアン……!!ブワアアア……!!

律・唯・漣・紬・梓・圭「……?」↑全員耳塞いでる

律「…しつ、しかし…相変わらず修一んところは凄いな?…」

圭吾「俺あの車絶対乗りたくねえ?」

漣「私も…?」

唯「乗ってみたあゝいい♪」キラキラ…

圭吾「お前は軽自動車で充分だ」

唯「ガン! (泣)」

律「…もう6時かあゝ…」

圭吾「…んじゃ俺も帰りますか…じゃな、また明日な」スツ…

律「またな」

漣「また明日」

唯「バイバイ♪」

紬「またねゝ♪」

梓「さようなら…」ペコツ…

……………

紬『……よしっ！作戦開始よ梓ちゃん！』ヒソヒソ…

梓『ハッ、ハイッ！』コソコソ…

律「…？あいつら何やってんだ？」

漚「さあ……？」

唯「お腹へったよぉ……」グゥ……

……

圭吾「…さあて……帰ったら作曲するかぁ……」スタスタスタ……

紬・梓「……」コソコソ…

圭吾「……ん？」クルッ

圭吾「……さっきから誰かにツケられてるような……気のせいかな……」スタスタスタ……

紬・梓「……っ!!」ドキドキ…

紬「…あっ、危なかったわ……?」ドキドキ…

梓「もう少しで見つかる所でしたね?」ドキドキ…

紬「…気を取り直して……あっ、あれ!? 圭吾くんがいない……!!」

梓「もしかしてもう行っちゃったんじゃない?」

圭吾「おいゝ?」ヌツ…

紬・梓「きゃあっ!!?」ビクンッ!!

圭吾「…ったく? さっきから俺をツケてたのお前らかよ?」ハア…

紬「べっ、別に怪しいものじゃないからっ!!」アセアセ

梓「そっ、そうです!!」アセアセ

圭吾「やかましいわ?……で?俺になんかようか?」

紬・梓「へっ？」キョトン

圭吾「へっ？…じゃねえよ？俺に用があるからツケてきたんじゃね
ゝのかよお前ら？」

紬「…：わっ私用事があるんだっ！もう帰らなくちゃ！2
人ともまた明日ゝ！？」↑棒読み

圭吾「あつ、コラ待て…」

圭吾「…逃げやがった？」

梓（ムっ、ムギ先輩の裏切り者ゝ！！！？）ガーン！

圭吾「…」

梓「…」

梓「…それじゃ私もそろそろ失礼しまr y」

圭吾「待たんかい？」ガシツ！

梓「うゝっ！？」

圭吾「何故俺をツケてきたか理由を言わんかい？」

梓「わっ、わかりました…?」

圭吾「…ったく…」ハア…

梓「…先輩、昨日が何の日か覚えていますか？」

圭吾「昨日?」

梓「はい」

圭吾「んゝ…あっ! わかった! 少年マガジンの発売日!？」

梓「違います!？」

圭吾「それじゃゝ…チャンピオンの方か？」

梓「違いますっ!?!?なんでマンガなんですか!?!?」

圭吾「なんだっけ…んゝ…」

梓（駄目だこりゃ…?）

梓「もうっ!!…昨日は片山先輩の誕生日ですよ!?!覚えてないんですか!?!?」

圭吾「昨日俺の誕生日だったの?…いやゝ…見事に忘れてた…」ハッハッハッ…

梓「？」

圭吾「でもそれがどうかしたのか？」

梓「だから……！！……その……！！……プツ、プレゼントを……／＼／＼」
モジモジ……

圭吾「……」スッ……

梓「……うっ！」ビクッ！

ポンッ……

梓「……へっ？」キョトン

圭吾「ありがとな……梓……」ナデナデ……

梓「……！／＼／＼」

圭吾「何年ぶりかな……こうやって祝ってもらうのって……あの日以来かな……？」

梓「あの日……以来？」

圭吾「昨日……俺の父さんと母さんの命日でもあるんだ…」

梓「…え…」

圭吾「…あの日は誕生日プレゼントを買ってもらったために3人でデパートに行ってたんだ…」

~~~~~

~~~~~約六年前~~~~~

幼圭吾「わ〜いわ〜い♪」

圭吾父「こらこら、走ったら危ないぞ？」ニコニコ

圭吾母「あらあら…」フッフ…

幼圭吾「……あつ、赤信号だ〜」

圭吾母「危ないからお父さんとお母さんの手をつないで渡りましようね？」

圭吾「は〜い♪」

圭吾父「おっ？今日はやけに言うことを聞くなあ〜圭吾〜！」

幼圭吾「へへへ♪」

圭吾母「ほらっ、青になったから早く行くわよ？」

幼圭吾「は〜い♪」

通行人「危ない！！！」

幼圭吾「？」

圭吾父「……！！」ガバッ！

圭吾母「……っ！！！」ガバッ！

……

~~~~~

圭吾「……その先からは覚えてねえ……目が覚めたら……病院のベッドの上だった……そこで初めて……父さんと母さんが死んだって聞かされたよ……」

梓「……っ！！」

圭吾「最初は信じられなかったさ……けど……2人の遺体を見たと  
き……初めてそこで信じたさ……」

圭吾「……あつ、わりい！少し話が脱線してしまつて…」ハハハ…

梓「いつ、いえー!!? (なんか渡しづらくなつちやつた…?)」

梓「…じゃつ、じゃあコレを…!」スツ…

圭吾「……中身は何コレ?」ユサユサ…

梓「それは帰つてからの楽しみですつ!」

圭吾「えゝ? 教えてくれよう!」ブーブー

梓「内緒ですつ!／／／それじゃ私はこれで!!失礼しますつ!!」  
ピュー…

圭吾「……教えてくれてもいいじゃん……ケチ……」ムスー…

………一方、慎弥宅………

慎弥「愛美く、飯持ってきたぞ」ガチャ…

愛美「…ありがと……お兄ちゃん……」ゴホゴホ…

慎弥「起きれるか?」

愛美「大丈夫……自分で…」ムクッ…

慎弥「だから無理すんなって……」スッ…

愛美「だって……お兄ちゃんに頼ってばっかじゃなんか悪くて……」  
ゴホゴホ…

慎弥「何言ってるんだ……お前は今病人なんだから……」

愛美「でも…」ゴホゴホ…

慎弥「いいって！……ホレッ、先に熱はかるぞ……」

愛美「うん…」ゴホゴホ…

………

……圭吾宅……

圭吾「……中身はなんだろう♪」ビリビリ…

圭吾「……ん？ピアス？……でも梓の奴なんで俺がピアスしてんの

知ってんだ？」

圭吾「……………？手紙？」

……………手紙の内容……………

山河先輩から聞きましたよ？

片山先輩がピアスをしたって……………。  
ちゃんと開けた穴の手入れは欠かさずして下さいね！？

梓より…

……………

圭吾「……………慎弥の奴……………梓に喋りやがって……………」

圭吾「……………まあいいや……………さて……………新しい曲でも作るか……………」

……………梓宅……………

梓「……………先輩……………喜んでくれてるかなあ……………」



梓「…………お風呂に入って寝よ…」スツ…

}  
f  
i  
n  
{

## #05 圭吾の従妹!! (前書き)

更新遅れてすみません (汗)

久々に更新します (´▽｀)

## #05 圭吾の従妹!!

圭吾「ふわぁ〜……」スタスタ……

律「ほらほら〜、しっかりしろしっかり〜」ビシビシ

慎弥「圭吾お前今日なんか変だぞ？」

圭吾「……」↑死んだ魚のような目で慎弥を見ている

慎弥「…やめろ、そんな目で見るな（汗）」

圭吾「…てめえ……俺が昨日どれだけ苦労したかも知らずによお〜  
……！」ガシッ！

慎弥「わかったわかった!!」（汗）俺が悪かった!!（汗）わかったから放せっ!!?」グググ…

律「……圭吾今日かなり荒れてるなぁ〜……」（汗）「ハハハ…」

唯「圭吾くん! ファイト〜♪」

紬・奈「ファイト〜♪」

圭吾「やかましいわポケッ！（怒）」ゴンッ！

唯「うう……なんで私だけ…（泣）」ウウウ…

修一「はは…」スタスタ…

修一のファンA「…あの…高山先輩！！」ドキドキ…

修一「…はい？」

修一のファンB「…私達と一緒に写真撮ってくださいませんか!？」

修一「…へっ？」

滯「ほらっ…やってあげなよ…」

修一「…う、うん………」

律「…修一の奴人気あるな……」

奈々「ひゅーひゅゝ♪色男ゝ♪」

修一「…!／／／カァー……」

圭吾「……誰か……リポビタンおごって……」

………

〓〓音楽室〓〓

梓「……」ジャカジャカ……

梓「……みんな遅いなあ……」

結花「……こんにちは……」ガチャ……

梓「こんにちは！……ねえ大田さん、先輩達見なかった？」

結花「……いいえ、見てませんけど？」

梓「はあ……」ガックリ……

結花「……あの……聞きたい事があるんですが……」

梓「何？」

結花「片山先輩と中野先輩はどういった関係なんですか？」

梓「へっ！？／＼／＼」カー……

結花「…いや……前から思ってたんですよ……お二人とも凄い仲が  
いいように見えますから……もしかして……」

梓「なっ、なんでそんな事……!!／＼／」カァー……

結花「教えて下さい、中野先輩」ズイッ

梓（大田さんってこんなキャラだったっけ……!!?（汗）なんか物  
凄いグイグイ来るんですけど（汗）てかめっちゃ近いし……!!（汗）  
……）

梓「……じっ、実は片山先輩と付き合ってるんだ……!!／＼／」

結花「……やっぱりですか……で？片山先輩のどこに惚れたんですか  
？」

梓「ええっ……!!?（汗）」ガビーン!

梓「……そっ、それは……／＼／」

ガチャ……

律「おゝす!」

漣「遅くなってすまない」

唯「あずにゃんオイツス！」

紬「こんにちは♪」

奈々「うによっす!!」

慎弥「なんだようによっすって(汗)」

奈々「私流の挨拶！」エッヘン！

慎弥「いや褒めてねえから」

修一「ういゝす…」

梓(たっ、助かった!!)

結花「…じゃあまた今度聞かせてくださいね…」スッ…

梓「…大田結花……恐ろしい子だ……(汗)」

圭吾「退いてくれ梓……」ヌッ…

梓「ひゃうっ!!?……なんだ…先輩ですか……(汗)」

奈々「ひゃうって……梓ちゃんかわい〜♪」

唯「かわいいよあずにゃ〜ん♪」スリスリ…

梓「ちよっ……やめてください!!／＼／＼カァー…

圭吾「…いつまでじゃれついてるんだよ……ほら邪魔…」シッシツ!

唯「ぶう〜!」ムスー

圭吾「…ちよっと仮眠でもするか…」ヨッコイショ…

律「また寝るのかよ(汗)」

滯「一日中寝てたのにまた寝るのか…(汗)」

圭吾「…ZZZ…」スースー…

律「…ってもう寝てるし!!!」(汗)「ガビーン!



慎弥「こいつ寝付くの早いからなあ…」ハハハ…

修一「…どうする？圭吾の奴寝ちまったし…」

慎弥「ん…今日は圭吾の手のリハビリがてらに簡単な曲練習するつもりでいたんだけど……しよがね…今日は無しにするか…」

修一「そだな…」

慎弥「ったくよ……せっかく6弦ベース持って来たのに意味ねえじゃん！」

梓「ろっ、6弦ベース!!?」

唯「何それ？」

澪「6弦ベース……なんて物を持ってるんだよ(汗)」

慎弥「見てみるか？」ゴソゴソ…

律「…でかあ!! (汗)」

奈々「これ……ギター？」

梓「違いますよ!! (汗) てか山河先輩こんな凄いベース持ってたんですか!？」

慎弥「まあ……これ親父から譲り受けたモンだけどな…」ポンポン…

紬「…でもなんか弾きにくそうね」

慎弥「慣れたらそうでもないよ」

漣「…なあ慎弥、少し持たせてくれないか？」

慎弥「いいぜ、少し重てえから気をつけろよ？」スツ…

漣「…おっ、重い…! (汗)」ズシツ…

唯「でも漣ちゃん凄く似合ってるよ?」

奈々「うん! 凄く似合ってる♪」

漣「そっ、そうかな……／／／」エヘヘヘ…

律「濡の手は大きいから余計に目立ってるぞ?♪」ニヤニヤ…

濡「…!!!!／／／」

ゴンッ!

律「いってえゝ!!」(泣)「ズキズキ…

濡「…手の事は禁句の筈だろ…!」(怒)「

律「すつ、すんませんでした…」(泣)「ズキズキ…

紬「あらあら(汗)」

圭吾「…グォゝ…ZZZ…」

修一「…いびきうるせえ…」(汗)「

さわ子「みんないる?」ガチャ…

律「どしたの?さわちゃん?」

さわ子「新しい衣装ができたのー!♪」バツ!

慎・修「ぶっ!!!?」

律「すげ〜…(汗)」

漚「……!」プルプル…!

律「…早くも漚の奴拒絶反応を……(汗)」

唯・紬・奈「着てみました!!」ドーン

律・慎「少しは恥じらえバカ共〜!!」(怒)」

梓「…(汗)」

結花「…あの…何なんですかあれ?」(汗)」

梓「学園祭の時に着る衣装……今年も先生張り切って作ってきたなあ〜…(汗)」ハア…

結花「…そつ、そうなんですか……(汗)」

圭吾「……………」ムクッ…

慎弥「あ、起きた…」

圭吾「……」ボヘー……

圭吾「…却下……以上……zzz…」

さわ子「寝起きの第一声が却下ってひどい」(泣)「ウウウ…

唯「まあまあさわちゃん」

梓「ちょっと先輩!! 今のは酷いですよ!!?」

圭吾「……けどあれは駄目だろ(汗)……あんなんでライブ出たら  
来年から出れなくなっちまうぞ?」(汗)「ムクッ…

梓「そっ、それは……!」

圭吾「…とにかく、却下は却下…次はもう少し抑えてくれよ先生?  
(汗)」

さわ子「わかったわよ……」ブスー…

圭吾「お前らもいつまで着てんだよ、早く着替えてこい」

奈々「…私こーゆー感じの服すきなんだけどなあ…」

唯「…私も…」

紬「かわいいけど…少し動きづらい…（汗）…」ゴソゴソ…

……………

律「そーいや修学旅行まであと少しだなあ…」

唯「楽しみだねえ♪」

慎弥「今年って京都だったっけ？」

さわ子「そうよ？今年は旅館よ？♪」

修一「旅館かあ…ってことは風呂は大浴場か…」

紬「ねえねえ♪旅館って凄い所なの？♪」キラキラ…

修一「何その旅館に憧れてました的な目は…（汗）」

慎弥「ムギ旅館とか行ったことないのか？」

紬「うん♪」

律「夜は枕投げ合戦だな♪」

奈々「やろくやろく♪」

さわ子「駄目よ！次の日の朝早いんだから！」

律「ちえく…」ブスー…

圭吾「……」ジャラン……ジャラン……

圭吾「……なあ、今度ライブハウスでライブしないか？」

律「ライブハウス？」

さわ子「圭吾くんいいアイデアじゃない！参加費なら部費から出してあげるわよ？」

滯「えっ？……」

律「濡〜？この際だから今の内にライブの感覚になれておこうぜ？」

濡「でっ、でも……」

慎弥「大丈夫だって！別に怖い人とかいないから！」

濡「…わかった…」

唯「ライブハウスってどんなトコなの？」

奈々「どんなトコ？」

梓「…今更ですか…（汗）…あのですね……ライブハウスって言うのは……」

圭吾「あ〜もういい梓！こいつらに言っても無駄だ（汗）」

梓「は、はぁ……（汗）」

唯・奈「ね〜ね〜？」

梓（…確かに言っても無駄そう……（汗））



さわ子「で？いつにするの？」

律「どうする？」

圭吾「修学旅行が終わってからだな」

澤「そうだな」

律「んじゃそーゆー事で」

さわ子「わかったわ、決まったら言ってきてちょうだい」スツ…

律「あれっ、もう行くの？」

さわ子「今日は会議があるのよ、修学旅行が近いからねえ…数日はティータイムはお預けよ…」ハア…

慎弥「よかったじゃねーか先生、痩せるじゃん」

さわ子「!!（怒）」キツ!

慎弥「何何何!!?（汗）」ドキッ!

圭吾「バーカ……」

修一「今のはダメだろ…（汗）」ハハハ…

さわ子「全く……それじゃみんな、頑張ってね！」

ガチャン……

律「…練習するか？」

澤「そうだな…」

唯「頑張るぞ〜♪」

圭吾「…俺帰るわ」

梓「ええっ!!? (汗)」ガビン!

奈々「ちよっ! 圭吾くん……!!? (汗)」ガビン!

圭吾「今日なんか調子わり〜し……やる気もでねえし……俺今日ダメだわ」

慎弥「おいおい… (汗)」

修一「… (汗)」

律「おいおい圭吾、そりゃないって〜!!」

圭吾「後頼むわ、んじゃ!」ガチャ…

律「おいっ！」

唯「…帰っちゃったね…（汗）」

滯「…先が思いやられる…（汗）」ハア…

律「梓も大変だよなあ」（汗）……」

梓「…まあ……もう慣れましたけど……（汗）」

………

圭吾「…帰ったらソッコー寝よ……」スタスタスタ…

槇「…あつ、片山先輩！」

圭吾「…！ああ、確か……本城さん…だっけ？」

槇「はい！……あの…この前は無理なお願いを引き受けて下さって……ありがとうございます！」ペコッ！

圭吾「あゝいいっていいって！」

槇「…噂で聞いたんですけど……右手……怪我されたんですか？」

圭吾「あゝ……まあ……ちょっと骨折したぐらいかな？……でもも

う治って今はこの通り!!」シュツシュツ!

槇「…ふふっ!」クスッ

圭吾「ハハ……?それ……ギター?」

槇「…えっ?あっ、はい……最近始めたんですけど……」

圭吾「…ジャズ研か……あの部は人数が多いから競争率が半端ない  
だろ?」

槇「…はい……毎日練習しないとついていけないですね…」

圭吾「でもまあ無理は禁物だぜ?」

槇「…はい……あっ、もしよかったらウチの部に寄って行きませんか?」

圭吾「…俺が?……邪魔じゃないか?」

槇「そんな事ありません!片山先輩はジャズ研の中でも超有名人なんですから!」

圭吾「そっ、そうなんだ……(汗)」ハハハ…

榎「はい！」

圭吾「…じゃあ……ちょっとだけな……？」

榎「ありがとうございます！じゃあこちらへ！」

………

榎「こんにちは～！」ガチャ…

圭吾「ども～…」ヌツ…

部員A「こんにちは～………って……？（汗）なんで片山先輩が……？（汗）」ガビーン！

部員B「嘘……片山先輩だ……！」

ザワザワザワ………

圭吾「…なんか気まずい……（汗）」

ジャズ研部長「どうしたの～みんな？何かあった………ってなんで片山くんが……？（汗）」ガビーン！

圭吾「…（汗）」

純「こんにちは～……あれ？片山先輩どうされたんですか？」

圭吾「おお、確か梓の友達の鈴木さんだっけ？」

純「はい！…でも、片山先輩今日部活は……」

圭吾「今日は気分が乗らないから勝手に早退してきた」

純「…なっ、なんですかそれ……（汗）」

ジャズ研部長「全く……ホントあなたは自由人ね……」

圭吾「ジャズ研は固すぎなんだよ、もうちょい気楽にしていけばいいんだよ」

ジャズ研部長「私達は気楽でやってるつもりなんだけど……（汗）」

純（…軽音部は気楽過ぎるからなあ……（汗））

圭吾「…んじゃそろそろ失礼するわ…練習の邪魔したやわりしな…」スッ…

ジャズ研部長「ねえねえ片山くん、帰るついでにちょっとギター弾いてみてよ！」

圭吾「はあ！？（汗）」

ジャズ研部長「お願い！ウチの部あんまりギターが上手い子がないのよ……ちょっとだけでいいからお手本見せてあげてよ！」

槇「私からもお願いします！片山先輩のギターテクニク是非とも参考にしたいです！」キラキラ……

圭吾「……わかったよ……ちょっとだけだぞ……？」ハア……

ジャズ研部長「ありがとう！」

圭吾「……じゃあ……アンプを……」

ジャズ研部長「アンプ持ってきて！！一番おっきいの！！」

圭吾「……頼むから変にハードル上げないでくれ……（汗）」

……

圭吾「……よしっ……エフェクターのセット完了……」スッ……

槇「……凄いエフェクターの数……」

純「……まさか片山先輩の生演奏が聴けるなんて……」

ジャズ研部長「はいみんな！！今から片山圭吾くんがギターのレッスンをしてくれるから、ギターの人達はよく見て勉強するのよ！？」

ジャズ研全部員「は〜い！」

圭吾（…やりづれえなあ〜……（汗））

ジャズ研部長「じゃあ…」スッ…

圭吾（…仕方ねえ……さっさと済ませて早く帰ろう……）スッ…

ギュワ〜ン！！！！

キュルルルル〜……グワ〜ン！！！！ガシャガシャガシャ……！！  
！↑超高速で早弾き

槇「…すっ………凄い………」

純「…プツ、プロじゃん…もう…（汗）」

ジャーン！！ジャジャン！！！！

圭吾「……まあこんなモンかな……？……アドリブで弾いたけど…  
…」

ジャズ研全部員「……」ポカーン……

圭吾「…なんだ？（汗）」



ジャズ研部長「…やつ、やっぱり凄いわ……」

圭吾「…そりやどうも……んじゃ帰るわ……後頑張れよ」スツ……  
ガチャン……

部員A「…片山先輩の演奏見たらなんか自分に自信が無くなっちゃった……（汗）」ハハハ……

部員B「まああの人は別格だから……しょうがないわよ……」

槇「…やっぱり凄い……片山先輩……」

純「……凄いなあ……梓もいい人見つけたなあ……」

……

圭吾「…ちょっと寄り道してしまったけど……まあいいか……早く帰って寝よ……」スタスタスタ……

……

～～～圭吾宅～～～

圭吾「……」ガチャ…

？「おつかえり～！！」ガバツ！！

圭吾「ぐはあっ！！！！？」

？「ね～ね～圭兄い～！！遊ば～！！？」

圭吾「ふっ、ふざけんな……昨日散々遊んでやっただろ……！！」ウウ…

？「やだ～！今日も遊ぶの～！！」ブーブー

作者「説明しよう、圭吾におねだりしてる子は伊藤 薫という小学6年生の元気な女の子だ！！圭吾の死んだ母親の妹の子で圭吾とは従妹にあたる！」

圭吾「さっさからうるせーよバカ作者」

薫「うざーい！」

作者「うつ、うざい!!?」(泣)「ガーン!!」

圭吾「それはおいといて……薫、いつまでウチにいるつもりなんだ？」

薫「そつ、それは……」モジモジ……

圭吾「何があったかは知らねーけど……お父さんとお母さん心配してるぞ? きつと……」

薫「……」

圭吾「……全く……ほら、アイス買ってきてやったから……それ食って早く家に帰れ……」スッ……

薫「……」

圭吾「……後は知らんからな……」スタスタスタ……

薫「……圭兄いのバカ……」ボソッ……

……数時間後……

圭吾「……はい……ウチに薫が……はい……じゃあお待ちしてます……」

…」

ピッ！

圭吾「……これでよしと……」パタン…

圭吾「……あとは……」

薫「……」ボー……

圭吾「なぐにさっきからボーッとしてんだ？」スッ…

薫「……うん……あのね、空はいいなぐって思ってたさ……！」

圭吾「…どうしてだ？」

薫「だってさあ～……空は自由じゃん！何もしなくていいし…」

圭吾「……自由ねえ～……」ゴロンッ…

薫「うん！」

ピンポーン……

圭吾「……来たみたいだな……」ムクツ……

薫「……えっ?」

圭吾「……薫、ついてこい……」スッ……

薫「……えっ?……えっ?」ドキッ!

圭吾「……薫には悪いが……こうするしかなかったんだ……」

~~~~~玄関~~~~~

薫父「薫!!!学校までサボるとはどういう事だ!!!!」

圭吾「まあまあ(汗)」

薫母「薫!!!あなた自分がやった事わかってるの!!!?」

薫「……」

薫父「なんとか言いなさい薫!!!!」

薫「……疲れたのよ……」

薫父母「!!?」

薫「毎日毎日……学校に塾……家庭教師……受験勉強……もう疲れたのよ!!!!」

圭吾「……」

薫「もうたくさんよ……こんな生活……!!」ポロポロ……

圭吾（……なるほど……家出の理由はこれか……）

薫「もうあんな生活はウンザリよ!!」バツ!

薫父「!待ちなさい!!薫!!」

薫母「薫!!!!」

圭吾「……!!」

薫父「……なんてことだ……」

薫母「……薫……」

圭吾「……追い掛けないんすか？」

薫父「……いや、いいんだ……少し1人にさせてやろう……」

薫母「……すみませんね圭吾くん……ウチの薫が迷惑かけて……」

圭吾「……いえ……」

ボタン……

圭吾「……嫌な予感がするな……」

……しばらくして……

圭吾「……」ポー……

早希「ちよつと圭吾!!」

圭吾「……なんだよ姉貴……」

ゴンツー!!

圭吾「…っ!!?!? いつ、いきなり何しやがんだ…!!?!?」ピク
ピク…

早希「あんたなんで薫ちゃんの事引き止めなかったのよ!!!」

圭吾「……それは……」ブツブツ……

早希「全く……そんなんじゃないやあんた梓ちゃんに嫌われるわよ!?!」

圭吾「……」ムスー……

ピンポーンピンポーン!!

早希「……? 誰かしら……こんな時間に……?」スツ…

早希「…はい?」ガチャ…

薫父「すみません……!!ウチの薫ここに帰って来ましたか!?!」

早希「いいえ?……まさかまだ帰ってこないんですか……!?!」

薫父「…はい…!……町中を捜し回っているんですけど……!」

薫母「……薫……何処にいるのかしら……」

早希「警察には連絡したんですか!?!」

薫父「…いいえ……まだ……」

早希「それじゃ早く連絡しないと!」スッ…

圭吾「待て姉貴…」ガシッ…

早希「圭吾!?!」

圭吾「…薫は多分……あそこにいる…」

早希「あそこってどこよ!?!」

圭吾「…あそこはあそこだ……叔父さん、叔母さん……あとは俺に任せてくれ……」

薫父「…圭吾くん…」

薫母「……」

圭吾「さてと……んじや行ってきますわ……」 スッ…

………

〃〃某高速道路高架下〃〃

薫「……グスッ……」

圭吾「…やっぱりここにいたか……」 スタスタ……

薫「……！……圭兄い……」

圭吾「……昔よくこの高架下で遊んだよなあ……」 スッ…

薫「…うん……」

圭吾「……懐かしいなあ……」

薫「……」

グウウウ……！！

薫「……！！！！／／／アセアセ……」

圭吾「……なんだ？腹減ったのか？」

薫「……／／／コクン……」

圭吾「……ふっ……だろうと思ったよ……ほらっ……」 スッ……

薫「……！」

圭吾「腹減ってんだろ？食べよ……」 スッ……

薫「……ありがとう、圭兄い……！」 グスッ……

圭吾「ほらっ、泣くなって……」

薫「…ごめん……！」グスッ…

圭吾「全く……」フッ…

……一方その頃………

律「今日はちょっと遅くなっちゃったなあ……」

澪「ああ」

唯「でも今日の練習のおかげでギターソロ弾けるようになったよ！
」

慎弥「それは梓と結花の特訓のおかげだからだろ（汗）」

梓「…今日は疲れました……」グタッ……

結花「私もです……」グタッ……

修一「…この二人完全に燃え尽きたな……（汗）」

奈々「つゝかゝれゝたゝ……」フラフラ…

紬「あらあら奈々ちゃん……（汗）」

奈々「むうゝ……ん？あれ圭吾くんじゃない？」

律「えっ？どこ？」

奈々「ほらあそこ……圭吾くん誰かおんぶしてる？」

圭吾「……」スタスタスタ…

律「おい圭吾ゝ！！」

圭吾「ん？律か…」

律「どーしたんだ圭吾ゝ、こんな時間に？」

圭吾「ちよつと色々あつてな…」

律「ふゝん……ってかそのおんぶしてる子誰？」

圭吾「俺の従妹だよ……」ヨイショッ……

滯「へえ……かわいいな……」

唯「寝顔かわい……！」キラキラ……

紬「ホントね……♪」

薫「……」スー……スー……

圭吾「……にしても今日終わるの遅かったんだな」

唯「圭吾くん聞いて聞いて……私新曲のギターソロ弾けるようになったよ……！」エッヘン！

圭吾「今更かよ……（汗）……俺が曲作って2ヶ月は経ってるぞ（汗）」

唯「ガン……！」

慎弥「弾けるようになったのは梓と結花のおかげだろ？（汗）」

唯「おっしゃる通りです！」

修一「いばるな（汗）」

奈々「……」↑薫をガン見している

滯「何やってんだ奈々？（汗）」

奈々「……うん……圭吾くんとこの子よく見たら顔が似てるな～と思
って……」ジー……

圭吾「何やってんだバカ……お前ら氣いつけて帰れよ、じゃあな！
」スッ……

律「……圭吾も色々大変だな～……」

滯「……しかし……最近圭吾の奴……かなり疲れてるように見えるな……
……」

唯「そう？普通に元氣そうに見えるけど？」

奈々「私も！」

慎弥「お前らは少し黙れ！」

唯・奈「うう……」シヨボン……

修一「確かに……最近なんかあいつ元気がないというか……気力がないというか……」

律「私らは圭吾と付き合いが長いからな……中学の時は全然話とかしなかったけど……」

梓「そうなんですか!？」

律「なんかさあ……最初圭吾の事怖かったんだよな……」ハハハ……

漑「確かに中学の時の圭吾は怖かったな……今も十分怖いけど……」

梓「……(汗)」

慎弥「?あいつのどこが怖いんだよ?」

律「そりゃ……あの事件があったから……」

滯「……………」

慎弥「ああ……あれか……まああんな姿の圭吾みたら怖くなるわな……」

奈々「ねーねー？事件って？」

結花「…宝井先輩、帰りますよ…」グイッ！

奈々「えっ？えっ？ちよっ……！ええー！！！？
ズル……
(汗)」ズルズル

律・滯・唯・紬・梓・慎・修「……(汗)」

律「……結花の奴も結構大胆な事するな……(汗)」

滯「…多分……空気読んでくれたからだと思うけど……(汗)」

唯「奈々ちゃん……（汗）」

修一「馬鹿馬鹿しい……（汗）……それじゃ俺もこの辺で失礼するわ……」

律「おう！また明日な！」

滯「またな」

唯「ばいばい！」

紬「またね♪」

梓「お疲れ様でした！」ペコリ……

慎弥「お疲れ……」

………

……圭吾宅……

圭吾「ただいま……」ガチャ……

薫父「薫！！」

圭吾「大丈夫ですよ……飯食ったら安心したか知らないですけど寝てしまいましたよ……」ハハハ……

薫母「…圭吾くん……本当にありがとう……」

薫父「……すまない……」ペコ……

圭吾「いえいえ……」

薫父「…それじゃ……これで……」

薫母「…ウチの薫がご迷惑おかけして……」

早希「きおつけて帰ってくださいね……」

薫「…むにゃ……もう……お腹いっぱい……」 Z Z Z …

ボタン………

早希「……ふう……まあ一件落着ね……」

圭吾「……ああ……」フラ…

早希「？あんた顔赤いわよ！？」

圭吾「……マジ？」

早希「あんたまさか……風邪ひいたんじゃ……！」

圭吾「……わかんね……まあ一晩寝りゃ治るって……」スタスタスタ…

早希「……もう……勝手にしなさい！」

~~~~~次の日~~~~~

……AM6…30……

圭吾「……頭いてえ……」ムクツ…

圭吾「……」ボー……

圭吾「……なんか体が熱いな……まさか俺本当に風邪ひいたんじゃない……」

圭吾「……とにかく……熱計るか……」

……

早希「……よつと……！」↑弁当作ってる

圭吾「……」ガラッ……

早希「……?どうしたの?まだ起きる時間じゃないわよ?」

圭吾「……姉貴、俺今日学校休むわ……」

早希「はぁ!?!」

圭吾「……やっぱり風邪ひいてた……熱計ったら39度もあつたわ……」

早希「ちよつ……!もうお弁当作っちゃったわよ!?!」

圭吾「…スマン……姉貴は学校に電話して今日休むって言うって  
……」スッ……

早希「ちょっと圭吾!!……もう……!!」

早希「…お弁当どうしょ……(汗)」

……

圭吾「…まさか俺が風邪ひくなんてなあ……」

圭吾「…今日はゆっくり休むか……」

～fin～

## #06 大喧嘩!! (前書き)

久々に更新です ( ^ ω ^ )

久々に書いたんで内容がグダグダですがよろしくお願いします ( ;  
^ | ^ A

## #06 大喧嘩!!

圭吾「…くっそぉ…まさかこの俺が風邪ひくなんて…」

早希「圭吾く？ 入るよ？」コンコン！

圭吾「…あゝ…」

ガチャ…

早希「咳は出てないみたいね…」

圭吾「…ああ…そのかわり頭がガンガンする…」

早希「…とりあえず…氷枕持ってきたから…大人しく寝ておくのよ!？」

圭吾「…ああ…」

早希「…さてと…あっ! …お昼ご飯はお薬と一緒にテーブルの上に置いてあるから…ちゃんとご飯食べてからお薬飲むのよ!？」

圭吾「…わかったって…」



早希「…じゃ…お姉ちゃん仕事に行ってくるから…」スツ…

圭吾「……」

ガチャ…

ミー太「ミャ〜?」トコトコ…

早希「はいはいミー太…部屋に入っちゃダメよ〜?…」ヨシヨシ…

ガチャン……

圭吾「……」

圭吾「……とりあえず寝るか……」

……………

……学校……

律「まさか圭吾が風邪ひくなんてなあ……」

漚「だから昨日圭吾の奴元気がなかったのか…」

唯「圭吾くんが風邪ひくなんて珍しい…」

紬「圭吾くん大丈夫かしら……」

慎弥「大丈夫なんじゃないの？あいつ中学の時風邪で休んでんのにコンビニで雑誌立ち読みしてたの見たからな俺（汗）」ハハハ…

修一「あん時はマジでビックリしたよな、フツ―に立ち読みしてたから（汗）」

律「なんじゃそりゃ…（汗）」

漚「……（汗）」

奈々「…でも圭吾くんがいないとな…んか寂しいねえ…」

律「確かに……」

……その頃、梓は………

梓「……」ボー……

純「梓く？お昼一緒に食べよ……って梓？」

梓「……」ボー……

純「……（汗）」

憂「どうしたの？」

純「梓ったら……今朝かさこーなの……（汗）」

憂「そうなの？……それじゃ……えいっ！」↑梓に目眩まし攻撃

梓「にゃっ！？」ビクッ！？

純「……憂……なんて古典的な事を……（汗）」

憂「えへへ……／＼／＼」

純「それはさておいて……梓く？今日なんか変よ？どうしたの？」

梓「……うん……実は片山先輩が風邪で学校休んでるみたいなんだって

……」

純「へ〜……あの人が……」

憂「それで朝からボーッとしてたの？」

梓「うつ、うん……／＼」モジモジ……

純「赤くなってる赤くなってる♪」

梓「うつ、うるさいうるさい〜!!／＼」カァー……

純「おっ、怒られた……」ヨヨヨ……

憂「よしよし♪」

梓「もうっ……!!／＼」

梓「……でも……やっぱり心配するな〜……」

梓「……帰りに先輩の家にお見舞いに行こ……」

.....

~~~~圭吾宅~~~~

圭吾「……37度……とりあえず熱は下がったか……」

圭吾「……もう12時か……飯でも食うか……」ムクツ……

.....

圭吾「……食った食った……薬飲んでまた一眠りするか……」

.....

~~~~再び、学校~~~~

律「ん……!! やっと授業終わったあ……!!」フワァ……

滯「律、今日掃除当番だぞ?」

律「なんと!!? (汗)」ガーン!

慎弥「さぼんなよ? (笑)」ハハハ……

律「……ぐっ!……きゅっ、急に体の具合が……!!」ウウ……

慎弥「滯さあゝん？律具合悪いんだってえ」

滯「らしいな、こーゆーのは拳骨一発頭にやると治るらしいぞ？律  
…」スッ…

律「さゝ掃除やるぞゝ！！」(汗)

修一「……」(汗)

奈々「……ZZZ」スヤスヤ…

唯「……ZZZ」スヤスヤ…

紬「あの……唯ちゃんと奈々ちゃんが……」(汗)

滯「……」(汗)

律「…ったく……」(汗)…唯ゝ！起きろゝ！掃除するぞゝ！」ユサ  
ユサ…

唯「…むにゃむにゃ…大丈夫だよ…憂…今日は日曜だも  
ん…ZZZ」スヤスヤ…

律「ダメだこりゃ…(汗)」ハア…

漣「奈々！ほら起きろ奈々！！」ユサユサ…

奈々「…ZZZ」スピー…

漣「…ダメだ…いくら揺すっても起きないぞ？(汗)」

紬「困ったわあ…(汗)」

律「…あっ！そうだっ！！」

漣「どうしたんだ律？」

律「しーっ…！！…オホンッ！…唯、ケーキだぞ？」

唯「…むにゃ？」ムクツ…

漣・慎・修「起きるんかい！！(汗)」ガビーン！

唯「あれえ〜? ……ケーキないじゃん……」キヨロキヨロ……

慎弥「当たり前だ（汗）ほらっ、さっさと掃除しろよ？俺と修一は先に部屋に行ってるからな」スッ……

修一「お先〜」スッ……

唯「ぶう〜……」ムスー……

律「はいはい変な顔しない！」

唯「むう〜……あれっ？奈々ちゃんは？」

律「奈々ならまだ寝てるんじゃない？」チラッ……

奈々「……」↑黙々と掃除してる

律「っていつの間に起きたんだよ!!?」ガビーン！

滯「……律、奈々をよく見てみな……（汗）」



律「ん？」

奈々「…スピー…」サッサッ……

律「ねっ、寝ながら掃除してるし……（汗）」

唯「奈々ちゃんすごい♪」

漣「何の夢を見ながら掃除してるんだ？（汗）」

律「寝ぼけてるにもほどがあるぞ…（汗）」

紬「…ねっ、ねえ、起こさないの？（汗）」

律「…面白そうだからしばらくこのままでもいいんじゃないか？（笑）」

漣「何言ってるんだか全く……」ハァ…

奈々「……おにゅちゃん……それ私のプリン……」スピー……

.....

慎弥「…んで、結花のギターソロが終わったら次は俺のベースソロで…」スタスタ…

修一「おお、なかなかいいかもしれないな」スタスタ…

さわ子「2人で何の話してるの？」

慎弥「先生か、実は今度の新曲作曲の方俺と修一に任されたんだよ」

修一「今までは圭吾にすべて作ってもらってたけど今回は圭吾がダウンしたからな…」

さわ子「大変ねえ…でもあなた達もきおつけなさいね？」

慎弥「はーい」

修一「先生今日も会議？」

さわ子「そうなのよ…早くお茶したいわ…」

慎弥「先生ホントそればっかだな（汗）」

さわ子「…ってへ！♪」

慎・修「いや可愛くねえから」

さわ子「…！？」ガーン！

梓「…早く行かなきゃ……ってあれ？…山河先輩と高山先輩……何してるんだろ…？」タツ…

さわ子「…とっ、とにかく！！修学旅行も近いんだから風邪ひかないようにね！」スッ…

慎弥「あゝい…」

修一「はいはい…」

梓「お二人ともこんなところで何してるんですか？」

慎弥「梓か…今日は圭吾がいないから寂しいんじゃないのか？（笑）」

梓「そっ、そんな事ありません！！！！／／／カァー…」

修一「顔赤いよ梓」

梓「っ！！／＼／＼」ボンッ！

慎弥「あららあゝ…（汗）」ハハハ…

修一「おい…大丈夫か梓？（汗）」ユサユサ…

結花「……………」スタスタスタ…

結花「…？あれは…」スタスタスタ…

慎弥「ダメだ…梓の奴全然反応しない…（汗）」

修一「もとはといえばお前の仕業だろ（汗）」

結花「…何かあったんですか？」

慎弥「実は修一のせいで梓が…」

修一「俺のせいだよっ！！！？」ガビーン！

慎弥「まあとにかくこのザマで…（汗）」

結花「…困りましたね…（汗）」

慎弥「…そうだっ！」キラーン！

修一「どうした？」

慎弥「梓く、しっかりしろく！」ユサユサ…

梓「…！」ボー…

慎弥「…！（怒）」イラッ

慎弥「…日本人形…」ボソッ…

梓「…！」ピクッ！

修一「日本人形…」（汗）」

結花「…（汗）」

梓「今…誰か私のこと日本人形って…」

慎弥「誰も言っていない言っていない！ほら行くぞ！」

梓「は、はい……」

結花「…日本人形？」

修一「梓って普段は髪はツインだけどどいたら日本人形みたいになるんだよ…（笑）」ヒソヒソ…

結花「…そうなんですか…（汗）」ハハハ…

修一「本人結構気にしてるみたいだから……この事はタブーな…」

結花「…言いませんよ（汗）」

……音楽室……

慎弥「さてと！……今日は久々にオーバードライブでも使うか！」

梓「ベースでもオーバードライブ使うんですか？」

慎弥「主に空の虹のソロ位しか使わなかったけど今作ってる新曲にもまた使うことにしたんだ」

梓「へえ……そういえば山河先輩ってエフェクターはマルチじゃ

ないんですね？」

慎弥「俺マルチ嫌いなんだよなあ……機能が多すぎて使いこなせないから……（汗）」

梓「あつ、そういう理由で……（汗）」

慎弥「そっ！……んじゃまあ準備運動がてらに軽く流すか……」スツ……

ヴァアアーン！！！！

修一「なんだ！！？（汗）」ビクッ！

慎弥「……」グオワアアアーン！！バリバリバリ……！！

結花「……すっ、すごい……」

梓「物凄いテクニック……！」

慎弥「……ダメだ、こんなちっぽけなアンプじゃこいつの性能をフルに引き出せねえ……」

梓「十分引き出してると思いますけど……（汗）」

慎弥「やっぱライブ用のアンプじゃねーとダメだな……」スツ……

慎弥「はあゝ…」ギシ…

修一「さてと……俺も少し練習するかな……」スッ…

結花「…私も少し練習しよ……」スッ…

梓「……」

慎弥「……ふわあゝ…」

修一「……」ダカダカダカダカ…!!

結花「……」ジャカジャカジャカ…

梓（…やっぱ片山先輩のチームはいつ見ても演奏の技術が凄い……）

慎弥「…そゝいやさ、今度のライブの時二曲だけ楽器パートチェンジするらしいぜ？」

修一「マジで？」

慎弥「しかも圭吾がもう勝手に担当決めてるという……（汗）」



修一「俺は担当なんなんだ慎弥？」

慎弥「たしか…」ゴソゴソ…

～～～担当表～～～

V o × 2

(慎弥、結花)

G r (圭吾)

B a (修一)

D r (奈々)

……………

結花「わっ、私がボーカルですかっ!!!? (汗)」アセアセ…

慎弥「…いつもクールな結花がめっちゃ動揺してる… (汗)」

修一「ベースか…：：：確か倉庫にESPのベースがあったはず…：：：」

慎弥「大丈夫だって結花、俺もボーカルだし…何も緊張する事ないって！」ポンポンッ…

結花「…でっ、でも……」

慎弥「……まさか……結花って潑に似て極度の恥ずかしがり屋……」

結花「ちっ、違いますっ……！！／＼／＼」ベシーン！！

慎弥「いってえー！！！！」

結花「すっ、すみませんっ……！！（汗）つい……！！」アセアセ…

修一「おっかねえ……（汗）」

梓（…それに比べて……私達は……）

修一「……？梓？何してんだ？難しい顔して……」

梓「あっ、いえ……！何も……」アセアセ…

修一「……？」

律「はあゝ疲れた疲れたゝ!!」ガチャ…

漑「お前はロクに掃除してないクセによく言うよ…」ハア…

唯「あずにゃん♪」タタタ…

奈々「あずにゃん♪」タタタ…

梓「にゃっ!!?」

唯「あずにゃん久しぶりゝ…!」スリスリ…

奈々「あずにゃんの頬っぺた柔らかゝい♪」スリスリ…

梓「やつ、やめてくださいっ!!!!」バツ!

唯「どっ、どうしたのあずにゃん? (汗)」アセアセ…

奈々「あっ、あずにゃん?…」

律「どっ、どうしたんだよ梓…急に…」

漑「…いつもの梓らしくないぞ?…」

慎弥「なんだなんだ? (汗)」

梓「このままじゃダメです！！律先輩達は危機感というものを感じていないんですか！！？」

紬「…あつ、梓ちゃん落ち着いて…」

梓「落ち着いていられせんっ！！！」

結花「…なっ、中野先輩……」

梓「…いつも思うんです……片山先輩達と私達の…圧倒的な実力の差を……」

澪「圧倒的な実力差…」

梓「…私も片山先輩達に負けずと毎日毎日練習してきたのに……律先輩達は……」

律「聞き捨てならないぞ梓！！私達だって……！！」

梓「言い訳しないで下さいっ！！……お茶ばかり飲んで……あれのどこが練習しているんですか！！……？ちっとも練習してないじゃないですか！！！」

律「梓あ……！！言わせておけば……！！」 バッ！

漚「やめろ律っ!!」ガシッ!

律「放せっ!!!!一発殴らないと気が済まない!!!!」ググッ!!

唯「やめてよ2人ともおっ!!!!」オロオロ…

梓「殴るならどうぞ殴って下さい!!ほらっ!!!!」ズイッ!

紬「ふっ、2人とも落ち着いて……!」アセアセ…

慎弥「こらこら待て待て2人とも!!一回冷静になれ!!」

修一「落ち着け律っ!!」ガシッ!

律「放せえっ!!!!」ジタバタ…

漚「暴れるな律!!!!」グググ…!

結花「……一体どうしたら……!」アセアセ…

律「ぬうっ!!!!」ガッ!

漚「っ!!!!しまった!!!!」

修一「っ!!!!逃げろ梓っ!!!!」

梓「っ!!」

結花「…!!」

律「梓あゝ!!!!!!」グワァァァ!!」

ガシィッ!!!

律「!?!」

梓「…!?!」

結花「……………」ググッ…!!」

律「…結花…手を放せ…………!!」

結花「…すみません田井中先輩…………少しの間寝てて下さい…………」シ  
ュッ…!!

ドゴッ…!!

律「…うっ!!…………結…花…………!!」ズズズ…………

結花「……………」ガシッ!

結花「…すみません…………こうするしかなかったんです…………」

慎弥「ありがとな結花……結花が間に入ってなかったら今ごろ梓は……」

梓「…」

修一「とにかく律をソファーに運ぶぞ！」ヨイシヨツ…！

慎弥「ああ…」スツ…

………

慎弥「しかし……えらい事になったな……」

修一「こんな大喧嘩……圭吾の大喧嘩以来だぜ……」

澪「すまない……」

慎弥「何も謝る事ないだろ？俺たち同じ仲間じゃん！」

澪「慎弥…」グスツ…

唯「うっ…ううっ……」グスツ…

紬「ほら……泣かないで唯ちゃん……」

唯「…グスッ…!!…ムギちゃん……」ヒック…

紬「…大丈夫……大丈夫だから……!!」ポロポロ…

奈々「…ヒック…ヒック…!!」グスッ…

結花「…もう大丈夫ですよ宝井先輩……気をたしかにしてください…」

奈々「…結花ちゃん……!!」グスッ…

慎弥「…梓、お前今日はもう帰れ……そんで頭冷やせ……」

梓「……はい……」

慎弥「…ほらっ…ギター…」スッ…

梓「…ありがとうございます……皆さんお先に失礼します……」ペ  
コリ…

ガチャン……!

慎弥「…しかし律はいつまでこの状態なんだ? (汗)」



結花「…あと五分ほどかと……」

修一「…この後どうする？」

慎弥「…律が起き次第……今日はもう解散だな……こんな雰囲気じゃあな……」

修一「…そうだな…」

紬「大変……！！！！奈々ちゃんが……！！！！」

奈々「ゼエゼエ……！！！！」

慎弥「マジかよ……！！！！過呼吸かよ……！！！！」

唯「どっ、どうしよう……」アセアセ……

修一「袋だ！！袋持ってこい！！早く！！」

………

慎弥「…落ち着いたか……？」

奈々「…うん……」

澪「…でも……修一よく過呼吸の対処法を……」

修一「前テレビでやってたから…それでな…」

滯「……奈々はパニック状態に陥ってしまうと過呼吸になってしまうのか…」

奈々「…」コクン…

律「う…うう…」ムクツ…

結花「…あっ…田井中先輩が起きました……」

律「…梓は…?」

滯「今日はもう帰らせたよ…」

律「…そうか……」

結花「…田井中先輩……さっきはすみませんでした……」ペコリ…

律「…いや……いいんだ……私もあの時はどうかしてたし……」

慎弥「……まああれだ……今日はもう帰って自分のやった事をじっくり考える事だな……」

律「……」

慎弥「……帰るぞ……修一……」スツ……

修一「あっ、ああ……」

ガチャン……

奈々「……」

結花「……宝井先輩……私達も帰りましょう……」

奈々「……うん……」

澪「私達も帰るか……」

唯「……」グスツ……

紬「……」

律「……」

……………

~~~~圭吾宅~~~~

圭吾「…くそっ…なんでポット壊れてんだよ…！…腹立つ…！
！」↑ヤカン探してる

圭吾「あったあった…ちょっと時間かかるけど…まあいいか…
…」

ガチャ！ シュボツ！！

圭吾「…四時か…今ごろはお茶してるか…練習してるかのど
っちかな…」

ピンポーン…！

圭吾「…誰だよ…またセールスマンか？…」 スッ…

圭吾「…はい？」 ガチャ…

圭吾「…あれ…？…もしもし！？…なんだよこいつも壊れて
んのかよ…めんどくせえ…！」 ガチャン！

圭吾「遂にガタがきやがったかこの家も…」 スタスタスタ…

ガチャ…

圭吾「はい…？」

梓「……」

圭吾「梓……どうしたんだよ…！まだ部活終わる時間じゃないぞ？」

梓「きつ、今日は早く終わったんですよ…！（汗）」アセアセ…

圭吾「……ふうん……そうなんだ……」

梓「そつ、そうなんですよっ…！（汗）」アセアセ…

圭吾「……まあ……いいけど……」

ピュウウウゥ………！！！！

圭吾「やべっ…！！火い付けっ放しだった…！！」ダッ！

梓「あっ…」

ミー太「みゃゝ…」トコトコ…

梓「ミー太くん……ほらっ…おいで…」チヨイチヨイ…

ミー太「みゃ♪」ピョンツ！

梓「ふふっ…」ニコッ…

圭吾「ふうく…ギリギリセーフ…（汗）」

梓「…先輩はもう体の方は大丈夫なんですか？」

圭吾「ああ…：…なんとかな…：…昼に律達からバカみたいにメールが着てたよ…：…」

梓「…っ！」

圭吾「…オマケに唯と奈々のメールは誤字脱字だらけだし…：…内容がイマイチよくわかんなかったよ…」ハハハ…

梓「…うう…！！」ポロポロ…

圭吾「…へっ！？何何！！！？どうした梓！！？（汗）」アセアセ…

梓「…すみません…：…うう…！！」ポロポロ…

圭吾「とっ、とにかく！！あがれよっ！なっ！！？（汗）」アセア

セ…

梓「…はいっ！…」ヒック…ヒック…

………

圭吾「…なるほどねえ…律と大喧嘩したか…」カチャカチャ…

梓「……」

圭吾「…まあ…コーヒーでも飲めよ…」カチャン…

梓「…頂きます…」スッ…

圭吾「…お前らしくねえな…喧嘩するなんて…」

梓「…あの時は…どうかしてました…」

圭吾「…原因はなんなんだ？律と大喧嘩したのは…」

梓「…はい…実は…」

………

圭吾「……」

梓「……」

圭吾「…自分で言うのはアレかもしれないけど…確かに俺達はエリートかもしれない…けど俺達のチームだって色んな問題があるだぜえ？」

梓「…色んな…問題…」

圭吾「まずは慎弥、あいつは確かにベースの腕はピカイチだ…けどあいつは自分の才能に溺れ過ぎて家では全く練習しない…次は修一…あいつはたまに勝手にアドリブを入れたりするし、ミスったりするとパニックってリズムがめっちゃめっちゃになってしまう事がある…」

梓「…片山先輩達にも色々問題点があるんだ…」

圭吾「奈々はよく間違えてキーボードを弾き間違えたるするし、コーラスでは歌詞間違えたりする…結花はコードをよく間違えたりする…そして俺はたまに歌詞を飛ばしたりギターソロを間違えたりするし…俺達も結構色々大変なんだぜ？」

梓「……」

圭吾「お前達はあるまり上手くないけど…チームワークは俺達よりもかなり上だぜ？」

梓「…チームワーク……」

圭吾「そうっ！技術うんぬんよりもチームワークは何より大事だっ！」

梓「…そうですよね…片山先輩の言う通りかもですね…私が間違っていました！」

ミー太「みゃゝ…」ペロツ…

梓「ミー太くん……」

圭吾（…なんかミー太腹立つ…！（怒））

早希「ただいまぁゝ…」ガチャ…

早希「…あらっ？梓ちゃん来てたの？」

梓「お邪魔してます…」ペコ…

早希「相変わらずかわいいわねえ梓ちゃん♪」

梓「そっ、そんな事ないですよ…！／／／」カー…

圭吾「帰って来て早々何してんだよ（怒）」

早希「だって梓ちゃんかわいいじゃん♪」

圭吾「馬鹿だこいつ…（汗）」ハア…

早希「それよりもあんたもう大丈夫なの？」

圭吾「熱は35度まで下がったからもう大丈夫…」

早希「あんたってホント昔から風邪治るの早いわねえ…」

圭吾「……」ポリポリ

早希「…あらっ？梓ちゃんちよっと…」

梓「へっ？」

早希「……綺麗な髪ねえ…私の美容院のお客さんでもこんな綺麗な髪のお客さんはいないわ……」

梓「そっ、そうですか？／＼／＼」

圭吾「……（汗）……そうだ……姉貴、今日慎弥達家に呼んでいいか？」

早希「いいけど……呼んでどうすんの？」

圭吾「バンドの事でちよつとな……」

早希「ふうくん……じゃお姉ちゃん夕飯の準備するから……あつ、そうだ！梓ちゃん夕飯食べてく？」

梓「わっ、私は結構です！（汗）」アセアセ……

早希「遠慮しないでいいのに……」スッ……

ガチャン……

梓「……先輩のお姉さんって美容師なんですか？」

圭吾「ああ……」

梓（……いつ見ても……片山先輩のお姉さんは綺麗だな……性格は先輩そっくりだけど……）

圭吾「それはそうと……梓、7時にまた俺ん家に集合な……」

梓「えっ？」

圭吾「律達は俺が連絡する……必ず来いよ？」

梓「でっ、でも……」

圭吾「必ず来いよ梓あゝ…（怒）」↑めっちゃ怖い目してる

梓「うっ……！わっ、わかりました…（汗）」

圭吾「よし…」

梓「…それじゃまた7時に来ますね……」スッ…

圭吾「おう……」

梓「失礼します……」

………

圭吾「…さて……こっからが正念場だ……」

……そして、午後7時……

慎弥「お邪魔しまゝす…」ガチャ…

圭吾「来たか……まあとりあえず和室に入れよ…」

慎弥「あつ、ああ……でもお前体は……」

圭吾「んなもんとつくに治ったわ！」

慎弥「治るのはえーよ…（汗）」

ガチャ…

修一「…こんばんわ…」スッ…

結花「…こんばんわです…」スッ…

圭吾「おっ？ 2人とも一緒だったのか！」

修一「一緒に電車だったから……なあ？」

結花「…はい…」

圭吾「まあとりあえずあがれよ、もう先に和室に慎弥がいるから」

修一「ああ…」

結花「…お邪魔します…」

………数分後………

奈々「こんばんわ〜…」ガチャ…

シン〜ン……………

奈々「…あれっ?こんばんわ〜!」

……………

奈々「…」

奈々「…(泣)」

早希「どなた?」ヌツ

奈々「あっ!わっ、私圭吾くんの友達の…!」アセアセ…

早希「ああ、奈々ちゃんね!今圭吾和室にいるから!さああがって
!」

奈々「はっ、はい!」

早希「何もそんなに緊張しなくてもいいのに〜(笑)」

奈々「あっ、はいっ!…」ドキドキ…

奈々「…圭吾くんのお姉さん凄い美人……」

……さらに数分後……………

紬「こんばんわ…」 ガチャ…

滯「こんばんわ…」

律「こんばんわ…」

早希「圭吾達今和室にいるから、さああがって！」

紬「あっ、はい…」

滯「お邪魔します…」

律「…お邪魔します…」……………

~~~~和室~~~~

圭吾「……これで皆そろったか？」

慎弥「いやっ、まだ唯と梓が……」

ピンポーン……

圭吾「…！」

ガチャ…

唯「こんばんわ…」 スッ…

梓「……」スッ……

早希「圭吾達は二階の和室にいるから、さああがって!」

唯「おっ、お邪魔しま〜す…」

梓「お邪魔します…」

………

圭吾「……さて……律、梓……お前ら今日喧嘩したんだってな……」

律「……」

梓「……」

圭吾「その時俺は現場にいなかったからどーゆう成り行きで喧嘩に発展したか知らねえけど……まあ……大変な事になったな……」フ  
ゥー……

滯「……私達も悪かったんだ……真面目に練習しないから梓がキレ  
たんだよ……」

紬「……私達が真面目に練習してたら……こんなことはなかったの  
に……」

唯「…ねえ…りっちゃん…あずにゃん……仲直りしてよ……」



奈々「…私からお願い……2人とも仲直りして……」

結花「……」

律「……」

梓「……」

ガラッ！

早希「お茶入ったわよ？」

圭吾「っ！（汗）」ズルッ！

慎弥「……（汗）」

修一「……（汗）」

早希「…何？皆どうしたの？えらくかしこまっちゃって…」

圭吾「…（怒）」ガシッ！

早希「何何何っ!!? (汗)」

ボタンッ!

圭吾「バカッ! 何入って来てんだよ!」 ヒソヒソ:

早希「だって……お客さんにお茶出すのは当たり前でしょ?」

圭吾「空気読め! (怒)」

早希「何よぉ……せつかく気いつかってお茶持ってきたのに……」  
ムスー:

圭吾「ったく……」 ガラッ:

圭吾「スマン……(汗) ……じゃあ気を取り直して……」

ガリガリガリ……

漣「?…何の音だ?…」

唯「…何かを引っ掻いている音だね……」

圭吾「…(汗)」ポリポリ…

圭吾「…皆ホントごめん……多分家の猫が……」

漑「えっ？猫っ！？」キラーン

唯「猫！？」キラーン

慎弥「おゝい……(汗)」

奈々「げっ……猫……(汗)」↑猫アレルギー

圭吾「…(汗)」ガラッ…

ミー太「みゃゝ……」ヒョコッ…

紬「あっ♪かわいい♪」

圭吾「…こいつまた姉貴の部屋から……(汗)」

漣「……かわいいな……」

律「…確かにかわいいな……なあ圭吾、名前は何て言うんだ？」

圭吾「ミー太」

律「ちよっ…！」ププッ！

圭吾「名前付けたの俺じゃないからな（怒）」

慎弥「…何やってんだ結花？（汗）」

結花「すっ、すみません……私動物苦手なんです…（汗）」

唯「別に怖くなんかないよ〜？ほら〜♪」スッ…

ミー太「みゃ♪」

結花「…うっ…」

梓「大丈夫だよ…この子いい子だから……」スッ…

結花「……あっ…温かい……」

唯「別に怖くなんかないでしょ？」

結花「…はい……」ニコッ…

ミー太「みゃっ！」バツ！

結花「…あっ…」

梓「えっ！？…ちょっ…！」

ミー太「みゃ…」

滯「…やけに梓になついてるな…」

唯「やっぱり同じ仲間だからかなあ〜？」

梓「ちっ、違いますよっ！！（汗）」アセアセ…

律「…なあ梓、私にも抱かせてくれないか？」

梓「えっ、あっ、はい…」スッ…

律「…かわいいな……」クスッ…

梓「…はい…」クスッ…

律「……梓……ごめんな……殴ろうとしたりして……」

梓「…私の方こそ……すみませんでした……勝手な理由でキレたりしちやって……」

圭吾（おっ？）

唯「りっちゃんっ！」「ガシッ！

奈々「あずにゃあゝんっ！」「ガシッ！

律・梓「っ！！？」

唯「仲直りしてくれてありがとう2人ともおゝ！！！」↑鼻水& a m p ; 涙で顔がぐちゃぐちゃ

奈々「あずにゃあゝん！！！」↑同じく鼻水& a m p ; 涙で顔がぐちゃぐちゃ

律「こっ、こら唯っ！！鼻水鼻水っ！！（汗）」アセアセ…

梓「ちょっ！奈々先輩！！？（汗）」アセアセ…

慎弥「おゝおゝ……唯と奈々の顔ぐちゃぐちゃになってんぞ？」  
「ハハハ…」

修一「…あつ、ミー太が避難してきた…」

ミー太「みゃゝ………」（汗）「タジタジ…」

圭吾「…律、梓、ちよつとこっちに…」チヨイチヨイ…

律・梓「…？」

圭吾「そこに正座しろ」

律「なんだ？」（汗）「」

梓「さぁ？」（汗）「」

圭吾「…よっ！」ブンッ！

ゴチンッ！

律「いてっ！！」

梓「いたっ！！」

圭吾「もうこんな事すんじゃないぞ？」

律「あつ…でもいつもより痛くない…」

圭吾「もう一発してやろーかコラ（怒）」パキポキ…

律「かつ、勘弁してくださいえ！！（汗）」カビーン！

梓「…ふふっ…！！」

漣「全く……ホント圭吾はやり方が強引だな…（汗）」

紬「…でも…りっちゃんと梓ちゃんが仲直りしてよかったわ…！」  
フフツ…

ミー太「みゃゝ…」チョンチョン…

漣「ん？」

ミー太「みゃゝ♪」スリスリ…

漣「…この子のおかげで2人が仲直り出来たと言ってもおかしくないからな……ありがと……」ヒョイツ…



ミー太「みゃ？」キョトン…

結花（…とりあえず…一件落着…かな？）

慎弥「てかお前らその顔なんとかしろ（汗）」

唯・奈「ふえっ？」ポカーン…

……数日後……

律「いよいよ明日修学旅行かぁ〜！」ワクワク…

唯「楽しみだなぁ〜…！」ワクワク…

滯「7時に校門前に集合か…今日は早く寝ないと…」

紬（夜は絶対に枕投げよ♪）ワクワク…

圭吾「……」↑自前のノートパソコンで慎弥と修一が作った曲を編曲中…

慎弥「一日目はどこ回るんだ？」

修一「確か…神社系を回るはず……」

慎弥「結構アバウトだなおい（汗）」

奈々「私あれが見たいなあ〜…なんだっけ……東京タワーに似たやつ……」

梓「京都タワーの事ですか？（汗）」

奈々「そうそれっ!!」

結花（…修学旅行……か…）ボ…

唯「ゆ〜かちゃん♪」ヌツ!

結花「きゃあっ!!?（汗）」ドキッ!

慎弥「何もそこまで驚かなくても…（汗）」

唯「お土産期待して待っててね〜♪」ギュウ〜…!

結花「…はっ、はい…／／／」

唯「あずにゃ〜ん♪」バツ!

梓「やつ、止めてくださいっ！！！！／／／グググ：

紬「いいわねえ…」キラキラ：

律「何変なスイッチ入ってんだよ（汗）」コツンツ！

紬「いたあっ！！」

圭吾「……」カタカタカタカタ：

漣「…さっきから何やってるんだ圭吾？」チラッ：

圭吾「……慎弥と修一が作曲したのを編曲してんだけど……なかなか終わりそうにねえな……」カタカタカタカタ：

漣「大変そうだな…」

圭吾「まあもう慣れたけどな…」へへッ：

漣「……」

圭吾「……よしっ……今日はこの辺にするか……」パタン…

圭吾「聞いたぞ慎弥、お前6弦ベース弾けるんだって？」

慎弥「まだ慣れてないけど8割使いこなせてきたよ……でもなんせ重たい……（汗）肩にかかる負担がハンパないよ（汗）」

修一「そーいや俺楽器パートチェンジバンドの担当楽器ベースだったな……慎弥、エフェクターなんか貸して」

慎弥「貸してって……もうB O S Sのマルチエフェクターしかないけどそれでもいいか？」

修一「とにかくなんでもいいから貸してくれ、昨日久々に弾いたんだけど直アンじゃやっぱ物足りないよ…」

慎弥「なにが物足りないだよ（汗）あのアンプエフェクター無しで充分だ（汗）」

律・唯・滯・梓・奈（金持ちの言う事はやっぱ違うなあ……（汗））

圭吾「……（汗）」

結花「…？」 ↑ 結花は修一が金持ちなのはまだ知らない

……いよいよ修学旅行が明日に迫って来た………

）  
f  
i  
n  
（

## #07 修学旅行!! その1!! (前書き)

久々に更新です(;^|^A  
今回は修学旅行編です(^ω^)

## #07 修学旅行!! その1!!

〰〰新幹線内〰〰

律「いやあ〜テンション上がるなあ〜!!」ウキウキ…

唯「あっ!富士山だあ〜!!」

漣「…全く…やかましいな…(汗)」ハア…

紬「まあまあいいじゃない♪はいっ、お茶どうぞ♪」ニコッ…

漣「あっ、ありがとう…」

奈々「うーん…!!早く着かないかなあ〜!？」

慎弥「まだあと一時間くらいかかるから大人しくしとけ」

奈々「う〜…」ブー…

修一「暇だ…」ボー…

圭吾「……」カタカタカタカタ：

律「まーたパソコンいじってんのかあ〜？」ズイッ

圭吾「この修学旅行中には完成させないとな……なんとしても……」

律「無理すんなよ〜？」

圭吾「てめえに心配される筋合いはねえよ」コツンッ！

律「ってえ！！！」

圭吾「……少し寝るか……京都着いたら起こしてくれ……」

律「……一生寝てろ……」ボソッ……

圭吾「……（怒）」↑空になったコーヒーの缶をいとも簡単にペシヤンコにした

律「うゝっ！！」（汗）」

慎弥「バカだなあ……」



唯「お菓子た〜べよ♪」ガサゴソ…

奈々「みんなクッキー食べる〜？」

律・唯「食べる〜♪」ハイ！

漣「……先が思いやられる…（汗）」ハア…

……数日前……

漣「……えっ？和一緒の班じゃないのか？」

和「ええ…でも班は4人までだからあなた達だけで回った方がいいと思うのよ……」

漣「でっ、でも……」

和「唯の事、頼むわね」ポンッ…

漣（ええ〜！！？（汗））ガビーン！

……………

漣（こっちには律が……律もいるんですがあ〜……（泣））ウウウ…

和（…なんか…視線が…（汗））

～～～京都駅～～～

律「ついた～！！京都に～！！！！」

唯「京都～♪」

奈々「着いたどお～♪」

慎弥「全く…旅行先でも相変わらずだなこの3人は…」ハハハ…

修一「そうだな…」フツ…

圭吾「あゝ…ねむっ…」フワァ…

澪「着いた…」スツ…

紬「ワクワクするわあ～♪…」ウキウキ…

さわ子「あなた達早くしなさい！バス来てるのよ！？」

〃〃バス車内〃〃

唯「お菓子た〜べよ♪」ゴソゴソ…

滯「またか…さっき新幹線の中で食べただろ…?」(汗)

唯「次これた〜べよっと♪」

滯「聞いてない…」(汗)

奈々「京都京都〜♪」

慎弥(奈々のやつ…楽しそうだな…) フツ…

奈々「慎弥くん! 飴食べる?♪」

慎弥「えっいや俺は…!」(汗)

奈々「はいどうぞ♪」グイッ!

慎弥「んぶっ!?!?」(汗)「モゴモゴ…」

修一「おーおー…ラブラブだなお二人さん(笑)」

慎弥「うっ、うるへえっ!!」／／／

圭吾「…ZZZ…」スー…

〃〃〃金閣寺〃〃〃

律「うはぁ…‥‥金ぴかだなぁ…‥‥！」

唯「あれ全部本物の金なの？」

漑「多分そうなんじゃないかな…」

圭吾「…疲れた…‥‥おい慎弥、あっちに茶屋があるから行こうぜ」

慎弥「あつ、ああ…」

修一「…ホントに金ぴかだな…‥‥」

奈々「ちよつと待ってよぉ！」

紬「ねえ、私たちも行ってみない？」

漑「そうだな…‥‥少し休むか…‥‥」

律「お茶お茶…♪」タタタツ…

唯「お茶〜♪」タタタツ：

滯「つておいっ！！（汗）」

紬「あらまあ…」クスッ：

………

圭吾「…なんか和菓子みたいなのもあるけど……これはどうすりやいいんだ？」

慎弥「多分お茶飲んだあとに食べるんじゃないか？」

紬「…聞いた話なんだけど、和菓子を先に食べてからお茶を飲むとより抹茶の苦味が引き立つんですって」

律・唯・滯・圭・慎・修・奈「へえ〜……」

律「この和菓子はそういう為にあるのかあ〜……」

圭吾「…やっぱムギは上品だな……それに比べて律と慎弥は……」  
ハア…

律・慎「何でだよっ！（汗）」

律「それなら奈々も言えない……ってあれ？（汗）」

奈々「…？どうしたの？」

滯「奈々……昔茶道とかやってた？」

奈々「うん、実は私のお母さん茶道の先生をしてるからそれで……」  
エヘヘ…

律「なっ、なんと……（汗）」

唯「凄～い奈々ちゃん♪」

滯「全く……律も奈々を見習えよな……」

唯「そうだよ！っちゃん？意地汚いよ？」

律「お前に言われたくねえよ（汗）」

唯「……うぺっ！！でもやっぱにが～い！（泣）」

慎弥「おっ、俺もういらん…（汗）」

修一「俺もギブ…」

圭吾「……」ズズズ…

慎弥「…こいつはこいつでフツーに飲んでるし…（汗）」

律「…にっ、苦っ……（汗）」

滯「……（汗）」

紬「……今日はいいい天気ねえ…」ボー…

奈々「ホントですなあ…」ボヘー…

圭吾「お前らは縁側でくつろぐ年寄りか（汗）」

さわ子「あと10分で出発しますよー!？」

圭吾「…あと10分か…」

慎弥「どうする？」

圭吾「俺便所行って来る…」スッ…

修一「俺も…」スッ…

慎弥「なんだよ連れションかよ〜！」

圭吾「じゃあお前ついて来んなよ」スタスタ…

慎弥「んな冷たい事言わないでよお〜！」（苦笑）「タタタッ…

律「…アホらし…」（汗）「

奈々「…私はどうすれば…」（汗）「

潯「ついていかんでいい」（汗）「

……………



律「ついた〜!!」

圭吾「いちいちうるせえよ」

唯「北野……天満宮〜?」

漣「ここが……学問の神様の……」

奈々「地元の神社と変わらないね!」

慎弥「地元の神社と北野天満宮を比べるな(汗)」

紬「とりあえずどうする?」

唯「お茶にしよう!」

律・漣・圭・慎・修「さっき飲んだろうがっ!!」(怒)」

唯「ひええ〜……!」(泣)」

圭吾「とりあえず……そこら辺を探索するか……」

慎弥「俺お守り買ってくる！」タツ！

圭吾「あっ、おい…！」

修一「俺も買ってくる…」スッ…

圭吾「しょうがないな…おい奈々、行くぞ」スッ…

奈々「あっ、うんっ！」タツ！

律「…私もお守り買いに行くか？」

滯「…まあ…そうするか…」

紬「何のお守り買おうかしら…」

唯「暇だよお…！」

……………

圭吾「家内安全と…学業のお守りをっ…」

慎弥「俺は家内安全と交通安全のを…」

圭吾「交通安全って……小学生かよ……」

慎弥「やかましい(汗)」

修一「……」↑ためらうことなく縁結びのお守りに手を伸ばしている

圭・慎「おいっ！(汗)」ビシッ！

修一「べっ、別にいいだろっ！！？／／／」

ギャーギャー……

律「…なーんかあっちは騒がしいなあ(汗)……」

澪「律も人のこと言えないだろ(汗)」

唯「どれにしようかなあ…」ウーン…

紬「私は家内安全と商売繁盛のお守りを…」

律「もうすでに商売繁盛してるだろ（汗）」

奈々「うゝ……いっぱいあるから迷うよおゝ……」

慎弥「……」

奈々「ムウゝ……」

慎弥「…ほれっ…奈々…」スッ…

奈々「？何これ？」キョトン…

慎弥「まあ……アレだ……その……いつか渡そうと思ってたんだが……なかなか渡すタイミングがなくて……／＼」ポリポリ…

奈々「…慎弥くん……ありがとう!!」ギュッ!!

慎弥「わっ!! バカバカバカ!!」／＼「アタフタ…

律「…なーにやってんだお二人さゝん（汗）」

澤「……（汗）」

唯「どうしたの？」

紬「奈々ちゃんったら…（汗）」アハハ…

圭吾「いいねえお二人さん、熱いねえ（笑）」

修一（慎弥の野郎…！（怒））

しばらくして……………

圭吾「もう全部回ったかな？」スタスタ…

律「あっ、和だっ！」

唯「何してるの和ちゃん？」

慎弥「牛の銅像みたいなのがあるな」

圭吾「北野天満宮の神様は確か学問の神様だからその神様の使いなんじゃねえか？その牛の銅像」

和「まあ…大体はあってるけど…（汗）」

律「これがそうなのかあ…」

奈々「以外だな…」

和「それでね、この牛の銅像をこうやって撫でるとね、頭が良くなるって言われてるの」

律・唯・慎・奈「!!!」キラーン！

律「よしよしよし♪」ナデナデ

唯「いい子いい子♪」ナデナデ

慎弥「よしよいい子だなあ♪」ナデナデ

奈々「頭を良くして下さい♪」ナデナデ

圭吾「…バカだこいつら…（汗）」

滯「…手のつけようがない…（汗）」

紬「あらあら…（汗）」

和「……きっとバチが当たるんじゃないかしら…（汗）」

さわ子「あなた達!! 一体何やってるの!!?」

律「げっ、さわちゃん!!（汗）」

さわ子「もうあなた達はホントにもう…!!!!」ガミガミ…

和「…やっぱり…（汗）」

〃〃〃某旅館〃〃〃

漚「全く……さっきので冷や汗かいたじゃないか……」

唯「はあ……疲れたあ……」グタァ…

紬「……」ガラッ…

紬「……よしっ!!」パタン…

律・漚・唯・奈「…?」

唯「…けど晩ご飯まで時間あるねえ……」

奈々「暇だぁ〜…」ゴロンッ…

律「トランプならあるぞ〜?」

唯「おお♪」

紬「私人生ゲーム持ってきたぁ〜♪」スッ…

奈々「じゃあお菓子でも食べながらしようよ♪」

律「おっ♪いいねえ♪」

滯「おいおい…もうすぐ夕飯だぞ? 今食べてたらご飯食べれなくなるぞ?」

律「大丈夫大丈夫〜♪」

滯「絶対残すなよ(汗)」

……圭吾達は……………



圭吾「あゝ……疲れた……」ゴロンッ……

慎弥「……げっ……！俺部室にベース置いたままだった……」

圭吾「別にいいだろ……？お前何台も持ってたんだから……」

慎弥「よくねえよ！！もし雨とか降ってその湿気でベースがやられたらどうすんだよ！！」

修一「慎弥はホントにベースを大切にするよなあ……（汗）」

圭吾「……わかったよ……梓に慎弥の家に届けてもらうようにメルで言っとくよ……だからもうでかい声出すな……次騒いだら殺すからな……」グタァ……

慎弥「何最後に恐ろしい事言ってたよ（汗）」

修一「……（汗）」

……そして、夕飯の時間……

女子A「あんた達もう食べないの？もったいな〜」

律「ちょっと休憩……ウプツ……！」ウツ……

唯「残さない約束だから……ウエツ……！」ウツ……

奈々「……おっ、お腹いっぱい……ウツプ……！」ウツ……

漣「……はぁ……（汗）」

紬「さっ、3人とも大丈夫？（汗）」

圭吾「あいつら何やってんだ？」モグモグ……

慎弥「さぁ……？」パクツ……

修一「なんか苦しそうだな……」モグモグ……

圭吾「……しかし……飯うめえな……」パクツ……

慎弥「……圭吾……椎茸食ってくれ……！！」スツ……

圭吾「…またかよ……お前ホントガキだな……」スツ…

慎弥「しょーがねえだろ……嫌いなもんは嫌いなんだから……」

圭吾「…椎茸うめえのになぁ……」パクツ…

修一「……俺は辛い食べ物が無理だな……」

慎弥「修一って辛いもん食うと確か腹壊すんだったっけ？」

修一「ああ……だから辛い食べ物はちよっとな……」

圭吾「修一はしょうがないとしてお前だよ、早く野菜嫌い直せ」パクツ…

慎弥「やかましい！」シュツ！

圭吾「あゝっ！！てめえ俺の海老天取んじゃねえ！！」

ギャーギャー………！！

和「…片山くんと山河くんっていつもああなの？（汗）」

修一「まあね…嫌になるよホント…（汗）」パクッ…

和「…ふふっ…」

……………

「103号室、圭吾達の部屋」

圭吾「そろそろ風呂に行くか」ムクッ…

慎弥「ここの大浴場広いかな？」

修一「お前絶対泳ぐ気だろ（汗）」

慎弥「イエスっ！♪」キラーン！

修一「何がイエスだバカ…（汗）」

慎弥「でもさあ…俺らの学校ってホント男子少ないよなあ…  
…」スタスタ…

圭吾「そりゃ……数年前まではウチの学校女子校だったからなあ……」  
スタスタ……

修一「隣のクラスなんか男子15人しかいないらしいぜ？」スタスタ……

慎弥「まさに女社会だな……」スタスタ……

「115号室、律達の部屋」

律「そんじゃ、そろそろ風呂に行くか！」

唯「お風呂お風呂」ウキウキ

漣「確か大浴場は一階だったな……」

紬「タオルとせっけんシャンプーと……」ゴソゴソ……

奈々「泳ぐぞー！♪」

漣「奈々、くれぐれも変な事するなよ……したら叩くからな……」  
ゴゴゴ……

奈々「はっ、はい（汗）」

律「ははは…」

漑「律もだぞ？」クルッ…

律「えっ、ええっ！?!?（汗）なんで私もっ！?!?（汗）」ガビーン！

……………

~~~~男風呂~~~~

圭吾「うゝ……極楽……」

慎弥「おっさんかお前は（汗）」

修一「ふうゝ……」チャポン…

圭・慎・修「……………」

圭吾「…俺達も来年でいよいよ卒業か……」

慎弥「圭吾と修一はもう進路決めた？」

圭吾「…まあ……一応美容関係の方に……」

修一「俺は大学の方に……慎弥は？」

慎弥「…まだ未定です（汗）」

圭吾「お前マジでニートになるぞ（汗）」

修一「あきれた……（汗）」ハア…

慎弥「うつ、うるせえっ！！！！（汗）」バシヤッ！！

圭吾「てっ、てめえいきなり何すんだコラッ！！！！（怒）」バシヤッ！

慎弥「やったなこの〜！♪」バシヤッ！

ギャーギャー……

修一「……全く……こいつらは……旅行先でも相変わらずだな……（汗）」ヤレヤレ……

…一方、女子風呂…

紬「澤ちゃんの髪凄い綺麗ねえ♪」

澤「…えっ？あつ、ありがとう……／＼……冬は乾燥して大変だけど……ムギも綺麗だよな！……それ、パーマなのか？」

律「……私も髪伸ばしてみよっかなあ……そしたら少しは女の子っぽくなるかな……？」

唯「…ぷっ！」クスッ…

律「…！なんだよお…！」（汗）「ムッ！

唯「ぷくくっ……！！」クスクス…

律「笑ったなこのお…！！」（泣）「バシヤッ！

唯「だって……！！りっちゃんの髪を伸ばしたのを想像したら……ぷっ……！！」プルプル……

律「笑うなあ……！！」（汗）「バシヤバシヤ……！！

ギャーギャー…………

漚「…？」クルッ…

紬「…なんだか楽しそうね…」クスッ…

奈々「ムギちゃん漚ちゃん…」（泣）「ヌッ…

漚「ひゃあっ！！！！？」（汗）「ドキンッ！

紬「どっ、どうしたの奈々ちゃん？」（汗）「

奈々「…慎弥くんから貰ったブレスレット…どこかに落としちゃった…」（泣）「ウウウ…

紬「いつ無くなったの？」

奈々「わかんない…」（泣）「

和「もしかして探してるのってまさかこれ？」スッ…

奈々「あっ、私のブレスレット！！どこにあったの！！？」

和「今唯達が入ってるお風呂のところに落ちてたわよ？」

奈々「ありがとう和ちゃん（泣）」

紬「見つかってよかったよかった♪」

和「もう落としちゃだめよ？」

奈々「うん…！」

紬「…でもすぐ見つかってよかったわね…」

奈々「…うん…」

紬「…あっ…！（汗）」

奈々「ん？」クルッ…

濡「……」チーン……

奈々「…申し訳ない……（汗）」

……一方、男風呂……

修一「……（汗）……じゃあ……俺先に出てるぞ？」

圭吾「このやろー！！」（怒）「バシヤバシヤッ！」

慎弥「まだやるかこのおー！！」（怒）「バシヤバシヤッ！」

修一「…のぼせんなよ…」（汗）「ボタン…」

修一「…全く……相変わらず仲がいいのか悪いのやら……」（汗）「ゴソゴソ…」

修一「……」ゴシゴシ…

先生「高山、中にあと何人残ってるんだ？」

修一「片山と山河だけですけど……」ゴシゴシ…

ギャーギャー……

先生「騒がしいな……まさかあいつら中で騒いでるんじゃない？」ス

ッ…

ガラッ！

先生「…！！コラァ！！！！お前たち何をやっとなるんだあ！！！！」
（怒）

圭・慎「げっ…（汗）」

先生「早く風呂から上がらんかあ！！」
（怒）」

修一「…バーカ…（汗）」スタスタ…

…一方、女風呂…

紬「いいお湯だったわあ…♪」ゴソゴソ…

澪「…全く…酷い目にあった…（汗）」ゴソゴソ…

奈々「……」↑体重測定中

奈々「…また2キロ痩せちゃった…」ハァ…

唯「奈々ちゃんもしかしていくら食べても太らない方？」

奈々「うん……私最近お兄ちゃんに痩せ過ぎだつて言われてご飯をなるべくいっぱい食べてるんだけど……体重が減っていく一方で……
（苦笑）」エヘヘ……

漚・紬「羨まし過ぎるっ!!」（泣）」

奈々「えっ!?!何っ!?!」（汗）」

律「……んぐっ……」↑牛乳を飲んでる

唯「りっちゃんって髪だけじゃなくて身長も伸ばしたいの?」

律「……っ!?!」ブハッ!?!

奈々「ひいっ!?!」（汗）」

律「……くそう……絶対おっきくなってやるう……!」（泣）」

……

修一「…まだかなあ…早くしてくれよなあ…」 トントン…

律「あれっ？修一、圭吾と慎弥は？」

修一「あいつら今先生の説教食らってる（汗）」

漣「何をしたんだ…（汗）」

律「…んで部屋に入れないからずっとロビーで待ってるわけか？（汗）」

修一「そっ…圭吾が鍵持ってるからどうしようもないんだよ…（汗）」 ハア…

唯「それじゃ私達の部屋に来て一緒に遊ぼうよ♪」

修一「…はあ！？（汗）」

漣「待て待て唯！男子は女子の部屋に入るのは禁止なんだぞ！？」

唯「そんなの大丈夫だって！さあ行こうよ！」 グイッ！

修一「やつ、やめろお……!!」

奈々「修一くん物凄い踏ん張ってる」

漣「もう知らん……(汗)」

律「修一物凄い困った顔してるぞ(汗)」

紬「……あっ!圭吾くと慎弥くんが戻ってきたわ……」

律「聞いたぞ?先生の説教食らってたんだって?(汗)」

圭吾「よりにもよって先生が生徒指導部の先生だったからな……とにかく長かった……(汗)」

慎弥「マジ疲れた……(汗)」

修一「一層の事謹慎になれば良いものを……」ボソッ……

圭・慎「あぁっ!!!!?」(怒)」

修一「さぁ部屋に戻ろう(汗)」クルッ!

圭吾「待て（怒）」ガシッ！

修一「うっっ！！」（汗）」

律・唯・滯・紬・奈「……」（汗）」

圭吾「てめえ部屋に帰れると思うなよ（怒）来いっ！」グイッ！

修一「放せえっ……！！」（汗）」ズルズル……

慎弥「お前らも部屋に帰れると思うなよ（怒）」

律・唯・滯・紬・奈「ええっ……」（汗）」

……………

~~ゲームコーナー~~

圭吾「おしっ……やるか……」パキ……コキ……

修一「壊すなよ？」（汗）」

律「なんだなんだ？（汗）」

慎弥「パンチングマシンだよ……圭吾？さっきの思い出せえ」

圭吾「あのやろおー！！！！」バコーン！！

パンパカパン♪

律「ひゃっ、167キロ……（汗）」

漑「しかも…ハイスコア……（汗）」

圭吾「…チツ……壊れなかったか……」クソツ…

律・漑「壊す気だったんかいっ！！（汗）」ガビーン！

唯「私あれやってみたい♪」キラキラ

紬「私も♪」キラキラ

奈々「私もやってみた〜い♪」キラキラ

律・滯「おいっ！（汗）」ガビーン！

慎弥「まあまあいいじゃないの……じゃあちよつとやってみなよ」

唯「いきますっ！！」ビシッ！

紬「頑張れえ〜♪」

奈々「ファイト〜唯ちゃん♪」

唯「とうっ！！」パコンッ！

パンパカパン♪

唯「さっ、30キロ……（汗）」ガーン！

紬「次は任せて！」グッ！

圭吾「まあ女子は50キロいけば平均的なんじゃないか？」

紬「えいつ!!」バコン!!

パンパカパン♪

圭吾「:はいっ!!?」(汗)

慎弥「やつ、やべえ…」(汗)

修一「どうした?……げっ…!!」(汗)

律「どれどれ?……はいっ!!? 105キロ!!?」(汗)

滯「ムギ……どこにそんなパワーが……」(汗)

唯「ムギちゃんすごい♪」

紬「アハハ……」(汗)

奈々「次いかせてもらいますっ!!」ビシッ!

滯「無理するんじゃないぞ?」(汗)

奈々「大丈夫っ!!」グルグル…

律「…なんか心配になってきた……(汗)」

奈々「とりあっ!!」ポコッ!

グキッ!

奈々「うぐっ!!?」(汗)」

パンパカパーン♪

圭吾「な〜んだ……30キロか……」

奈々「…いつ、今手首がグニャってなった……(泣)」ズキズキ…

律「何やってんだよ奈々(汗)」

潯「…全く……無茶するからこうなるんだ……(汗)」ヤレヤレ…

唯「だっ、大丈夫!?(汗)」

奈々「なっ、なんとか（汗）……」ハハハ…

紬「いい？殴る時はこう殴るのよ？」シュッ！

律「レクチャーをするな（汗）」

滯「…（汗）……あれっ？圭吾達は？」キョロキョロ…

圭吾「よしっ！そのまま……よっしやっ！！」

律「UFOキャッチャーしてるな……（汗）」

慎弥「いやあゝこのUFOキャッチャーは出血大サービスだな♪」

唯「何取ったの？」

慎弥「見よ！このチロルチョコの量を！」バツ！

滯「凄い量だな……」

修一「地元のゲーセンよりいいなここ」

圭吾「部屋に戻ってみんなで食おうぜ」

律「でも男子は女子の部屋に入るのは禁止なんじゃ」

圭吾「女子は男子の部屋に入るのは禁止って言ってたか？」

律「そう来ますか（汗）」

慎弥「早く行こうぜ」

.....

修一「……レーサーになって収入が一億……」

律「おお？ 凄いじゃんか修一！」

紬「なんか将来を暗示してるみたい♪」

修一「やめてくれやめてくれ！俺はレーサーなんかならないって！
（汗）」

奈々「…? どういうこと?」ポカーン…

圭吾「そうか…:まだ奈々は修一の家がどういう家系か知らないんだっけ…:」

奈々「…なんか凄そう…:」

修一「もう俺の事はいいから!!…:次、奈々の番だぞ?」

奈々「あつ、うん…:」スツ…

奈々「…:うつ…:事業に失敗して10億の借金…: (泣)」

律「…:なんか…:ムギが持ってきた人生ゲーム凄いアレだな…: (汗)」

紬「実はこれウチの会社のまだ発売されていない試作品なんだけど…:ちよつと内容がアレかしら…:」

律「これ試作品かよっ!! (汗)」ガビーン!

圭吾「これはこれでおもしろ〜けどな」

慎弥「ああ、借金した時はそーとーショックだけど（汗）」

圭吾「まあそれは置いといて……次誰だ？」

紬「あっ、次私！」

澪「この中でムギだけが借金をしてないからな……」

圭吾（…4が出たらムギは会社が倒産して100億の負債…）

紬「……やった！事業の投資に成功して収入が100億円にアップですって♪」

圭・慎・修「すげえ〜…（汗）」

律「…もう勝てる気がしない……（汗）」

ガラッ！

さわ子「…！ちょっと…！あなた達何してるの…！？」

圭吾「何してるのって……人生ゲームだけど？」

さわ子「そうじゃなくて……（汗）何で女子が男子の部屋に居るのって聞けるの！！」

律「けどさわちゃん女子は男子の部屋に入るの禁止って言ってなかったじゃん」

さわ子「うっ……！（汗）」グサッ！

慎弥「言ってなかった」

さわ子「とっ、とにかく……！もうすぐ消灯時間だから部屋に戻りなさいあなた達……！（汗）」

律・唯・滯・紬・奈「は……い」

バタンッ！

律「……しゅ……がない……今日はまだお開きにするか……」

漣「…ああ…」

唯「もうちょっとしたかったなあ…」ブー…

奈々「…右に同じ…」

紬「しょうがないわよ…」

圭吾「…んじゃまた明日な」

律「おやすみ」

漣「また明日な」

唯「おやすみなさ…」

紬「おやすみ」

奈々「3人ともいい夢を見るんだよ」

ボタン……

圭吾「…そんなじゃそろそろ俺らも寝るか…」

慎弥「今日は疲れたなあ…」

修一「…ふわあ…」ググツ…

「115号室、律達の部屋」

滯「…それじゃ…明日朝早いからもう電気消すぞ？」スツ…

紬「…えいつ！」ポイツ！

唯「うごおっ！！！」バスツ！

滯「え？」

律「先生、琴吹さんがやりましたあ…！」

紬「ほあ…！」ググツ…

澤「えっ？えっ、ちよつとムぎゅっ……！！！」バスッ！

唯「おっ！枕投げだねえ？……うごっ！！？」バスッ！

律「ふっふっふっ……ここは既に戦場なのだよお嬢ちゃん？……う
げっ！！？」バスッ！

奈々「隙あり♪」キラーン！

律「おっ、お主中々やるではないか……！（怒）」

紬「えいっ！！！」ポイツ！

律「ぶふおっ！！？」バスッ！

奈々「よくやった！琴吹一等兵！」ビシッ！

紬「ありがとうございます！」ビシッ！

漑「何ごっこだ(汗)」

律「なっ、…なんと重い球を……許さんっ!! (怒)」ポイツ!

紬「きゃはっ♪」ヒョイツ!

バスッ!

さわ子「……」

律「あっ……(汗)」

さわ子「……(怒)」

律・唯・漑・紬・奈「……ZZZ……」

さわ子「……」スタ…スタ…

さわ子「……ふんっ! (怒)」グシャッ!

律「わぎゃっ!!!! (泣)」

さわ子「……（怒）」カチッ…カチッ…

さわ子「……早く寝なさいっ!!」（怒）」バンッ!

律・唯・漣・紬・奈「……………」

律「……いや…危なかったあ…」（汗）」

漣「何っ!?」（汗）」ガビーン!

律「……」カチッ…

律「よしっ!戦いはまだまだこれからだぞっ!?!」

紬「よしきたあ〜!」

奈々「ガッテンですっ!」

漣「ええ…」（汗）」

「103号室、圭吾達の部屋」

修一「……グオォ……ZZZ……」

慎弥「……うるせえ……（怒）」ガバッ！

慎弥「……トイレ……」スッ……

ジャ……

慎弥「……」スタスタ……

慎弥「……ん？」ピタッ……

圭吾「……」カタカタカタ……カタカタカタ……

圭吾「……ドラムパートはこれで完成……後はベースのパートか……」フワァ……

慎弥（……あいつ……寝ないで曲作りをしてるのか……）

圭吾「慎弥には少し申し訳ないけど……この曲は6弦ベースで頑張

ってもらうか……」グググッ……

慎弥（…そりゃ無いよ……（汗））

慎弥（…寝よ…）

「115号室、律達の部屋」

漣「……ふう……（汗）…じゃあ……もう消すぞ？」

唯「はい」

律「満足じゃ……」

奈々「……ZZZ……」スヤスヤ……

紬「奈々ちゃんったらもう寝てる……」クスッ……

律「幸せそうな顔してるなあ……」ハハ……

漣「……」フッ……

カチッ…カチッ…

漣「……」

律「……」

紬「……」

唯「……豆球消したい……」

漣「……（汗）」

カチッ…

漣「……ふう……（汗）」

……

律「……しゃれこうべ……」ボソッ…

唯「……ぷっ！～！」

紬「ぷくくっ…！～！」

律「……デコピン…」

唯「はははっ……!!」

紬「くくくっ……!!」

律「……デコ……ピン……」

唯「くくくっ……!!」

紬「あはははっ!……ふっおっ!!」

唯「へっ!?(汗)」

律「ムギ豚鼻…(笑)」

紬「……ぷっ……!!くくく……!!」

律「くくく……!!……はっ、腹いてえ……!!」

唯「……ぷくく……!!……ゴホッ!!ゲホッ!!……はあ……」

澪「……(汗)」

……しん……

律「……」

唯「……」

漣「……」

紬「……」

奈「……zzz……」スヤスヤ……

……ぷすう……

……

律・唯・漣・紬「……くっさあっ……」(汗)「ガバアッ……」

律「だっ、誰だよ……! すかしっ屁したの……!」(汗)「

唯「わっ、私じゃないよっ……!」(汗)「アセアセ

漣「私でもないぞっ……!」(汗)「アセアセ

紬「あつ、あの……（汗）」

律「何っ!?!まさかムギなのかつ!?!」

漣「ムギがそんな事するわけないだろう!（怒）」ゴンッ!

律「いっっ……!!（泣）」ズキズキ……

漣「……恐らく……（汗）」チラッ……

奈々「ムニャ……今日はカレーかぁ……ZZZ……」スヤスヤ……

律「こいつか（汗）」

唯「なっ、奈々ちゃん（汗）」

紬「……（汗）」

漣「……全く……もう少しで眠れそうだったのに……（汗）」ハァ……

律「ホントさっきのは臭かった……（汗）」

唯「うん……（汗）」

紬「…でも…何か修学旅行って感じじゃない!？」

律「……まっ、別にこーゆーのもアリだな…」フツ…

漣「…私は嫌だ…(汗) ……とにかく…もうこれくらいにして…明日早いんだからもう寝るぞ…」

唯「うん…」ゴソツ…

律「……ホント人騒がせな奴だよ……(汗) ……」ゴソツ…

紬「……おやすみ…」ゴソツ…

………

…AM00:30…

〽103号室、圭吾達の部屋〽

圭吾「……そろそろ寝るか…」パタン…

圭吾「ふう………」ゴソツ…

慎弥 「……Z Z Z……」 スヤスヤ

修一 「……ゴオオオ……！！ Z Z Z……」 スヤスヤ……

圭吾 「……Z Z Z……」 スヤスヤ……

）
F
i
n
（

#08 修学旅行!! その2!! (前書き)

久々の更新(;^|^A
いつもみたいにグダグダ感MAXですw
ではどうぞ(・▽・)ノ

#08 修学旅行!! その2!!

〽AM07..30〽

〽115号室、律達の部屋〽

ピピピピピピ……!

漚「……うつ……うつ……」ムクツ……

漚「……7時半か……ほらみんな……朝だぞ……」ゴシゴシ……

律「……ふわぁ……もう朝かぁ……」ムクツ……

紬「……うう……みんなぁ……おはよ……」ググツ……

唯「……ZZZ……」

奈々「……ZZZ……」

漚「……またこの2人か……(汗)」ハア……

律「しよゝがないなあゝ……ほら起きろゝ唯ゝ！奈々ゝ！」ユサユサ…

唯「…ううゝ……憂いゝ……今日は日曜だよおゝ……ZZZ…」ムニヤムニヤ…

律「憂ちゃんと勘違いしてる……（汗）」

奈々「…ふわあゝ……みんなおはようゝ……」フワァゝ…

律「…奈々ゝ……昨日の晩お前のせいで大変だったんだぞゝ？（汗）」

奈々「…？なんで？」ボヘー…

滯「…まあそれは一旦置いといて……唯！いい加減起きなさいっ！（怒）」

唯「っ！！」ガバツ！

律「おおゝ……流石滯だな………」

奈々「滯ちゃん恐い…（汗）」

紬「そろそろ朝食の時間よ？」

滯「…じゃあ顔洗ったら大広間に行くか…」

……………

「103号室、圭吾達の部屋」

慎弥「…ねむ…」↑歯磨いてる

圭吾「…………ふわあ…………朝飯まだかあ？」

修一「7時45分からだよ…」

圭吾「腹減ったあ…………！」ゴロンツ…

慎弥「ふう…………目え覚めた…………」スタスタ…

修一「お前前髪にそのでっかいヘアピン付けたまま寝てたのか？」

慎弥「んなわけねーだろ…顔洗うのに前髪が邪魔だから付けてんだよ……」フキフキ…

圭吾「お前ホントギャル男だな……髪型といい耳のピアスといい…」

慎弥「悪いかよ(怒)」

圭吾「学祭前までには少しは髪…短くしとけよ？…ライブん時お前の髪セットするの俺なんだから……長かったらやりづらいったらありやしねえ……」

慎弥「へいへい…(汗)」

修一「そろそろ時間だから大広間に行こうぜ」

圭吾「おお…」ムクツ…

慎弥「あいよ…」

.....

〃エレベーター前〃

律「…おっ？圭吾達じゃん！おっは〜♪」

圭吾「相変わらず朝からうつせえなあ……」

唯「おはよ〜3人とも〜♪」

滯「…おはよう…」

紬「おはよ〜♪」

奈々「おっは〜♪」

慎弥「おはよ〜」

修一「昨日何時ぐらいに寝た？」

律「あれは……12時ぐらいだったっけ？」

滯「…さあ…：あんまり覚えてないけど…：…奈々のおならの後中々寝付けなかったからな…：…」

奈々「…へっ！？私おならなんかしたの！？（汗）」

律「あれは結構な臭いだったぞ？（汗）」

奈々「はっ、恥ずかしい…／＼／＼「カァ」…

圭吾「飯食う前になんて話してんだよ（怒）」ガンツ！

律「なんで私っ！！？（汗）」ズキズキ…

圭吾「あっ…：スマン…：…いつもの感覚でつい…：…」

律「いつもの感覚で殴るなあゝ！（怒）」

チーン！

紬「あっ、エレベーター着いたわよ？」

滯「やっとか…：…って人多っ！？（汗）」

慎弥「こりや階段で行くしかねえな（汗）」ハハハ：

唯「ええ？階段？」ブーブー：

律「しょがないだろう？あの人数じゃー…」

奈々「ええー！？ここ6階だよー！？（汗）」

圭吾「行くぞ」ガシッ！

奈々「いやあああゝ…！」ズルズル…

律・唯・滯・紬・慎・修（…うわあ…鬼畜…（汗））

………

……大広間……

圭吾「……ふう…食べた食べた…」ゲフツ…

慎弥「朝から飯三杯とかよく食うな…（汗）」

修一「今日の自由行動ってどこ行くんだったっけ？」

圭吾「ん〜と……確か……」バサツ……

奈々「はいはいっ！私清水寺に行きたいっ！！」

圭吾「焦るなバカ、ちゃんとそこも行く」

奈々「むう……」

慎弥「あっ、俺新京極にも行きたいな」

圭吾「新京極か……時間があつたら行くか……」

修一「律達はどこ行くんだった？」

律「ん〜……嵐山？」

澪「渡月橋だろ……」ズズズ……

律「そうそう！渡月橋！」

紬「あと比叡山にも行くんだったのよね？」

漣「比叡山はちょっと遠いけど……有名だから一度は行ってみたかったんだよね……」

圭吾「飯食ったし……部屋に戻る……」スクツ……

………

「115号室、律達の部屋」

漣「……もう行くぞ？」

律「ちよい待ち……私のカチューシャが見当たらないんだよ……」キョロキョロ……

奈々「もしかして……これ？」スツ……

律「あっ！それだっ！！サンキュー奈々♪」スチャツ……

紬「……唯ちゃん何探してるの？」

唯「私の携帯が無いよぉ……（泣）」ガサゴソ…

滯「……（汗）」

……………

「103号室、圭吾達の部屋」

圭吾「……うしっ……髪オツケーっと……」

修一「……慎弥……（汗）女ナンパしに行くんじゃないんだからさあ
……（汗）」

慎弥「……ん？」

圭吾「お前……髪盛りすぎだ……（汗）」

慎弥「そうか？ふっーじゃん」

圭・修「いやいやいや（汗）」

圭吾「京都のヤンキーに絡まれても俺は助けてやらねーからな（汗）」

修一「いや…逆に寄って来ないかもよ……（汗）」

……………

～～～1階、ロビー～～～

さわ子「後は片山くん達の班だけね……」

律「…圭吾達遅いなあ……」

滯「…どうしたんだろ……」

唯「…あっ、きたっ！」

圭吾「遅れてすみませ〜ん…」スタスタ…

さわ子「もうっ！何してたの!？」

圭吾「すみません……慎弥のせいで時間を食ってしまって…（汗）」

慎弥「はいっ!？（汗）」ガビーン!

さわ子「ちょっ…!山河くんその頭何っ!!？（汗）」

修一「ほれみろ…（汗）」

さわ子「あなたって人はホントにもうつ…！！」ガミガミ…！

律「私たちは別に普通に見えるんだが…（汗）」

漣「…いや…あれはやり過ぎだろ…（汗）」

唯「…凄…い…」

紬「短時間であの髪型にするなんて凄いわねえ…」

奈々「スッゴ…（汗）」

慎弥（…うう…2日連続で説教…（汗））

さわ子「…もう…次からはきおつけてね!？」

慎弥「は…い…」

さわ子「…全員揃ったわね……それじゃ、自由行動についての諸注意を連絡します…」

圭吾「…」ダラァ…」

慎弥（…朝からテンション下がるなあ…）ムス…

修一「…」

……………

律「…んじゃ私らは渡月橋に行くか」

圭吾「変な奴らに絡まれんなよ」

律「いらんこと言うな！（汗）」

滯「ほら律っ、タクシー来たぞ？」

律「やばっ！んじゃな」タタタ…

慎弥「俺らは何で清水寺まで行くんだ？」

圭吾「一旦バスで駅まで行ってそこから電車」

修一「早く行こうぜ？」

奈々「行こう行こう♪」

圭吾「あゝわかったわかった……んじゃバス停まで歩くぞ」 スツ……

……しばらくして……

~~~~嵐山~~~~

律「着いたあゝ！嵐山！」

漣「ここが嵐山か……」

紬「平日なのに人がいっぱいねえ……」

漣「それじゃ……まず渡月橋から……」

律「見ろよ唯々！猿山だって！」

唯「行こう行こう♪」タツ！

滯「あっ！ちょっと待て！（汗）」タツ！

紬「あらまあ…（汗）」タツ…

滯「なんで京都まで来て猿なんだよー！！」タタタツ…

…そして…

律「おお…絶景だなあ…！！」

唯「すごい！これ全部京都？」

紬「綺麗な眺め…」

滯「…何か…いい歌詞が浮かんできそう…」ボソツ…

紬「…？何か言った？」

滯「えっ！！？いや何も…／＼／＼アセアセ…

紬「…?」

唯「見て見て〜! お猿さんに餌あげれるんだって〜!」

律「おっ! やってみよ〜ぜ!」

……………

唯「はい、どうぞ♪」スツ

猿「ウキッ…」ヒョイ…

紬「よしっ…私も…………!」スツ…

猿「ウキッ…」スツ

紬「きゃっ…!!」ビクッ…!

唯「大丈夫だよムギちゃん! 怖くないよ?」

紬「うつ、うん…」スツ…

猿「ウキッ…」ヒョイツ

紬「…食べた…／＼／」

唯「かわいいねえ♪」

律「おい、唯♪ムギ♪！そろそろ行くぞ？」

唯「うん！…ムギちゃん行こ♪」

紬「ええ…！♪」

……………

～～～清水寺～～～

圭吾「ふえーっ…高つけえなおい…」

慎弥「意外と高いな…」

修一「あっ、京都タワー」

奈々「ホントだ〜！」



圭吾「……」

圭吾「…慎弥…」

慎弥「ん？」

圭吾「一回清水の舞台から飛び降りて…」

慎弥「お前が飛び降りろ（汗）」

修一「そうそう、俺小学生の時先生の話で実際に清水の舞台から飛び降りたバカがいたらしいよ？」

慎弥「いるのかよそんなバカ（汗）」

圭吾「さあ〜て……飽きてきたしそろそろ違うトコ行くか〜？」

慎弥「新京極に行きたい！」

奈々「私もっ！」

修一「俺はどっちでもいいけど……」

圭吾「じゃ新京極で」

修一「またバスで移動か…（汗）」ハア…

奈々「…あっ！でもちょっと待って！！京都タワーをバックにみんな写真撮らない？」

圭吾「…いいけど…早くしろよ？」

奈々「すみませ〜ん！写真お願いできますかあ〜？」

外人「???」

圭吾「バツ、バカッ！！何外人にお願いしてんだよ！！（汗）」

慎弥「どーすんだよこれ…（汗）」

修一「ここは俺に任せな…」スッ…

圭・慎「？」

修一「あ〜…ペラペラペラ…」↑物凄い流暢に英語を喋ってる

外人「Oh、OKOK!」

修一「撮ってくれるって!」

圭・慎・奈「……」アゼン…

修一「…どした?」

圭吾「…お前……英語喋れたのか!? (汗)」

慎弥「…今ので修一の事物凄い尊敬したわ… (汗)」

奈々「正直何喋ってるかわからなかった… (汗)」

修一「お前ら人を何だと思ってやがる (怒) ……とりあえず写真撮ってくれるって言うてるから早くやろう…」

圭吾「そっ、そだな…あはは… (汗)」↑顔が引きつってる

…そして…

圭吾「よしっ……そろそろ時間だから旅館に戻るか…」

修一「駅こっちだっけ？」

慎・奈「こっちだっ!!」ビシッ!

圭吾「…?どうしたんだお前ら(汗)」

慎弥「お前ら俺に着いてこい!」

奈々「着いてこい♪」

圭吾「…これどうしたらいいの?(汗)」

修一「俺に聞くな(汗)」

.....

漣「…よしっ……時間だしそろそろ旅館に戻るか…」

紬「帰りは何で帰るの?」

漣「電車で戻るとするか…」

唯「もう5時かあ……1日経つの早いねえ……」

紬「駅はどっちだったかしら…」ウーン…

律「こっちだ！」ビシッ！

漉「…本当か？（汗）」

律「ついてこーい♪」スタスタ…

漉（嫌な予感がする……（汗））

……そして……

律「…迷った…」

漉「どーするんだよ！！（汗）」

紬「さっきの交差点を左に行くんじゃないかったのかしら…」

唯「右だよ多分！」

律「すまん、唯は黙っててくれ」

唯「ガン！」

律「ムギの言う通り……さっきのどこを左に曲がればよかったのか？  
（汗）」

滯「とりあえず一旦引き返そう……」

……

慎弥「…」

奈々「…」

圭吾「…（汗）」

修一「…（汗）」

慎・奈「…迷った…」

圭吾「こいつらに任せた俺が馬鹿だった…（汗）」ハア…

修一「このおとぼけカップルは……全く……（汗）」

慎弥「…やっぱ左に曲がるべきだったか……（汗）」

圭吾「そういう問題じゃねえだろっ!!（怒）」

修一「…どうするよ?（汗）」

圭吾「とりあえず道聞くんしかねえだろ……つつても誰もいねえな（汗）」

修一「もう5時過ぎだしなあ……（汗）」

和「…困ったわね…」スタスタ…

女子A「やっぱさっきのどこを左に曲がるんだったんじゃないかしら…」

女子B「…!!ねえあれって片山くん達じゃない!?!」

女子A「ホントッ!?!」

和「…！」

圭吾「んゝ…」

女子B「片山くゝん！！」オゝイ！

圭吾「…！？」

慎弥「あつ、うちの学校の女子じゃん！」

修一「ホントだっ！」

奈々「助かったあゝ！！」タタタタツ…

和「よかった…ねえ、駆ってどう行けばよかったのかしら？」

奈々「…っ！！！！」（汗）ズザザザゝ！！

修一「ナイスヘッドスライディングゝ（汗）」

……………



女子A「大丈夫？（汗）」フキフキ…

奈々「うん…（汗）」フキフキ…

女子B「凄い汚れよう…（汗）」フキフキ…

和「現在地がここってことは……この角を右に曲がって道なりに行けば多分駅にたどり着ける筈よ」

圭吾「こうなったら和に頼るしかないな…」

慎弥「よし行くぞお前ら！」

圭吾「お前が言うな！！」（怒）」ゴンッ！

慎弥「いってえええ〜！！！！」（汗）」

修一「大げさ…（汗）」

…一方、律達は……

漚「また同じ所に来てしまった……（汗）」

律「やばい…完全に迷子になった……（汗）」

紬「どうしましょ…（汗）」

唯「そうだっ！」パカッ！ピッピッ…

律「おお!？」

唯「…あっ!もしもしあずにゃん?実は私達迷子になってるんだよ  
〜!」

律・漚・紬「っ!!」（汗）」ズルッ!

漚「梓に電話してどーすんだよ!!」（汗）」

唯「あっ、そっか!!」ピッ!

律「あゝ早くしないとヤバイよ〜!!」

和「…おかしいわね…また同じ所に来てしまったわ…」

圭吾「もうその家の人に聞いた方が早くねえ？（汗）」

慎弥「…あっ！あれ律達じゃね！？」

修一「まさかあいつらも迷子か？（汗）」

和「そんなまさか…唯…！滞…！」

唯「あっ！和ちゃんだ…！」

律「助かったあ…！！」タタタツ…

和「ねえ、駆ってどっちに行けばいいのかしら？」

律「っ！！！！」ズザザザ…！

修一「ナイスヘッドスライディング…（汗）」

.....

唯「大丈夫？」フキフキ…

律「…うん…」フキフキ…

漣「和達も道に迷ったのか…」

圭吾「俺らは慎弥と奈々のおとぼけカップルのおかげで道に迷ってしまったよ…（汗）」

紬「…もうやっぱり先生に電話した方が…」

慎弥「……までよ……！携帯のGPSがあるじゃないか！」

全員「おおー！！」

律・漣・圭「…ってそれを早く言え……！！（怒）」

慎弥「うお…（汗）」ジリッ…

修一「今日の慎弥はいいトコ無しだな…（汗）」

唯「それじゃ早く行こうよ♪」

律「お前はのんきでいいよなあ…（汗）」

……………

~~~~~某駅~~~~~

和「何とか間に合いそうね…」

女子A「一時はどうなるかと思ったわ…」

女子B「ホント…」

圭吾「疲れた…」ドカツ…！

修一「今日は色々大変だったな…」ヨイシヨツ…

圭吾「もう歩きたくねえ……（汗）」ハァ……

紬「お二人ともお疲れ様、飴でもどうぞ♪」スツ……

圭吾「おっ、サンキュ！」

修一「ありがとう」

圭吾「ムギも律と唯が一緒の班だと疲れないか？」

紬「ううん……大丈夫よ♪」

滯「こらお前ら！！ホームで騒ぐなっ！！」

律「へーい」

唯「はぁーい」

奈々「……しゃれこうべ……」

滯「……プツ！！アハハハハっ！！………」

圭吾「…?」

修一「なんだ? (汗)」

和「…? (汗)」

………

〃〃〃某旅館〃〃〃

律「そんでさあ〃…唯が……」

さわ子「全く……あなた達はもう……」

奈々「実はアレ……だったんだって〃!」

唯「ホント〃!? ……じゃないや…ホントどすか〃? (笑)」

澪「……ぷっ……くくくくっ……!! アハハハ……!!」

圭吾「…?」モグモグ…

慎弥「まゝた滞のやつ大笑いしてら…」

修一「そーゆーお前こそまた野菜残してるなおい（汗）」

……………

「103号室、圭吾達の部屋」

圭吾「ふわぁ……もう寝るかぁ………」

慎弥「おいおい、まだ9時半だぞ？」

圭吾「今日は疲れたんだよ…」グググ…

修一「俺も疲れたからもう寝よ………」

慎弥「お前ら年寄りかよ（汗）」

圭吾「勝手に言ってる……じゃおやすみー………」

修一「……ZZZ………」

慎弥「……（汗）」

「115号室、律達の部屋」

漣「今日は大人しく寝ような？」

律・唯・紬・奈「はい」

漣「ふう……」カチツ……

律「……へっ……」カチツ……

律「……漣……？」

漣「ん？……ぎゃあああ……！！（汗）」

律「夜は長いぜえ……漣ちゅわ……ん？♪」ズイッ

漣「うわ……ああ……！！放せっ！！放せえ……！！（汗）」グイッ！

さわ子「うゝるゝさゝいゝ…！」カチツ…

律・唯・滯・紬・奈「きゃあああゝ…！！！！！！（汗）」

カチャ……………

さわ子「早く寝なきゃダメでしょっ！」

律「……誰？（汗）」

さわ子「先生ですっ！！（怒）」グググ…

律「いだだだだっ！！（汗）」パシパシパシ…

奈々「おおゝ…………先生強い…！」

滯「律……（汗）」

律「……」チーン…

さわ子「全く…旅行中でもないわねあんた達…」ハア…

律「…すっぴんのさわちゃんは怖さ10倍増しだな…」ボソツ…

さわ子「ああ〜ん!？よく聞こえなかつたわもう一度言ってくれるかしらあ〜? (怒)」

ギ
ユ
ウ
{
:
:
!

律「いっ！ いでででっ！！」
えゝ！！（泣）

（泣）すいませんでした先生いでで

紬「……アハハ……」
（汗）

「せつ、先生……（汗）」

律「……」チーン……

唯「おおく：りっちゃんの頬っぺたさわちゃんの攻撃で柔らかさが10倍増してるよく！」プニプニ：

奈々「ホントだあゝ…♪」プニプニ…

さわ子「…ふうっ……それじゃ……早く寝るのよ？」スッ…

唯「ええ〜！？少しお話しようよ〜！」ブーブー…

奈々「お話しようよ〜！」ブーブー…

さわ子「あのねえ……（汗）私は先生なのよ！？」

律「え〜！？いいじゃんかあ〜！！」ブーブー…

唯「ねー少しだけ〜♪」

紬「お菓子もありますよ〜？♪」

さわ子「だから〜……（汗）そんなので私が……！！」

……数分後……

さわ子「元はと言えばあなた達が私のことさわちゃんなんて呼ぶか

ら皆にも言われるようになったのよねえ……私のイメージガタ落ちじゃないの……」クドクド……

律・唯・奈「……」ウトウト……

律・唯・奈（……誘うんじゃなかった……）

……

唯「……」

奈々「……ZZZ……」スヤスヤ……

律「……ZZZ……」スヤスヤ……

唯（……私達……もう3年生……なんだよね……）

澪「……ZZZ……」

紬「……ZZZ……」

唯（……もう少し……皆と一緒にバンドしたいなあ……）

唯ウトウト……

ガラッ!!

先生「山中先生っ!!」(汗)

さわ子「うわああ〜ビツクリしたあ〜!!!」(汗)「ガバッ!

律「へっ!」(汗)「ガバッ!

唯「…何何っ!」(汗)「ガバッ!

漑「うわあっ!!」(汗)「ガバッ!

紬「どうかしたの!」(汗)「ガバッ!

奈々「…うへへえ〜……ZZZ…」スヤスヤ…

………

〜〜新幹線内〜〜

先生「……(汗)」

さわ子「…ZZZ…」スヤスヤ…

律「そんでさあ…あっ!!唯…!!富士山だあ…!!」

唯「ホントだあ…!!綺麗だねえ…!!」

滯「…私も見たい…」スツ…

バラツ!

紬「あっ!」

滯「しっ、しまった…(汗)」

唯「滯ちゃん子供みたい…!」

律「何やってんだよ滯…(汗)」

滯「…ぷっ…!」ククク…

紬「ふふふっ…!」クスツ…

唯「はははは…!!」 クスクス…

律「ははははは…!!」 ククク…

修一「向こうは楽しそうだなあ…」

圭吾「そーだな…」 ↑パソコンいじってる

修一「…! 圭吾圭吾!」 ツンツン…

圭吾「なんだ?」

修一「ん…」 ピッ…

圭吾「……………」 クスッ…

修一「仲良く寝てるな」 慎弥と奈々……………」

圭吾「……………」 フッ…

圭吾「…まあそれはそうと……後少して俺の曲完成するんだけど…
…お前らの曲はどうなんだ？」

修一「…約８割完成したかな？……」

圭吾「とりあえず夏休み前までには完成させねえとな……」

修一「…ああ…」

）F i n（

使用機材!! (前書き)

これは遊び半分で書いてみましたW
まあ見てやってくださいW

使用機材!!

作者「さあさあやってまいりました!! 恒例の番外編!!」

律「恒例なのか? (汗)」

漚「さあ (汗)」

作者「今回はこの小説のオリジナルキャラクターの圭吾・慎弥・修一・奈々・結花の使用機材を紹介してもらいますっ!」

律「なんだその企画… (汗)」

漚「…私は興味あるな…特に慎弥の使用機材がどんな物かまだよくわからないし……」

律「おいおい (汗)」

唯「でもなんで急にこんな…」

紬「私の情報によると作者はネタ切れになるとよくこーゆー企画をするらしいわよ?」

作者「っ!! (汗)」グサッ!

律「なるほど……スランプですか……（笑）」プツ！

梓「ちよっ……！！律先輩！作者さんに失礼ですよ……！！？」

澤「律……あんまり作者をバカにするとお前極端に出版減られるぞ？」

律「げっ……！！それだけは……！（汗）」アセアセ……

作者「……まあ……それはまず置いて………それじゃ圭吾から先にお願いします！」

梓「あの……すみません……（汗）」

作者「どうしました？」

梓「片山先輩……寝坊して今こっちに向かってるそうです（汗）」

作者「っ……！！」ズルッ！

梓「すみません(汗)」

律「寝坊って…(汗)」

滯「圭吾らしいな(汗)」

唯「それじゃ慎弥くんから紹介なの作者さん？」

作者「まあ……そうなりますな……(汗)」

慎弥「何？俺が先？」

紬「そうらしいわよ？」

作者「…準備はよろしいですか？」

慎弥「あ、ああ……(汗)でも何か恥ずかしいな……(汗)」

〳〵 慎弥の使用機材〳〵

ベース←

MAIN…↓ESP Bardic

SUB:↓LAKLAND skyline Japan Series
ies SK-569 tetsuya

弦:↓DR

アンプ:↓BASSON (ライブ時のみ)

ストラップ:↓LiveLine

ケーブル等:↓LiveLine

エフェクター等:←

MXR DIM-80 BASS D.I.+

BOSS Metal Zone MT-2

BOSS Fuzz FZ-5

Roland DIGITAL DELAY DD-3

BOSS Equalizer GEB-7

BOSS Limiter Enhancer LM-3

MXR Flanger

MXR DYNACOMP

ERNIE BALL VOLUME PEDAL (#6166)

KORG DT-10

.....

慎弥「とまあこんな感じで…」ハハハ…

律「最後の方からわけわからなくなってきた(汗)」

梓「…というか山河先輩登場人物紹介の時のベースと違うじゃないですか(汗)」

漣「ESP Bardicって物凄い高いんじゃ…」

慎弥「定価だと50万くらいはするな多分」

律・唯・漣・梓「50万っ!!!?(汗)」ガビーン!

紬(あら……意外と安い…)

律「高校生の分際でよくそんな高い物を……(汗)」

慎弥「アホ、流石に50万じゃ手が出ねえから中古で買ったんだよ」

梓「いくらですか？（汗）」

慎弥「15万かな？ある店で一本だけ飾ってあって値段がaskだったから頑張って15万にもらったんだよ……いやあ……あん時店員泣いてたな（汗）」アハハ…

律・濤「やり過ぎだ（汗）」

唯「これも慎弥くんのベース？」

慎弥「ああ」

梓「ピツ、ピンク…（汗）」

律「すっげー派手だなおい（汗）」

濤「なんだこのベースは…（汗）」

唯「かわい〜♪」

紬「女の子みたいねこのベース♪」

慎弥「こいつは最近投入したばかりでまだあんまり使っていないんだよ」

律「これで何本目だよ(汗)」

滯「羨ましい…」

作者「さあどんどん行きますよ!!次は修一く!」

修一「どうもっす」ペコッ…

作者「じゃあ早速紹介してくれるかな?」

修一「あっ、はい…」

〳〵修一の使用機材〳〵

ドラム使用メーカー…↓パール
*スペック、仕様ともに不明

.....

作者「…って終わるかいつ!! (汗)」ガビーン!

律「これはひど過ぎるぞ (汗)」

濤「いくらなんでもこれは…… (汗)」

修一「だって俺もよくわかんねーんだもん (汗)」

作者「… (汗) まあいいでしょう (汗) はいっ、次奈々!」

奈々「は〜い♪」

律「おっ? やる気満々だな〜奈々」

奈々「やっと私の出番だよ〜!」

唯「奈々ちゃん頑張っ〜♪」

奈々「私の使用機材はこれです!」

〜奈々の使用機材〜

キーボード…←

KORG・SVI-73・SV-1（73鍵盤）シンセサイザー

アンプ…←

Roland KC-880 Stereo Keyboard
Amplifier（ライブ時のみ）

ケーブル等…←

MONSTER KEYBOARD

その他…←

KORG PS-3 ペダル・スイッチ

.....

奈々「はいっ、コレが私の使用機材だよ♪」

作者「時間がないので次いきます」

奈々「ええ〜!?!?皆のコメントは〜?」ブーブー…

作者「すみません、割愛で」

律「割愛…（汗）」

澪「……（汗）」

奈々「酷い…（泣）」ウルウル…

作者「はいっ、次結花！」

結花「よろしくお願いします…」ペコツ…

結花「私の使用機材はこんな感じです…」

〵〵結花の使用機材〵〵

ギター…←

Fender Japan ST72 M YWH
トメイプル指板モデル
・72ストラ

アンプ：↓Line 6（自宅用）

エフェクター等：←

BOSS ME-70

ケーブル等：←

FENDER PREMIUM PLATINUM CABLE／20F
TGUITAR CABLE

ストラップ：↓Dimarzio

.....

作者「：はいっ…んじゃ以上でお開きとさせry」

圭吾「またんかいコゝルアアア！！！！（怒）」ドカツ！

作者「ぐふしっ！！！！？」ズザザザ…！

律・唯・漑・紬・梓・慎・修・奈・結「ええええく!!!?」
ガビーン!」

圭吾「こんのクソ作者……!!何俺抜きで終わろうとしてんだよ…
!」(怒)」ゼエゼエ…!

律「今頃かよ…(汗)」

慎弥「大丈夫か作者く?」(汗)」ユサユサ…

作者「…」ピクピク…

律「気絶してる…(汗)」

漑「やり過ぎだ圭吾!!」(汗)」

梓「そうですよ!!」(汗)」

唯「でも作者さん気絶しちゃったから圭吾くんの使用機材紹介できないよ?」

紬「作者の目が覚めるまで待っしかないわねえ…」

結花「その心配はありませんよ…」 スッ…

律「ん？結花どうしたんだその紙？」

結花「作者のポケットに片山先輩の使用機材が書かれた紙が入って
いました…」

滯「抜き取ったのか（汗）」

律「でもまあこれがありゃ作者はもうほっといても大丈夫だな！」

慎弥「さっさと紹介して早く帰ろうぜ」

圭吾「おい（怒）」

〃〃圭吾の使用機材〃〃

ギター…←

MAIN:↓Fernandes・Burny・LSD-55N

SUB:↓Fernandes・LA-115KK PRD

エフェクター等:←

STRYMON OLD CHORUS

BOSS Dyna Drive DN-2

BOSS Harmonist PS-6

BOSS Phase Shifter PH-3
BOSS Noise Suppressor NS-2

BOSS Digital Reverb RV-5

BOSS Flanger BF-3

Fender USA CLASSIC REISSUE VOL
UME-TONE PEDAL

KORG Pitchblack+

アンプ:←

Roland CUBE-80XL Guitar Amplif
ier(自宅用)

ストラップ…←

P r o v i d e n c e

弦…↓D、A d d r i o

ケーブル等…←

M O N S T E R C A B L E

……………

律「そんじゃ作者が起きる前に私達はさっさと帰るか」

唯「今日の晩ごはん何かなあ…」

圭吾「…こんなんじゃ来るんじゃなかった…（汗）」ハア…

滯「ただ作者を蹴り飛ばしに来ただけだろ（汗）」

慎弥「言えてる（汗）」

圭吾「うっせえぞ慎弥コルアツ!!（怒）シバくぞてめえ!（怒）」

慎弥「なんでっ!!? (汗)」ガビーン!

修一「…圭吾は今虫の居所が悪いみたいだな (汗)」

奈々「そっ、そうみたいだね… (汗)」

梓「…あの…作者さんあのまま放っておいて大丈夫なんですか?
(汗)」

紬「大丈夫よきつと♪」

梓「だといいんですけど… (汗)」

……数分後……

作者「……ZZZ…」

作者「……もう……食べれないよ……ZZZ…」ウヘヘ…

）
完
）

#09 慎弥と愛美!! (前書き)

※修正版です。

最後の方を少し修正しました(; ^
| ^ A

#09 慎弥と愛美!!

……AM1..30……

~~~~~慎弥宅~~~~~

愛美「うわあああ~~~~!!!!!!」ガバツ!

愛美「……」ハアハア……

愛美「……」スツ……

~~~~~慎弥の部屋~~~~~

愛美「……」ガチャ……

慎弥「……ZZZ……」スヤスヤ……

愛美「……」ホッ……

……

……AM9:00……

慎弥「…んっ……ふわぁ……」ムクッ…

慎弥「んゝ…!!」グググ…

慎弥「…ハア……ん？」チラッ…

愛美「…ZZZ…」スースー…

慎弥「……」

………

慎弥「……なんで？（汗）」

………

……AM10:30……

……圭吾宅……

圭吾「……」ジャカジャカ…

早希「圭吾く？ 慎弥くんから電話よく？」

圭吾「慎弥から電話？ ……なんで家なんかにかけてくるんだ？」 スツ…

圭吾「…もしもくし？」

慎弥『もしもし圭吾か？』

圭吾「なんで家にかけてくるんだよ？ （汗）携帯にかければいいものを…」

慎弥『実は昨日携帯代振り込むのてっきり忘れてて…（汗）』 ハハハ…

圭吾「…（汗）」

慎弥『ってそんな話してる場合じゃなかった…お前今日暇か！？』

圭吾「暇だけど…」

慎弥『そんじゃ今すぐ来てくれっ!』

圭吾「いつ、今すぐ!? (汗)」

慎弥『頼んだぞっ!!』ブツッ!

圭吾「えっ!? ちょっ…!!!? (汗)」

圭吾「… (汗)」カチャン…

圭吾「…早希〜! ちよっくら慎弥ん家行って来る〜!」

早希「いいけど遅くならないようにね〜!」

圭吾「ほ〜い」

……………

~~~~~慎弥宅前~~~~~

ピンポ〜ン♪



圭吾「……」

慎弥「よっ、ようっ！（汗）」ガチャ…

愛美「……」ギユウ…

圭吾「……何してんの？（汗）」

慎弥「まあ…とりあえず中に入れよ…（汗）」

圭吾「あっ、ああ…（汗）」

………

慎弥「……（汗）」

愛美「……」ギユツ…

圭吾「……で？何があってそんな事になった訳？（汗）」

慎弥「……実は…昨夜愛美の奴…俺が風呂に行ったきり帰って来ない夢を見たらしく…（汗）」

圭吾「……（汗）」

慎弥「とても悲しい夢だったらしくて…（汗）」

圭吾「……帰っていいかな？（怒）」

慎弥「なんで帰るんだよぉ！！！！（泣）」ガシッ！

圭吾「放せ…！（怒）」グググ…

慎弥「10年来の親友だろゝ頼む助けてくれよぉ！！（泣）」グググ…

圭吾「俺じゃなくて奈々に頼めばいいだろ…！（怒）」グググ…

慎弥「あいつにこんなみつともねえ姿…見せれる訳ねえよ…（汗）」

圭吾「変なプライドだけはあるなお前は…（汗）」

慎弥「うっ、うるせえ！（汗）」

圭吾「……（汗）」ポリポリ…

圭吾「…わかったよ……夕方までいてやるよ…」ハア…

慎弥「マジで!!?」

圭吾「その代わりっ!!」

慎弥「？」

圭吾「明後日は7時まで居残り練習な（怒）」

慎弥「え…?（汗）」

圭吾「やらないんなら俺やっぱ帰るわ」スッ…

慎弥「やりますっ!! やりますってばあゝ!!」（泣）」ガシッ!

圭吾「……（汗）」

グウウゝ……！！

圭吾「……？」

慎弥「……？」

圭吾「……なんの音だ？」

愛美「……／＼／＼」ギュツ…

圭・慎「……お前か（汗）」

愛美「……朝から何も食べてなくて……／＼／＼」

慎弥「そうそう、今朝から何も食ってなかったからなあ…」

圭吾「…けどもう昼前だし……飯……作ってやろうか？」

慎弥「そんな…そこまでしなくてもいいって…！（汗）」

圭吾「いいっていいって……んじゃキッチン借りるぞ？」 スツ…

.....

……数十分前……

~~~~圭吾宅~~~~

早希「今日は夕飯何にしよっかな〜♪」ルンルン

ピンポ〜ン♪

早希「は〜い！」タタタツ…

ガチャツ！

梓「あつ、早希さんこんにちは！」ペコツ…

早希「あら梓ちゃん！どうしたの？」

梓「この前先輩に借りたバンドスコアを返しに…」

早希「ごめんなさいね〜、圭吾さっき慎弥くん家に行ったばっかなのよ〜！」

梓「そうですか…それじゃこれ先輩にお渡してもらえますか？」

早希「はいはい！渡しておくわ！」

梓「それじゃ私はこれで…」

早希「ねえ！折角だから上がっていかない？」

梓「いえいえ……お気持ちだけ貰っておきます……それじゃ失礼します……！」ペコッ！

早希「……しかし……礼儀正しい子ねえ……圭吾には勿体ない勿体ない……」ガチャン……

……

梓「……片山先輩のお姉さん……美人だし優しいし……私もああいうお姉さん欲しいなあ……」トコトコ……

梓「……おっ？ケーキ屋……新しくできたんだ……」

梓「……ケーキでも買って先輩達に差し入れでも持っていこう……」スッ……

.....

……そして、慎弥宅……

圭吾「……冷蔵庫の中ロクなもん入ってねえな……（汗）」

圭吾「どうするか……」

圭吾「……おっ？カレールー発見……！」スッ……

ピンポーン♪

圭吾「……！」

慎弥「ヤバイ……（汗）」

愛美「……」ギュッ……

慎弥「あのさ愛美……すぐ戻ってくるからちよつと手放してくれねえかな？（汗）」

愛美「…すぐ戻って来てね……」

慎弥「はいはい（汗）」スッ…

ガチャ…

慎弥「あれっ？どうしたの梓？」

梓「片山先輩のお姉さんから山河先輩の家に行っていると聞いて……あつ、これ差し入れです！」スッ…

慎弥「えっ、いいのか？貰っちゃって？」

梓「はい……それじゃ私はこれで……」

慎弥「ああ梓！お前昼飯食った？」

梓「いえ……まだですけど……？」

慎弥「なら食って行けよ！圭吾が今昼飯作ってくれてるから！」

梓「えっ？でも……」

慎弥「いいからほらっ！」グイッ！

梓「わっ！（汗）」

……………

慎弥「圭吾の飯食うの久々だなあ……」スタスタ……

梓「そうですねえ……」スタスタ……

愛美「……………」ツカツカツカ……

梓「……あつ、愛美ちゃんこんにちは……」

愛美「……………！」ガバッ！

梓「……………へっ？（汗）」キョトン……

慎弥「……………スマン梓（汗）コレには訳があつて……………（汗）」

梓「はっ、はあ……（汗）……………先輩と愛美ちゃんってそんなに仲が良かったんですね……………（汗）」

慎弥「だからコレには訳があゝ！（泣）」

圭吾「おい何騒いで……ってなんだ梓、来てたのか」

梓「こんにちはです」ペコツ…

圭吾「丁度いいや、梓ちよつと手伝ってくれるか？」

梓「あつ、はい…」スツ…

慎弥「…なつ、なあ俺も何か手伝った方がいいかな？（汗）」

圭吾「お前は愛美ちゃんの側に居てやれ、何もしなくていいから」

慎弥「…わかった…」スツ…

愛美「……」スツ…

梓「……あの2人に何かあったんですか？」

圭吾「愛美ちゃん夢で慎弥が風呂に行ったきり帰って来ない夢を見
たらしいんだと……」トントン…

梓「それであの状態なんですか……」

圭吾「俺もあいつとは長い付き合いだけどあーゆー状況は初めてだ
よ……いつもあの2人喧嘩ばかりしてたからな……」トントン…

梓「へえ……」

圭吾「あっ！梓その鍋に水入れて！」

梓「あっ、はいっ！」スッ

梓「……これは何を作ろうと……」

圭吾「コレだよコレッ！」ピッ！

梓「カレーですか……いいですね！」

圭吾「てかコレしかなかった（汗）」

梓「……（汗）」

.....

慎弥「……………」ボーツ…

愛美「……………」ギュツ…

愛美「…………ごめんね…………お兄ちゃん……………」

慎弥「…………いいよ別に…………前にもこんなあったよなあ…………あれはまだ愛美が幼稚園のとき……………」

愛美「えっ！？ウソッ！！」

慎弥「俺が学校へ行こうとするのをお前が邪魔して…………あれは今でも覚えてるよ……………」フツ…

愛美「…………／＼／＼」カー…

圭吾「飯出来たぞー」

梓「おかわり沢山ありますからね」

慎弥「おっ！俺が好きなカレーじゃん♪」

愛美「…美味しそう…」

圭吾「いやゝ久々にカレー作ったよゝ！」ハハハ…

慎弥「ホントありがとう！圭吾！」

圭吾「梓にも礼言つとけよ」

慎弥「梓もホントありがとう！」

梓「いつ、いえ…（汗）」

圭吾「そんじゃ食べますか！」

4人「頂きまゝす！」

圭吾「…うん…まあこんなもんか…」モグモグ…

梓「とっても美味しいです！」

圭吾「辛くないか？」

梓「丁度いい辛さでとっても美味しいです！」

圭吾「よかったよかった……あの後一味唐辛子丸々一本入れなくて……」

梓「えっ！？（汗）」ガビーン！

愛美「…お兄ちゃん…」

慎弥「ん〜？」モグモグ…

愛美「…食べさせて…」

慎弥「離れたら食べれると思うよ〜？」モグモグ…

愛美「このままの姿勢で食べさせてって言ってるのに……全くバカとの会話は疲れる…」ハア…

梓「…よしっ！／＼グッ！」

慎弥「ふわぁ〜……なんだか眠たくなってきた……」

愛美「私も…」ウトウト…

圭吾「おいおい（汗）」

慎弥「…圭吾〜……あそこにベース保管室の鍵あるからそこから好きなベース勝手に持ってきて弾いていいよ〜……」グタァ〜…

圭吾「…（汗）」

梓「ベース保管室？」

慎弥「…ZZZ…」

梓「もう寝てる…（汗）」

圭吾「…ふう……」スッ…

圭吾「梓もついてくるか？ 慎弥のベース保管室に…」

梓「…あつ、はい…」 スッ…

愛美「……お母さん……お父さん…… Z Z Z…」

梓「……愛美ちゃん……」

………

梓「…なんですかコレ… (汗)」

圭吾「慎弥のベースだよこれ全部？」

梓「何本あるんですか (汗)」

圭吾「…てか前来た時よりまた増えてる… (汗)」

梓「凄い…… (汗)」

圭吾「どれにしようかな……」

梓「…山河先輩って実はお金持ちなんですか？ (汗)」

圭吾 「梓知らないの？ 慎弥のお母さん某有名ブランドの社長なんだぜ？」

梓「……ええええええ
ぐ！！！！？
(汗)」ガビーン！

圭吾 「まあそうなるよな普通（汗）」

梓「ムッ、ムギ先輩と張るんじゃないですかそれじゃ!?!?」
アワワワ…

圭吾「ん……どうだろ……あつ、でもこの前慎弥の奴ムギんところの会社と提携したって言ってたな……」

梓「もっ、もう何がなんだか……（汗）」

圭吾「でもおばさん……家に帰って来るのが2年に一回なんだってや……」

梓「でも……山河先輩のお父さんがいるはず……」

圭吾「慎弥のお父さんは海外で単身赴任中……もう5年は帰ってき
てないそうだぜ？」

梓「そうなんですか……山河先輩も大変なんですね……」

圭吾「まあな……おっ！コレにするか♪」スッ…

梓「でもホント凄いベースの数……（汗）」

………

圭吾「慎弥……って寝てるんだった……（汗）」

梓「…（汗）」

圭吾「ベース久々だなあ……スラップ出来るかな……」スッ…

梓（……なんか新鮮だな……）

圭吾「よっ♪」ペシペシ♪

梓「うっ、上手い……（汗）」

圭吾「いてて……やっぱ久々にスラップしたから親指が……（汗）」
イテテ…

梓「片山先輩ってベースも弾けるんですか？」

圭吾「俺前のバンドでもベースもたまに弾いてたからな、一応弾けるよ?。」

梓「なんか……ベースを弾いてる先輩結構新鮮ですね…」 フツ…

圭吾「まあ慎弥の方がヤバイくらい上手いけどな……あいつはダウ
ンピッキング中心だけどスラップもやらせたらバカみたいに上手い
よ（汗）」

梓「バカみたいにつて……（汗）」 ハハハ…

圭吾「ハハハ…」 ペシペシ♪

梓「……山河先輩って5弦とか6弦ベースとかの多弦ベース好きで
すよね〜……4弦ベース弾いてるの見たことないです……（汗）」

圭吾「俺もない（汗）」 あいつ自分でも言ってたな、4弦ベースはあ
んまり好きじゃないって……」

梓「……山河先輩が4弦ベースを弾いてる姿……なんか想像つかないです…(汗)」

圭吾「おいおい(汗)」ハハハ…

梓「…私もそろそろ新しくギター欲しいなあ…」グググ…

梓「ふう…」

圭吾「……」ペシペシ♪

圭吾「……違うな……こうか？」ペシ♪

梓「……」ウトウト…

圭吾「……」チラツ…

圭吾「…別に寝てもいいぞ？」ペシペシ♪

梓「…だっ、大丈夫ですっ!!」(汗)」アセアセ…

圭吾「そんな無理しなくてもいいぞ？ 人間寝る事は大切な事なんだし…」 ペシペシ♪

梓「……」

圭吾「…やっぱ5弦は使いづらいなあ…」

梓「……」 ウトウト…

圭吾「……よしっ……次はピックで弾くか……」 スツ…

慎弥「…んがあゝ…！ Z Z Z…」

愛美「…Z Z Z…」 スー…

梓「…Z Z Z…」

………

慎弥「…ふわあゝ……今何時だあゝ？」 グググ…

圭吾「もう4時過ぎだよ……」 ベンベン…♪

愛美「…んっ…」ムクッ…

慎弥「ふわぁ……あゝ!! そのLAKLANDのベース!! 俺まだ弾いてないのにいゝ!!」(汗)」

圭吾「…この赤っぱいの? スマンスマン」

慎弥「…昨日買ったばっかなのに…(汗)」ハァ…

圭吾「だから悪かったって(汗)」

梓「……」ムクッ…

圭吾「よう梓、目え覚めたか?」

梓「……」

圭吾「…梓?」

梓「…っ!」ガバツ!

圭吾「!?(汗)」

慎弥「…!」

愛美「…？」ボーツ…

圭吾「どっ、どうした梓？（汗）」

慎弥「なんだよ梓もかぁ？」

愛美「…ちよつと待って…」スツ…

慎弥「愛美？」

愛美「梓さん…怖い夢でも見たんですか？」

梓「……」コクン…

愛美「…例えば…圭吾くんがどこかに行ったきり帰って来ない夢でも見たとか……」

梓「…！」

愛美「当たりですか？」

梓「……」コクン…

圭吾「…嘘だろぉ……（汗）」

慎弥「まあ頑張れ♪」

圭吾「…うああ…どうしよう…」（汗）」

プルルルル〜♪

圭吾「…はい？（汗）」ピッ！

早希『圭吾〜？悪いんだけど今すぐ帰って来てくれない？夕飯作っててちよつとトラブルが…」（汗）』

圭吾「…今はそれどころじゃねえっ！！」（怒）」ピッ！

慎弥「すげ〜荒れてる（汗）」

梓「…先輩い〜…！（汗）」ガシッ！

圭吾「どーゆー悲しい夢見たんだよ…全く…」（汗）」ヨシヨシ…

慎弥「…でもどーすんの？」

圭吾「どーするったって……梓がこんなじゃ家にも帰れねえよ……
」（汗）」

愛美「……ねえ圭吾くん、明日日曜なんだし泊まっていけば？」

慎弥「おっ、おい愛美！（汗）」

愛美「いいじゃない別に！私達に色々としてくれたお礼に！」

慎弥「まあ……そうだな……」

愛美「さすがお兄ちゃん♪」

慎弥「……しかし愛美……」

愛美「んん？」

慎弥「お前もいつまで俺にくっついてるんだ？」

愛美「……／＼／＼」

……

……圭吾宅……

早希「……もう何よ……！圭吾の奴……！！」

早希「……ええい仕方ない！！ここからは自分の力でやるしかない
っ！……！」

………

～～～再び、慎弥宅～～～

慎弥「…晩飯どうする？」

圭吾「…もう出前でいい………」

慎弥「愛美は？」

愛美「出前でいいよ」

慎弥「梓は？」

梓「出前で………」

慎弥「中華と洋食どっちがいい？」

圭吾「…洋………」

愛美「私も洋食」

梓「じゃあ…洋食で…」

慎弥「はいよぉ」

………

圭吾「……（汗）」

梓「……」ギュッ…

慎弥「…俺の気持ちがよくわかっただろ？」

圭吾「…これはアレだな……想像以上にキツいな…（汗）」

慎弥「…もうこの際一緒に風呂入っちゃえよ（笑）」

圭吾「…！（怒）」ゴンッ！

慎弥「あだっ！！」

圭吾「……もういい……寝るわ……」スッ…

慎弥「……いてて……風呂入んねえーのか？」

圭吾「いい……」

慎弥「…しょうがねえな……そんなじゃ愛美、先風呂行ってこいよ」

愛美「う、うん……あつ、そうだ！梓さん一緒にお風呂入りますか？」

梓「…うん…」

圭吾「…zzz…」

慎弥「寝るの早っ！（汗）」

愛美「それじゃお先に…」 スッ…

梓「…」 スッ…

慎弥「…ふう……」

圭吾「……慎弥？」

慎弥「なんだよ、起きてたのかよ」

圭吾「……7時まで特訓の話……やっぱりなしの方向で……」グタァ……

慎弥「…疲れるだろ？（汗）」

圭吾「…これはヤバイ……（汗）」グタァ……

………

~~~~風呂場~~~~

愛美「ふい……」チャポン……

梓「…はぁ……」チャポン……

愛美「……」

梓「……」

梓「…愛美ちゃんってもう高校生？」

愛美「えっ？はい、今年から……」

梓「学校は？」

愛美「…一応……〇〇大学附属高校です…（汗）」エヘヘ…

梓「えっ！？（汗）」

愛美「…私……弁護士になりたくて……／＼／＼」ポリポリ…

梓「すっ、凄い……（汗）」

愛美「いつ、いえー！全然ですよ！！（汗）勉強もついていくのが  
やっとで……（汗）」アハハ…

梓「…でも凄いよ……あの学校は名門だし……」

愛美「…でもまだまだですよ…」

梓「……」

〵〵梓の慎弥と愛美に対するイメージ〵〵

慎弥↓やんちゃで頭が悪い

愛美↓真面目で慎弥よりしつかりしてそう

.....

梓「……」ボーツ……

愛美「…梓さん？梓さん！？」ユサユサ……

梓「……はっ！！？……あつ、ごめんなさい……（汗）」アハハ……

愛美「…大丈夫ですか？（汗）」

梓「…うゝん……ちよつとのぼせちゃったかな？（汗）」アハハ……

愛美「じゃあもう出ますか？」

梓「…そだね…」サバァッ！

.....

圭吾「…ZZZ…」ガァ……

慎弥「……」↑ベースの弦張り替え中



愛美「お風呂空いたよ」

梓「……」スタスタ…

慎弥「…お…」ボン…ボン…

愛美「…お兄ちゃん？もう新しいベース買うのそのベースで終わりにしてね？」

慎弥「…ほ…い…」↑チェック中

愛美「…ちょっと！？聞いているお兄ちゃん！？」

慎弥「…うん聞いている聞いている」ボンボン…

愛美「嘘ばかり！！」

慎弥「嘘じゃないって」

愛美「テキトーな事ばかり言って…！」

ギャーギャー……!!

梓「……(汗)」

圭吾「…全く……仲がいいのか悪いのやら……」フツ…

梓「あれっ?先輩寝てたんじゃ……」

圭吾「この騒ぎで目が覚めたよ(汗) まあいつもの風景だけだな」

梓「……」

圭吾「あれっ?梓もう治ったのか?(笑)」

梓「へっ!?!?／／／」

圭吾「まあ治ったんらしいけど…(笑)」プツ…

梓「なっ、なんで笑うんですかぁ〜!!!!／／／」ポカポカポカ!

圭吾「イタタタっ!! (汗) ごめんごめん (笑)」 ククク…!

梓「うわあああゝ!! (汗) / / /」

慎弥「……梓の奴めっちゃテンパってるなあゝ… (汗)」

愛美「ちよっとお兄ちゃん!!」

慎弥「風呂行ってこよゝ」 ピュゝン!

愛美「あっ! こら待て!! (汗)」

.....

ゝゝ次の朝ゝゝ

圭吾「じゃあまた明日な」

梓「さようなら」

慎弥「またな」

愛美「梓さんまた今度ウチに来てくださいね♪」

梓「うん！」

圭吾「慎弥、新曲明日律達に発表するから練習しっかりしとけよ！  
」？」

慎弥「はいはい（汗）」

.....

圭吾「：んじゃまたな梓」

梓「はい、また明日」ペコツ：

~~~~圭吾宅~~~~

圭吾「ただいま」ガチャ：

圭吾「：うゝっ！：？なんだこの鼻に突き刺さるような甘ったるい
臭いは？？？」（汗）」

圭吾「…おい早希…？ いるんだろ…？ (汗)」ガラッ…

圭吾「…うゝっ！！？ (汗)」ガビーン！

早希「…あ、お帰り…」ズーン…

圭吾「……て、てめえ何作りやがった…！！？ (汗)」

早希「…実はねえ…：…今までにはないクリームシチューを作ろう
と思つてさ…：…色々試した結果…：…」

圭吾「クッ、クリームシチュー！！？」パカッ…

圭吾「…！！！？ なんだこのいかにも食べたら死ぬぞ的な色…：…！
(汗)」

早希「…圭吾おゝ！！ (泣)」ガバッ！

圭吾「おっ、おい放せバカっ！！ (汗)」アセアセ…

早希「なんで私料理卵かけご飯しか出来ないの…！！？ (泣)」

圭吾「いや、卵かけご飯は料理じゃねえから」キツパリ

早希「そつ、そんな……（泣）」ガーン！

圭吾「とつ、とにかくこれ片付けろ！！（汗）話はそれからだ！！
（汗）」

……………

早希「なんとか片付いた……（汗）」ハァ……

圭吾「……片付けてもらったばっかで悪いんだが……」

早希「……何？」

圭吾「……そろそろこの話終わらないといけならしいぞ？（汗）」

早希「へっ？どうして？」

圭吾「作者曰くもうサッサと次の話に進みたいんだとき（汗）」

早希「ええ〜!!!? 何よそれ〜!!!? (汗)」

圭吾「俺に言うなよ (怒)」

作者「すみません、そろそろ終わっても宜しいですか?」

早希「ちよっ!! 久々の登場なんだからもう少しし〜!!」

〜fin〜

早希「終わっちゃった!! (泣)」ガビーン!

圭吾「…… (汗)」

#10 新曲!! (前書き)

久々に更新です(´∀´●)

今回はちょい長めですw

相変わらずの文章力ですが宜しく願いますw

#10 新曲!!

………ある日………

~~~~音楽準備室~~~~

圭吾「ラララ♪……いや……ここは違うな……」 カキカキ…

慎弥「……」 ボンボンボン…♪

修一「ふわあ……眠っ……」 グググ…

結花「……」 ジャカジャカ♪

律「いやあ……昨日は明日祝日で学校休みだから朝から練習するぞっ!」 言ってみたはいいものの………やっぱ朝からはキツかった…… (汗) 「グタァ……」

漚「何言ってるんだ全く… (汗)」 ボンボンボン…♪

唯「……」 ウトウト…

律「…うゝ…眠っ…」

梓「もう2人ともしっかりして下さい!」

律「…梓ゝ…朝からそう怒らないでくれえゝ…」グタァゝ…

唯「…ZZZ…」スヤスヤ…

梓「…ダメだこの2人…(汗)」ハァ…

紬「みんなゝ! コーヒー入りましたよゝ♪」

律「おっ♪流石ムギ♪」ガバッ!

唯「…むうゝ…」ムクッ…

梓(本当にダメだこの2人!! (汗))ガビーン!

圭吾「……………ああゝ!! (怒)ダメだあゝ!! (怒)」グシヤグシヤ!

修一「…また不発か？（汗）」

慎弥「……」ヴォーン♪ボンボン♪

結花「…ふう……山河先輩、一回合わせますか？」

慎弥「おう、やるか」

圭吾「……また作り直しだ…（汗）」

紬「はいっ、圭吾くんどうぞ♪」スッ…

圭吾「おお……ありがとムギ…」スッ…

紬「…また書き直し？」

圭吾「なかなかいい歌詞が浮かばなくて……」ズズズ…

修一「曲は作るの早いのにな」

律「…なあ圭吾！一回その新曲聞かせてくれよ！」

圭吾「今かよ? (汗)」

唯「私も聞きた〜い♪」

慎弥「いいんじゃないの別に?」

修一「俺も別に構わないぞ?」

結花「…私も」

奈々「やろーやろー♪」

律「って奈々!!? お前いつ来たんだよ!!? (汗)」ドキッ!

奈々「今来たっ!」ブイッ!

慎弥「いやいや、威張るなよ (汗)」

圭吾「お前寝坊しただろ… (汗)」

奈々「っ!! (汗) ねっ、寝坊なんかじゃないもん!! (汗)」ア

セアセ…

修一「奈々…物凄い寝癖ついてるぞ…?」  
（汗）」

奈々「へっ!!? 嘘っ!!? / / /」アセアセ…

圭吾「…（汗）」

紬「直してあげるわ奈々ちゃん」スッ…

奈々「ありがとムギちゃん…」

慎弥「よいしょっと…」フウ…

律「またしかし…相変わらず派手だなあ……慎弥のベースは…  
…（汗）」ハハハ…

慎弥「…これがか? どこが?」

滯「ピンク…私だったら絶対そんな派手なベースでステージに立ちたくないよ…（汗）」

梓「凄い……（汗）」

修一「あんまそのベース評判が良くないな（汗）」

慎弥「いいベースなんだけどなあ……」ポンポン…

律「前から気になってたんだけどさ、慎弥お前ベース一体何本持ってんだ？（汗）」

慎弥「ん……3〜40本ぐらい？」

律・唯・滯・結「さっ、3〜40本っ！！？（汗）」ガビーン！

奈々「3〜40本っ！！？（汗）」ガビーン！

紬「ダメよ奈々ちゃん！動いちゃ！」

奈々「あ、ごめんなさい（汗）」

梓（この前見たから驚こうにも驚けない…（汗））

圭吾「お前には愛着心ってもんがないのか？」ジャーン♪

慎弥「ちゃんとあるわいっ!!」(汗)」

圭吾「あるつつつてもどーせ2、3本とかそんなんだろ?」↑チュ  
ーニング中…

慎弥「っ!!」(汗)」グサツ!

結花「…すっ、凄い…」(汗)」

紬「ふう…一応やるだけやったけど…」スツ…

奈々「おおっ!!? 流石ムギちゃん♪ありがとうー!!」

紬「でもまた元に戻るかも…」(汗) 奈々ちゃん凄い癖毛だから…」

奈々「なんとっ!!?」(汗)」ガビーン!

圭吾「奈々、これで固めてやろうか?」↑スーパーハードヘアース  
プレー

奈々「だっ、駄目っ！！（汗）そんなの使ったら髪洗うときガシガシになっちゃうよぉ！！（汗）」ガバッ！

圭吾「これ凄いぞ？物凄い固まるし」

奈々「絶対にやだっ！！！！（汗）」

ギャーギャー……！！

修一「…早くしてくれよ…（怒）」

………

圭吾「んじゃ…まずは……慎弥と修一が作曲した曲を……」スッ…

唯「曲名は何ていうの？」

圭吾「……なんだっけ？」

律「っ！！（汗）自分達の曲だろ？（汗）」



慎弥「ミルキーロードだろ？（汗）」

圭吾「あつ、そうだったそうだった！」

澤「…曲名を忘れるって…（汗）」

紬「…あつ！詞は誰が書いたの？」

修一「俺だよ」

律「おお…どんな感じになってるか楽しみだなあ…」

圭吾「…じゃあいくぞ…？」スツ…

圭吾「……」ポロポロ…♪

修一「…！」ダンッ！ダカダカ！

慎弥「♪ヴォン♪ボボボボン♪」

結花「…♪」ジャーン♪ジャカジャカ♪

奈々「♪」ポロンポロン♪

慎弥「♪」ヴォーン…♪

圭吾「……」ポロポロ…♪

修一「♪」……ダンッ！ダカダカバァーン！

奈々「よっ♪」ヒュルルル〜ン♪

慎弥「♪」ボンボンボン♪

結花「♪」ジャカジャカ♪

圭吾「…♪〜♪〜」ジャカジャカ♪

律「おお〜…」

唯「かっこい〜♪」

澪「やっぱ上手いな……」

結花「……」ジャカジャカ♪

ブチンッ!!

結花「……っ!」

圭吾「〜♪……ん?」ピタッ……

修一「……?」ピタッ……

慎弥「どうした〜?」ヴォ〜ン……♪

結花「……すみません、弦が切れちゃいました……(汗)」

奈々「結花ちゃん手切ったりしてない?大丈夫?」

結花「……はい、大丈夫です……」

圭吾「予備の弦あるのか?」

結花「はい、持ってます……すみませんホント……」

慎弥「まあ気にすんなよ」

圭吾「そうそう、弦切れるのは仕方ない事だし」

修一「ドンマイドンマイ」

奈々「気にする事ないよ♪」

圭吾「お前は自分の頭を気にしろ」

奈々「えっ!?!? (汗) また寝癖がつ!?!? (汗)」ガバツ!

紬「…凄くチームワークがいいわね…」フフツ…

梓「そうですね…!」フツ…

慎弥「…あつ、そーいえばさ、今度のライブの時二曲だけパートチェンジするんだったっけ?」

圭吾「ああ」

修一「曲は『空の虹』の楽曲アレンジバージョンと……あともう一曲は？」

圭吾「んゝ…『HONEY 2007』にするか？」

慎弥「HONEYか……結花この曲知ってるか？」

結花「…はい……一応……でも私あまり低音はでないですよ？」

圭吾「じゃあ結花が『空の虹』のメインボーカルで慎弥が『HONEY 2007』のメインボーカルだな、『空の虹』なら結花も声が出るだろう」

慎弥「奈々、お前近々ドラムの練習しとけよ？」

奈々「ラジャー！」ビシッ！

さわ子「練習がんばってるゝ？」ガチャ…

律「おっ！さわちゃん」

さわ子「……ちょっと慎弥くん何〜？（汗）そのベース……（汗）」  
修一「相変わらず不評だな…（汗）」

慎弥「……」ズーン……

奈々「あ、落ち込んだ」

結花「……」↑弦張り替え中…

圭吾「…俺もそろそろ新しいギター買おっかなあ〜？」ジャーン♪

紬「先生、お茶どうぞ♪」スッ…

さわ子「ありがとう」ニコッ…

慎弥「よしっ！もう一曲やるぞ！」シャキーン！

律「お、復帰した（汗）」

漣「単純……（汗）」

さわ子「……また凄いベースねえ……（汗）6弦ベースって……（汗）」

圭吾「6弦ベースをこちら辺の高校で使ってる奴って慎弥ぐらいじゃねえの？」

修一「…恐らく……（汗）」

唯「慎弥くんそのベースで何か弾いてよ〜！」

慎弥「弾くって……何を弾きゃいいんだよ（汗）」

滯「こら唯！慎弥が困ってるだろ〜！？」

結花「…ふう……できた……」

圭吾「今日先生祝日なのに出勤？」

さわ子「明日の放課後に職員会議があるからその準備でね……ホント……疲れるわ〜……」

圭吾「お疲れだな、先生」

奈々「……はっ！今日何日だった！！？（汗）」

梓「10日ですけど……（汗）」

奈々「しまったぁー！！今日お昼にこの前見逃したドラマの再放送録画してくるの忘れたー！！！！（泣）」ガーン！

圭吾「どうでもいい……（汗）」

修一「……てか……奈々の奴ドラマとか見るんだ……」

律「大丈夫だよ！（汗）昼前には終わってやるから（汗）」

奈々「ほっ、本当っ！！？ありがとーりっちゃん♪」

梓「……（汗）」

さわ子「……全く……（汗）」フフッ……

修一「……あっ、そうだ！みんなに言っておきたい事があるんだけど……」



律「なんだなんだ？」

唯「何何？」

漣「何か重要な事があるんじゃない……」

紬「何かしら……」

梓「……」

修一「実はウチにスッポンみたいな亀があるんだけど……ウチじゃ飼えないから軽音部で飼ってくれないかなって話で……（汗）」

律「……なんだよ……真面目な話かと思えば……（汗）」

漣「亀……（汗）」

唯「飼おう！」

梓「唯先輩！？（汗）」ガビーン！

紬「飼おう飼おう♪」

梓「ムギ先輩まで!?(汗)」ガビーン!

圭吾「亀って……ウチの部は飼育係じゃないぞ?(汗)」

慎弥「しかもスッポンみたいな亀ってどんな生物だよ(汗)」

結花「…見てみたい…」

奈々「…スッポンって噛むヤツだよね……?(汗)」

梓「いや、スッポンではないです(汗) スッポンみたいな亀です(汗)」

奈々「…ホント?(汗)」

律「飼うって言っても……餌とか水槽はどうするんだ?」

紬「私持ってくる!」シャキーン!

律「うお…!?(汗)」ビクッ!

さわ子「…飼うのはいいけど……ちゃんとみんなで世話するのよ?」

結花「……」チャラ〜ン♪…

慎弥「…ドラム難しいなあ〜…」タンツ！タカタカ…！

奈々「そうかなあ〜？」

慎弥「……なんだろ……この屈辱感……（汗）」ハハ…

さわ子「……さて……そろそろ職員室に戻ろうかしら……」スクツ…

唯「え〜！？もう少しいてよ〜！？」

圭吾「やめんか（怒）先生は忙しいんだよ（怒）」ゴンツ！

唯「あだっ！（泣）」

さわ子「終わったら職員室に鍵返しに来てね？」

律・唯・奈「あ〜い♪」

ガチャン…!

圭吾「…んじゃさっきの続きやるか？」

慎弥「おう！」

修一「やりますか」

奈々「やるぞ〜！」

結花（…頑張るぞ!）

……………数時間後……………

律「よし、今日はここまでにするか！」

奈々「じゃっ、じゃあ先に帰るね!?（汗）」アセアセ…

律「あードラマの再放送ね（汗）きおつけて帰れよ?（汗）」

奈々「じゃっ、じゃあね!!」ピュー!

滯「はやつ…(汗)」

圭吾「慎弥と修一この後暇か？」

慎弥「暇だけど…」

修一「…一応暇…」

圭吾「飯食いに行かねえ？」

修一「…俺はいいけど…」

慎弥「…まずいな…財布の中スツカラカンだ…コンビニで引き出してこないと…(汗)」

圭吾「…(汗)」

結花「…さてと…」

唯「結花ちゃん結花ちゃん♪」

結花「…はい？」

唯「この後暇〜？♪」

結花「…はい…一応……」

紬「一緒にお昼食へに行かない？♪」

結花「いいんですか？私が行っても…」

律「何言ってるんだよ、当たり前じゃないか」

唯「行こ〜よ〜♪」ダキッ！

結花「…えっ！！？ちよっ…！！！！」  
／／／  
「ドキッ！」

紬「唯ちゃんずる〜い♪私も〜♪」ダキッ！

結花「…ちよっど……あの…／／／  
「カー…」

梓「何やってるんですか2人とも!!」(汗)」

唯「あずにゃんもしてあげるよ♪」ダキッ!

梓「そうじゃなくて〜!!!」(汗)」

澪「何をしてるんだ…」(汗)」

律「ほら〜、もう鍵閉めるぞ〜?」(汗)」

圭吾「…相変わらず唯とムギは…」(汗)」

慎弥「まあいいんじゃない?」(汗)」ハハハ…

修一「…」(汗)」

……………

慎弥「ATMから金出してこないと…」スタスタ…

修一「…陸上部頑張ってるなあ…」スタスタ…

圭吾「…ふわあ…眠い…」スタスタ…

………

律「とりあえずファミレスに行くか？」スタスタ…

漣「そうだな」スタスタ…

唯「何食べよっかなあ♪…」スタスタ…

紬「へえ…そうなんだあ…」スタスタ…

結花「…はい…」スタスタ…

梓「………」スタスタ…

梓（…もうすぐで夏休みかあ…）スタスタ…

………

~~~~コンビニ~~~~


慎弥「んゝと……暗証番号は……」ピッピッ…

修一「ちょっとトイレ行って来る」スッ…

圭吾「ん…」↑本立ち読み中…

圭吾「…」ペラッ…

圭吾（…！人気ロックバンド『ジキル』世界6都市ツアー開催決定……すげーな……）

慎弥「お待たせゝ…って何読んでんだ？」ヒョイツ

圭吾「…この記事読んでみ…」スッ…

慎弥「んゝ？…ああ、ジキルの世界ツアーね、昨日テレビでいったな」

圭吾「すごいよな……ここまで来るって……」

慎弥「そりゃ〜今世界中でも人気あるらしいからな、ジキルは」

修一「ふう〜……スッキリした……」スタスタ…

圭吾「んじゃいつものラーメン屋行くか！」パタン！

……………

〜某ファミレス〜

律「ふう〜食った食った〜！」

澪「…もうすぐ1時か……」

唯「この後もどっか行くの〜？」

紬「どこかいい所あるかしら……」

梓「楽器屋とかはどうですか？」

澪「楽器屋か……」

律「結花はどこ行きたい？」

結花「…私ですか? ……え〜っと……」ウーン…

律「結花結花（汗）何もそこまで真剣に悩まなくてもいいぞ? （汗）」

圭吾「…まさか今日臨時休業だったなんて……（汗）」スタスタ…

修一「…まあ仕方ない…」スタスタ…

慎弥「…おっ? なんだ律達ここで飯食ってたのか? 」

律「お前らこそいつものラーメン屋に行ったんじゃないのか? 」

慎弥「それが今日臨時休業だったんだよ…（汗）」ハハハ…

圭吾「腹減った〜! 」ドカツ!

修一「デカイ声だすな馬鹿野郎」

慎弥「ってもう座ってるし!! （汗）」

律・漑・唯・紬・梓・結「……（汗）」

……………

圭吾「食った食った…」

修一「…この料理量が多い…」ウップ…

慎弥「この後どうする？」

律「なんだ？ 慎弥達も暇なのか？」

漑「…この際だし…律も勉強したらどうだ？」

律「ええ〜!!? やだよ〜!（汗）」

梓「嫌がってもその内やらないとダメですよ?（汗）」

律「それはわかってるけどさあ〜……」

修一「後輩に言われたら終わりだな（汗）」

結花「……」ズズズ：

圭吾「…久々に修一ん家に行かないか？」

修一「…えっ!!? (汗) なんで俺ん家!!? (汗)」

慎弥「おっ? いいじゃん! 修一ん家行こうぜ!」

律「私も行きたい!」ハイッ!

唯「私も!」

紬「私も行きた〜い♪」ハイ♪

漣「…わっ、私も……／＼」ハイ…

修一「…まあ今日は家に誰もいないからいいけど…… (汗)」ヤレヤレ…

律「梓と結花も行くだろ?」

梓「…じゃあ……お邪魔させてもらいます……」

律「結花は？」

結花「…あの……私がお邪魔しても……？」

律「だからなんで遠慮するんだよー！」ガバツ！

結花「…いや……なんか先輩の家にお邪魔するのが…（汗）」

慎弥「大丈夫大丈夫♪別に遠慮することないない♪」アハハ…

律・濤・圭・修「お前が言うな！（汗）」

……しばらくして……

修一「ちょっと待ってろ、今暗証番号入れるから」ピッピッピッ……

律「金庫みたいだな（汗）」

結花「……!!」（汗）↑あまりのスケールの大きさに固まってる

滯「相変わらず修一の家は凄いな…」（汗）」

唯「…ねーねーあずにゃん、去年修一くんの家に来た時あんな建物あつたっけ？」

梓「…確かに……前来た時はなかったような……」

修一「あれはウチのバカ親父のレーシングチームのファクトリーだよ…」ピッピッ…

慎弥「すっげー…」（汗）」

修一「…よしっ、開いた開いた…んじゃまあ入れよ」ガチャ…

………

圭吾「修一、あのアンプ使ってもいいか？」

修一「いいよ」

律「なあ修一！あのドラム叩かせてくれないか！？」キラキラ…

修一「別にいいよ」

律「よっしゃー！思いっきり叩くぞー！！」

唯「りっちゃんテンション高いね」

滯「いつもあれくらいのテンションで練習してくれたら嬉しいんだけどな…」（汗）」

梓「全くです…（汗）」

圭吾「…♪」ジャーン♪ジャカジャカ…♪

紬「…あら？圭吾くんギター変えたの？」

圭吾「ん？ああこれね、知り合いの楽器屋の人に格安で塗装し直してもらったんだよ」

漚「…最近レスポールを使ってなかったのはそのためか……」

紬「色が変わると大分見た目も変わるわねえ……」

圭吾「俺には愛着心つてのがちゃんとあるからな、アイツと違って」

慎弥「ヘックション!!!!」

漚・紬・梓「……（汗）」

律「おりゃ〜♪」ダカダカダカダカ!!!!

唯「……? ねーねー修一くん、あの部屋ってなんの部屋？」

修一「あれはレコーディングスタジオだよ」

漚「何っ!!!? （汗）」ガビーン!

梓「レッ、レコーディングスタジオ…（汗）」

修一「入ってみるか？」

紬「は〜い♪」

梓「ムギ先輩が興味津々だ!! (汗)」

結花「私も入りたいです!!」

梓「大田さんもなんかいつもより積極的だ!! (汗)」

修一「…最近使っていないからな…」ガチャ…

律・唯・澪・紬・梓・結「おお…!!」

澪「凄いな…」

梓「凄い……こんな大きいミキサー初めて見た……」

唯「ねえコレ見て!このマイクって歌録ったりするヤツ用のマイクだよね!？」

修一「まあそうだけど…（汗）」

圭吾「…久々にレコーディングしてみないか？」

慎弥「おっ！いいなそれ！！」

修一「…律達もレコーディングしてみたいか？」

律「どうする滯？」

滯「一度やってみたかったんだよな……」ワクワク…

律「…決まりだな…」フツ…

修一「…じゃあ最初は俺達が見本を見せるから、しっかり覚えろよ？」

慎弥「…レコーディングするのはいいけど……これ壊れてるのかミキサーの電源入らねえぞ？（汗）」カチカチ…

修一「うつ、嘘っ!? (汗)」カチカチカチ……

修一「…ダメだ…完全に壊れてる… (汗) 悪いけどレコーディングはまた今度な (汗)」

律「ええ〜!!?」ブーブー!

漚「仕方ないだろ律」

律「ちえ〜!」ブーブー!

圭吾「…話変わるけど軽音部で飼う亀はどこにあるんだ?」

修一「…ああ、あれなら裏庭にあるよ」

唯「見てみたいなあ〜!」

紬「私も〜♪」

修一「ええ〜…今かよ（汗）…」

圭吾「別にいいんじゃない？今見せても…」

修一「…まあ明日学校に持って来るから、今日はもう無しな！（汗）
↑裏庭に行くのが面倒なだけ

唯「ええ〜！？」ブーブー！

紬「残念ねえ……」

慎弥「…おい（汗）お前裏庭に行くのが面倒なだけだろ？（汗）」
ヒソヒソ…

修一「…あつ、バレた？（汗）」ハハハ…

漣「……！なあ修一、あのショーケースに入ってるベースは……？」

修一「…あああれね、あのベースは世界に40本しかないかなりレアなベースなんだよ…」

慎弥「…げっ!!これL'Arc〜en〜Cielのtetsumy
aのシグネイチャーモデルのESP BUGSYじゃないか!!」
(汗)」ガビーン!

圭吾「慎弥が物凄い食い付いてるな(汗)」

慎弥「…すげー……初めて見た……」ジ……

律「慎弥はL'Arc〜en〜Cielの大ファンだからなあ」
(汗)……」

滯「それに憧れのベースリストのシグネイチャーモデルのベースだし
な……」

慎弥「…ホントすげー……」ジ……

修一「…なあ慎弥、そのベース……譲ってやろうか？」

慎弥「……へっ?」

梓「ちよっ……!!高山先輩!!譲っちゃってもいいんですか!!?」

（汗）
」

律「そうだぞ修一！！（汗）あのベース世界に40本しかないベースなんだろ！？（汗）」

修一「…いやあ、俺ベースが専門じゃないし持ってもただの宝の持ち腐れだしな……」

慎弥「まっ、待て待て！！（汗）それはいくら何でも……！！（汗）」
アセアセ…

修一「まあいいからいいから…」ガチャ…

圭吾「…後悔はないのか修一？お前もラルクのファンなんだろ？」

修一「別にかまわないさ…」↑ショーケースからベースを出してる

修一「…ほれっ！受け取ってくれ！」スツ…

慎弥「…あつ、ああ……でも俺はそんなつもりじゃ……（汗）」

修一「気にするな！（笑）」バンツ！

慎弥「いっ！！？（汗）」グフッ！

結花「…高山先輩…カッコいいかも…」

律「…？今なんか言ったか結花？」

結花「…いつ、いえ何も！！（汗）／／／」

漚「なぜ赤くなってる？（汗）…」

慎弥「…でも……ホントすげー……」

圭吾「…けどお前が4弦は似合わないな」

梓「山河先輩は5弦のイメージが強いですからね…」

律「この際4弦ベースに移行したらどうだ？」

慎弥「やだよ（汗）俺が5弦にしてるのは作曲する際に演奏の自由

度を高める為に5弦にしてるんだから（汗）」

唯「でもたまには4弦でも演奏してみたらいいと思うよ？」

滯「…まあ……一回初心に戻ってみるのもいいかもな……」

慎弥「…でも俺達が作ったオリジナル曲は全部5弦でベースのライン作ってるからなあ（汗）……」

圭吾「一応5弦じゃないのもあるぞ？」

慎弥「えっ！？（汗）」

律「まじで圭吾！？作ってたのか！？」

圭吾「いや、作ってたっていうか昔作ったのが一曲だけな…」

紬「…昔作った曲？」

圭吾「ああ」

修一「…！お前まさか……！」

圭吾「そのまさかだよ…あの時録ったデモCDあったはずだろ？」

修一「…多分あると思うけど…」

慎弥「あの時の…何だっけ？」

圭吾「慎弥は多分知らないと思うよ、俺と修一で作った曲だから」

修一「…ちょっと待てよお…」ガサゴソ…

修一「…あつ、あつたぞ!!」バツ!

グラッ…

律「あつ、危ないっ!!」(汗)

修一「…ん？」

ガッシャーン!!!

潐「っ…!」(汗)

圭吾「あゝあゝ(汗)…」

紬「だっ、大丈夫!?(汗)」

修一「いてて(汗)……やっぱこまめに掃除しなきゃダメだな…(汗)」

唯「ケガしてない?修一くん?」

修一「大丈夫だよ…」パンツ…パンツ…

梓「凄いドラムスティックの数ですね……(汗)」

律「けど全部使い込んでるなあ…」ヒョイツ…

滯「律もこれくらい練習してくれたらなあ…」ハア…

律「やっ、やかましい!(汗)」

修一「…けど圭吾お前…(汗)これはボツにしたはずじゃ(汗)…」

圭吾「まあ一回みんなの意見を聞いてみるってのもアリだと思うんだよな…」

修一「…圭吾が別にいいって言うんなら…（汗）」

圭吾「頼むわ」

律・唯・滯・紬・梓・慎・結「……」

修一「…（汗）」カチッ…

♪……

律（おっ…最初はギターのイントロからか…音色が柔らかい感じでいいな…）

ジャカジャカ！！♪↑急にデスメタル風のイントロに激変

律・唯・滯・紬・梓・慎・結「…っ！！？（汗）」

修一「…みんなの反応が…（汗）」

慎弥「なっ、なんだこの急な曲調の変わり方は…（汗）」

律「そうしとけそうしとけ（汗）」

紬「……あつ、そういえば大分前にライブハウスに出るって話は……」

律「ああ、そーいやそんな話あったなあ……」

圭吾「ライブに出るんだったら昔よく俺らが行っててライブハウス紹介してやろうか？」

梓「でもお金が凄いかかるんじゃ……」

圭吾「大丈夫大丈夫、金なら修一がおごってくれるって」ポンツ！

修一「……はいっ!!?（汗）」ガビーン！

律「いやいやいやいや（汗）」

梓「何言ってるんですか!!（汗）」

修一「……まあ別に出してやるけどさあ……（汗）」

律・梓「いやなんでそうなる!!? (汗)」ガビーン!

圭吾「まあ冗談はさておき……部費がまだかなり残ってるんだろ? 律?」

律「かなりどころかまだ1円も使ってないよ(汗) まあさわちゃんに頼んだらライブハウスの出演料ぐらいいは部費から出してくれるだろうな」

唯「でもこの大人数で出るの?」

修一「そうだな……どうしたものか……」

梓「やっぱりいつものように分かれて出るしか……」

圭吾「…分かれて出るとなると……一組の出演料が一万五千円だから三万円かかるな」

唯「三万円だったらさわちゃん出してくれるよ!!」

律「よし!! んじゃライブに向けて今から特訓だ!!!!」ワ
クワク……!

漚「律……その前に期末テストがあるのを忘れてないか？（汗）」

律「げっ……！（汗）忘れてた……（汗）」

唯「そうだった……期末テストがあるんだった……（汗）」

梓「唯先輩も忘れてたんですか（汗）」

圭吾「なんだ漚、もう復活したのか（汗）」

漚「そっ、それを言うなっ！！（汗）／／／カー……

ヴー、ヴー……

慎弥「……？非通知……はいっ？」ピッ！

『あっ！山河か！？俺だよ！！○○だよっ！！』

慎弥「……ああ！お前か！！久しぶりだな、中学以来だな！」

『そうだな!!…いきなりで悪いんだけどさ、ちょっとお前に頼み
ことがあってさ…(汗)』

慎弥「…なんだ？」

『俺今の高校の奴らとバンド組んでんだけどちょっとベース担当の
奴が昨日自分家の階段から滑って左腕折っちまってさあ…(汗)
』

慎弥「…(汗)話の内容は大体わかった…(汗)要するにそいつ
の代役をしてくれてことだろ？(汗)」

『…当たり前(汗)』

慎弥「俺もバンド組んでるし…もうすぐしたらウチの学校期末テ
ストだしなあ(汗)…」ポリポリ…

『頼むっ!!頼れるのはお前しかないんだっ!!』

慎弥「ん…ちょっと待ってろ」スッ…

慎弥「な…圭吾、〇〇覚えてるか？」

圭吾「…ああ……あいつか……あいつがどうかしたのか？」

慎弥「実はあいつからヘルプ受けちゃってさ……（汗）」

圭吾「ふうん……まあいいんじゃない？ 助っ人してあげろよ？」

慎弥「随分あっさりだなオイ（汗）」

慎弥「……もしもし？ 一応助けてやるよ…」

『マジで！！？ ありがとう山河！！ それじゃまた今度詳しく連絡するよ！…！』

慎弥「…ああ…じゃあまたな…」ピッ！

修一「人気者だな慎弥」

慎弥「やめてくれ（汗）」

圭吾「…じゃあ話を戻して……チケットはどうやって売ろうか？」

律・唯・澪・紬「…チケット？」

圭吾「…おいお前ら（汗）」

慎弥「…マジかよ（汗）」

修一「…（汗）」

結花「…（汗）」

圭吾「…しょうがない奴らだ…（汗）説明してやれ梓…（汗）」

梓「あっ、はい…（汗）いいですか？ライブハウスではチケットを自分たちで売って、その売上金で出演料を払うっていうシステムなんですよ？（汗）」

修一「三万円だと一枚千円×三十枚だな」

律「さっ、三十枚…（汗）」

澪「私達で三十枚も売れるか心配だ…（汗）」

唯「だっ、大丈夫だよきつと!!（汗）」

紬「うつ、うんっ!! (汗) 絶対売れるわっ!! (汗) ……でもちよっと不安…… (汗)」

圭吾「おいおい (汗) 今からそんな弱気でどーする (汗)」

律「こーなったらクラス中の子達にチケットを売るしか方法はないな… (汗)」

圭吾「…まあそれでも売れなかったら滯のファンクラブの奴らに売るっていう作戦があるさ…」

滯「…っ!! (汗)」グサツ!

律「じゃー今から曲順表作ろーぜ♪」

圭吾「言つとくけどそこのライブハウス持ち時間20分だぞ」

……数分後……

律「…んゝ……こんなもんか?」

圭吾「どれ」スツ：

〳〵曲順表〳〵

1, ふわふわタイム

2, 私の恋はホッチキス

3, カレーのちライス

4, ふでペンボールペン

5, いちごパフェが止まらない

6, ぴゅあぴゅあはーと

.....

圭吾「：いいんじゃないかこれで？」スツ：

律「圭吾達の曲順表はどんな風になったんだ？」

圭吾「ほれ」スツ

〵〵曲順表〵〵

1, 空の虹 オリジナル

2, S T A Y コピー A W A Y

3, 愛するあなたへ… (オリジナル)

4, ミルキーロード (オリジナル)

5, L i n k コピー

6, R E A D Y S T E A D Y G O コピー

7, 浜辺 オリジナル

.....

滯「…この一番最後の曲は新しい曲なのか？」

圭吾「3つ作った内の2つ目の曲、イントロだけ聞いてみるか？」

律「おっ！マジで!？」

唯「聞きたい聞きたい〜♪」

圭吾「じゃあ少しだけ……」スツ……

圭吾「……」ポロポロポロ……♪

結花「……アルペジオ……」

圭吾「はい終わり！」ピタッ！

律「えっ！！？（汗）」

慎弥「もう少し位いいじゃんか（汗）」

圭吾「あつ、そうそう……この曲は6弦ベースじゃないと弾けないぞ
慎弥？」

慎弥「え……（汗）」

澤「なんだ？（汗）慎弥達はまだ楽譜すら貰ってないのか？（汗）」

圭吾「今からこの曲の楽譜渡すわ、ほれっ！慎弥」スツ……

慎弥「楽譜見るのが怖い…（汗）」

圭吾「ほいつ、修一」スッ…

修一「ん…」

圭吾「奈々には明日渡すとして…ほいつ、結花」スッ…

結花「…ありがとうございます…」

慎弥「…（汗）」↑恐る恐る開いてる

慎弥「…っ！！（汗）なんだこれ…複雑過ぎる…（汗）」

修一「…成る程…」

結花「……」ジーツ…

結花（…私あんまりアルペジオ得意じゃないんだよねあゝ（汗）…
…）

唯「結花ちゃん見せて〜♪」

結花「…あつ、はい……どうぞ……」スッ…

唯「どれどれ？……ふむふむ……」

梓（…唯先輩が自ら楽譜を読んでる…！！）

唯「…よくわかんないやあ〜♪」エヘッ♪

梓「…っ！！（汗）」ズルッ！

慎弥「また徹夜で覚えないと…（汗）」

滯「…そんなに難しいのか？」

慎弥「見て見なよ（汗）」スッ…

滯「………なんだこれは……（汗）」

慎弥「そうなるだろ？（汗）こんな普通弾けないって…！！（汗）」
「ブーブー！」

律「ブーブー言ってるなあ〜（汗）………」

ヴー、ヴー…

律「ん？…奈々からだ……」スッ…

漑「奈々？」

律「なんだろ……もしもし？」ピッ！

奈々『あっ！りっちゃん？今どこにいるの？』

律「どこって……修一の家にみんないるんだけど……？」

奈々『今から私も行っていい？』

律「来るって……（汗）お前修一の家知ってるのか？（汗）」

奈々『知らない♪』

律「っておいっ！！（汗）」

修一「誰と話してるんだ律？」

律「奈々……（汗）今からそっちに行ってもいいかだって（汗）」

慎弥「アイツ修一の家絶対知らないだろ（汗）」

修一「…ちよつと電話貸して…」

律「ああ…（汗）」スッ…

修一「…もしもし奈々？」

奈々『あつ！修一くん！今から修一くんの家に行ってもいい？』

修一（…声デケえよ（汗））

修一「…別にいいけど……お前俺家知らないんだろ？（汗）どうやって来るんだ？（汗）」

奈々『住所教えてくれたらすぐにも行くよ♪』

修一「…（汗）わかった……じゃあ言うぞ？……〇〇町一丁目の〇〇番地」

奈々『ふむふむ……じゃ今からそっちに向かうね♪』ブツンッ！

修一「…!!」（汗）」

律「さっき住所教えてたけど……」（汗）」

慎弥「アイツの事だから……多分道に迷うな……確実に……」（汗）」

圭吾「それにアイツ方向音痴だしな……」（汗）」

梓「…なっ、なんか少し不安になってきました……」（汗）」

……しばらくして……

ピンポーン♪

律「…? もう来たのか? 奈々の奴……」

滯「いくら何でも早過ぎないか?」（汗）」

修一「…(汗)」スッ…

修一「……」ガチャ…

奈々「お久しぶりです！」ビシッ！

修一「数時間前まで一緒だっただろうが(汗)」

奈々「えへへ……そうだねえ♪」

修一「…しかしまあ……よく道に迷わずこれたな……方向音痴のお前が……(汗)」

奈々「実は(汗)……」チラッ…

修一「ん？」

哲哉「よっ！久しぶりだね！」

修一「…ええっ！……！！……？……？……(汗)ちよっ……！！……？……(汗)なんで哲哉さんが……！！……？……(汗)」

奈々「実はお兄ちゃんの車で来ました(汗)」

修一「まっ、まさか哲哉さんまで一緒だったとは……(汗)」

哲哉「ビックリし過ぎだよ（汗）」ハハハ…

修一「突然だったもんでつい…（汗）とっ、とにかく中へどうぞ！
（汗）」アセアセ…

………

律「…修一の奴遅くないか？」

漣「…確かにそうだな……」

唯「…まっ、まさか泥棒だったりして…（汗）」

梓「それは流石にあり得ないかと…（汗）」

紬「…でもホント遅いわねえ……」

圭吾「いざとなったら俺と結花がいるから大丈夫だよ」

慎弥「あの…俺じゃなくてなんで結花なんだ？（汗）」

結花「……」ジャカジャカ…♪

ガチャ…

奈々「みんなお久しぶり♪」

唯「奈々ちゃんお久しぶり♪」ダキッ!

律「な〜にがお久しぶりだよ(汗)」

奈々「あははは…(汗)」

滯「…でもかなり来るのが早かったな奈々…」

奈々「実はね〜!」

ガチャ…

哲哉「もう入ってもいいかい?(汗)」ヌツ…

律・滯・梓・紬・圭・慎・結「……えええええええ〜!?!?!?!?!?」
?? (汗)「ガビーン!」

修一「…やっぱそうなるよなみんな(汗)」

唯「…？」↑実は哲哉の凄さをよく知らない

律「なっ、なんで…！！？」（汗）」

滯「…すっ、凄い…！！…また間近で哲哉さんに会えるなんて…！！！！」↑大興奮

慎弥「……っ！！！！」（汗）」↑啞然

結花「なっ、なんで哲哉さんが…！！！！…？」ガタガタ…

圭吾「まさかまた会えるとは思ってもいなかった…」

紬「握手して下さい♪」

律「…でお前は何をしている！！」（汗）」ビシッ！

結花「…あっ、あの…！！…サインして下さいっ！！！！」（汗）」

哲哉「いいよ？それで何にサインすればいいのかな？」

結花「じゃっ、じゃあコレにサインをお願いしますっ！！！！」↑何かが書かれた可愛い手帳

哲哉「……はいっ、どうぞ！」スッ…

結花「…／＼／＼……ありがとうございます……！！！！／＼／＼あっ、あと
来年の世界ツアー頑張って下さい……！！！！／＼／＼」

哲哉「ありがとうね」

紬「結花ちゃん物凄い嬉しそうねえ……」フッフ…

梓「そうですね……！」

律「濡もサイン貰っておけば？」

濡「…うっ、うん……でも恥ずかしい……／＼／＼」

律「こーゆーチャンスは二度とないんだからさ……！！行って来なよ
っ……！！」ドンッ！

濡「わっ……！とっと……！！！」

哲哉「……！！大丈夫？（汗）」スッ…

濡「……あっ、はいすみま………っ……！！！！／＼／＼」カー…

哲哉「…ホントに大丈夫？（汗）」

漣「…っ！！！！／／／」ボンッ！

哲哉「えっ…！！ちょっと…！！（汗）」ガシッ！

唯「漣ちゃんがタコみたいに顔が真っ赤に…。」

律「ちよっとやり過ぎたか（汗）」

梓「何言ってるんですか！！（汗）漣先輩！？（汗）大丈夫ですか！！？（汗）」ユサユサ…

漣「……」ポーッ…

圭吾「ダメだこりゃ（汗）」

慎弥（…しかしあれだな……哲哉さんはやっぱりオーラが違うな……）

奈々「慎弥くん何してるの？」ヌッ…

慎弥「…どあぁっ！！！」（汗）……なんだ奈々か……脅かさせるなよ…（汗）」「ドキドキ…」

哲哉「…慎弥くん君凄いの使ってるねえ…」

慎弥「…あっ、これですか？これは親父から譲ってもらった6弦ベースなんですよ」

哲哉「ちよっと貸してくれる？」

慎弥「あっ、はいどうぞ…（汗）」スッ…

哲哉「…6弦は久々だな…」スッ…

哲哉「…♪」ポロポロポロン…♪

慎弥「うっ、上手い…」（汗）」

澪「やっぱりプロは違う…（汗）」

梓「指の動きが凄い滑らか…」（汗）」

圭吾「すげえ…」（汗）」

哲哉「…あつ、ごめんごめん!!」(汗) つい夢中になって弾いてしまったよ……はいっ、ありがとう!」スッ…

慎弥「いつ、いえ!!」(汗) とんでもないです!!」(汗)「スッ…

圭吾「…そういえば哲哉さん来年世界ツアーが始まるんですよね? もう準備とかしてるんですか?」

哲哉「まあ一応ね……各会場のデザインとか演出とかも俺達でしてるから何かと大変だよ……あとその国の言葉でMCとかしないといけないし……」

滯「…世界ツアーともなるとその国の言葉も勉強しなくちゃいけないですね…」

律「やっぱ人気ロックバンドは大変だなあ…」

圭吾「…あつ、そうだ……奈々、ほれっ」スッ…

奈々「…これは?」

圭吾「新曲の楽譜だよ……一ヶ月でマスターしろよ?」

奈々「いつ、一ヶ月っ!!? (汗)」ガビーン!

哲哉「…今どきの高校生は凄いなあ…自分達で曲作るんだ…」

慎弥「いや、俺達はオリジナルとコピーでやってるんで100%オリジナルではないんですよ」

哲哉「でも凄いよ!俺が高校の時は大体みんな憧れのバンドのコピーバンドばかりだったからオリジナルでのバンドはあまりいなかったよ」

梓「そうなんだ…」

奈々「ねえお兄ちゃん、一回私達の演奏を見てよ!」

哲哉「ん…ホントはあまりしたくないんだが…いいよ?」

奈々「ありがと〜お兄ちゃん♪」ガバツ!

哲哉「こっ、こら奈々!! (汗)／／／アセアセ…」

結花（…いいなあゝ奈々先輩……）

………

圭吾「じゃあ律達がさきな」

律「なんか…緊張するな（汗）」

漣「…よしっ！」グッ…

紬「いつものように楽しくしましょ♪」

梓「はい！」

唯「お〜♪」

律「じゃ〜ふわふわな！…ワンツー！」カンカンッ！

唯「…♪」ジャカジャカ♪

哲哉「……」↑真剣な眼差しで見てる

圭吾（…あんな目してる哲哉さんテレビでも見たことねえからちよ
っと怖え〜よ（汗））

ジャーン…♪

律「…どっ、どうでしたか!!? (汗)」

漣「……」ゴクリ…

唯「……」ゴクリ…

紬「……」ゴクリ…

梓「……」ゴクリ…

哲哉「…うん、凄く良かったよ?」

律・唯・漣・紬・梓「やったあ!!!♪」

哲哉「まあ改善するところはちよつとあるかな?」

漣「えっ…!?!? (汗) どこですか!?!? (汗)」

哲哉「ちよつとみんなリズムが走り気味かなって思ったぐらいであとはホントに凄く良かったよ! 歌詞も女の子らしくて良かったし!」

漣「どっ、どうも…／／／」カー…

律「良かったじゃん滞〜♪」

滞「うつ、うるさいっ！／＼／＼」ゴンッ！

律「いてっ！！（汗）」

圭吾「次は俺達か……（汗）」ドキドキ…

慎弥「いつもとは違う緊張感だな……（汗）」

修一「…準備はいいか？」

結花「…はい」コクッ…

奈々「いいよ〜♪」

修一「……」チャンチャンチャン…♪

奈々「……」…ポロン♪ポロポロポロン…♪

修一「……！」「ダンドンドンダダタン…！」

慎弥「……」ヴォーン♪

圭吾「…季節はあゝ変わりゆくぅ♪…」

結花「……」ジャカジャカ♪

哲哉「……」ジーツ…

律「…（汗）」チラッ…

滯「…どうしたんだ律？さっきから落ち着きがないぞ？」

律「いやなんでも……（汗）」

滯「……？」

ジャン…♪

修一「…はあゝ……」ヨッコラセ…

慎弥「ふう…」スツ…

結花「……」スツ…

圭吾「…（汗）哲哉さん……どうでしたか？（汗）」

哲哉「…うん、良かったと思うよ」

奈々「やったあ〜♪」↑慎弥に抱きついてる

慎弥「…っ！！（汗）／／／」

唯「おお〜…」

紬「いいわねえ〜…／／／」キラキラ…

哲哉「改善点は…慎弥くんと…えっと…君名前なんて言うのかな？」

結花「おっ、大田結花と言いますっ！！（汗）」

哲哉「…君たちは演奏中指を見すぎかな…客の方もしっかり見ないと」

慎弥「はっ、はい！」

結花「参考になりますっ！！／／／」

哲哉「…そんじゃ俺はそろそろ帰るかな…明日東京に行かなきゃならないから朝早いし…」

圭吾「東京って事はテレビ関係ですか？」

哲哉「うん、明日〇ステに出るんだ、俺達ジキルは」

律「まっ、まじか…（汗）」

漣「あの音楽番組に…（汗）」

慎弥「俺絶対見ます!!」

結花「私も絶対見ます!!」

梓「大田さんがいつもの大田さんらしくない…（汗）」

哲哉「奈々、お前は残るのか？」

奈々「うん!」

哲哉「じゃあコレ帰りの電車賃な」スツ…

奈々「ありがとう♪」

哲哉「じゃあみんな、またね！」

律・唯・漣・紬・梓・圭・慎・修・結「ありがとうございました！」

ボタン…！

律「…やっぱり奈々のお兄さんは凄いよなあ…」

漣「今日間近で哲哉さんと会話が出来るなんて夢にも思っていなかったな…」

唯「…そーいや哲哉さんって何歳なの？」

奈々「29歳だよ！」

律「私達と11歳離れているのか…」

圭吾「…慎弥お前なにやってんだ？」

慎弥「…俺ベース弾いてる時どんな感じだ？」

圭吾「んゝ……馬鹿みたい」

慎弥「…っ!! (汗)」ズルッ!

修一「…なあ圭吾」チョンチョン…

圭吾「どうした?」

修一「コレ見てみろよ…」スッ…

圭吾「んゝ? ……8月3日〇〇広場で夏祭り……コレがどうした?」

修一「下読んでみ」

圭吾「……なお、メインステージにてバンド合戦を開催致します…
出演料は一組1000円……安っす!! (汗)」

修一「…こっちの方が良くないか? ライブハウスは高いし……」

圭吾「…そうだな……その方がいいかもな……」

慎弥「俺はどっちでもいいぞ?!? ライブに出れるんなら何だっていい」

圭吾「律達はどうする？こっちにするか？」

律「うゝん……まあそっちの方が安くつくし……濡は？」

濡「私も夏祭りの方が……ライブハウスはなんか少し怖いイメージが……（汗）」

律「どんなイメージだ（汗）」

唯「私も夏祭りがいい♪金魚すくいとか出来るしかき氷とか焼きとうもろこしとか食べれるもん♪」

律「お前の目的はそっちかい！！（汗）」ビシッ！

紬「私は焼きそばっ！！焼きそばが食べたいっ！！」ハイッ！

律「ってお前もかいっ！！（汗）」ガビーン！

梓「…（汗）」

奈々「ねえねえ？ライブって？」

結花「期末テスト明けに本当はライブハウスでライブをするはずだったんです…」

奈々「…期末テスト？」

圭吾「ここにも馬鹿が一人…（汗）」

慎弥「てかライブのことより期末テストに気がいってるな（汗）」

圭吾「…よしっ！じゃあ俺が役所に電話して申し込んでおくわ」

滯「すまないな圭吾…」

律「じゃ～もう一回するぞ～！」

唯・紬・奈「お～っ♪」

……………

～～～数日後～～～

～～～音楽準備室～～～

圭吾「順番は律達がこの親父バンドの人達の次で俺達が一番最後って感じになった」

律「一番最後ってそりゃまた凄い順番だなあ～圭吾達は（汗）」

さわ子「……………！！今夏祭りにピッタリな衣装が浮かんできたわ！！」

ちょっと被服室に行ってくるわっ!!!!」ダッ!

バタンツ!!

律・唯・漕・紬・梓・圭・慎・修・奈・結「……(汗)」

慎弥「凄い張り切ってたな…(汗)」

結花「…あの…衣装って?(汗)」

唯「それはお楽しみ♪」

結花「…はっ、はぁ……(汗)」

圭吾「……(汗) まあその話は置いて……持ち時間ってか曲数は大体3曲ぐらいだとさ」

律「3曲か……大分曲数を減らさないとな」

圭吾「俺達も曲順を変えないと…」

唯「そーいえば圭吾くん達のバンド名ってまだ決まってるよね?」

慎弥「そーいやそうだな」

修一「何にするんだ？ バンド名」

奈々「片山圭吾と愉快的仲間達は？」

圭・慎・修「ふざけんな！！」
(怒)

奈々「ひっ！！？」
(泣)

結花「……」
(汗)

}
f
i
n
{

#11 バンド名!! (前書き)

更新です (^^) v

#11 バンド名!!

…期末テストも無事終わり、律達は夏祭りのライブに向けて練習をしていた…

〃〃音楽準備室〃〃

律「あつついゝ……(汗)」グタァゝ…

梓「蒸し暑いですねゝ……(汗)」パタパタ…

奈々「あゝづいゝ……溶けるゝ……(汗)」グタァゝ…

滯「北国育ちの奈々にはちよつとキツイかもな……にしてもホント今日は暑いな…(汗)」パタパタ…

奈々「ちよつとどころじゃないよおゝ……(汗)」チーン…

慎弥「……(汗)」ベン…♪ベンベン…♪

修一「…あつつゝ…(汗)」こんな日にドラムなんて叩けるかよゝ…
…(汗)」タカタカタカ♪

圭吾「……てか慎弥お前さっきから何してんの？」

慎弥「……前言った○○のバンドがやる曲を練習してんだよ……てか話し掛けないでくれ……(汗)……暑さで譜面を読み間違えそうだ……(汗)」ベン……♪ベン……♪

圭吾「汗だくだなおい(汗)」

結花「……暑い……(汗)……」ジャラーン……♪

紬「……でも……もう完全に夏の暑さねえ……(汗)」パタパタ……

唯「あちい……(汗)」グタァ……

梓「唯先輩、お水ですよ」スッ……

唯「っ!! ありがとゝあずにゃん♪」ダキッ!

梓「っ!! (汗)」

唯「あずにゃあ……(汗)」スリスリ……

梓「……(汗)」

唯「……(汗)」

唯「……あつい……(汗)」

漣「なら止めろよ(汗)」

.....

漣「…髪が長いと首が蒸れるなあ…(汗)」スツ…

梓「こればかりはしょうがないですねえ…」

律「いっそのこと髪結んじゃえば？」

梓「あつ、それいいかもです！」

.....

律「よしっ、出来たっ！」

紬「漣ちゃん梓ちゃんみたい♪」

律「…(汗)…うんっ！(汗)やっぱ似合わないr y」

漣「お前がやったんだろ…(怒)」ギユッ！

律「そっ、そうでした…(汗)」ウググ…

慎弥「ふう…一旦休憩…」コトン…

圭吾「…○○のバンドでは修一から貰ったそのベースを使うのか？」

慎弥「ん？…まあ一応な…」

ゴクゴク…

律「慎弥が4弦はなんか似合わないなあ…（汗）5弦のイメージが強いから…（汗）」

慎弥「でも4弦も良いって事に気付いたな…5弦と比べて軽いし……」

修一「…でもまあそのベース大切に扱ってくれよな？」

慎弥「それはわかってるよ…」ゴクゴク…

奈々「……（汗）」ポーッ…

律「…奈々お前ホントに大丈夫か？（汗）顔色悪いぞ？」

奈々「…なんか……頭がフラフラしてきた……」

慎弥「奈々、とりあえずコレ飲め…スポーツドリンク飲んだら大分違うぞ？」

奈々「そんな……悪いよぉ……（汗）」

滯「飲んでおきなよ奈々？水分補給しないと大変な事になるぞ？」

梓「そうですよ？水分補給を怠ったりすると熱中症になって最悪の場合死に至る事があるんですよ？」

奈々「…えっ！？（汗）そうなの！？（汗）死んじゃうの！？（泣）
」ウルウル…

律「いやいや（汗）重く受け止めるなよ（汗）」

……………

律「…でも今日はホント暑いなぁ……（汗）」パタパタ…

梓「今日の最高気温は35度らしいですからねぇ……」

紬「風さえ吹いてくれないかしらねぇ……（汗）」パタパタ…

梓「…でもこれだけ暑かったら痩せれそうですね」

漉・紬「……」

……数分後……

紬「サウナスーツ♪」ジャーン！

漉「これでバッチリだな！！」キリッ！

唯「なんとっ！」

律「また…（汗）」

漉「……」コクン…

紬「……」コクン…

♪ ↑もの凄い汚い音

漉「……汗はかくけど…（汗）」

紬「上手く弾けない…（汗）」

律「……（汗）」

圭吾「……修一……お前前言ってた亀はどうしたんだ？」グタ
ア…

修一「…あゝ…………いつも持ってこようとは思ってんだけどすぐ忘れるんだよなあゝ…………」グタァ…………

梓「こっちはこっちでまた…………（汗）」

結花「…………（汗）」チャラン…………♪チャラン…………♪

慎弥「結花お前も少しは休憩しろよ？」

結花「…大丈夫です…………（汗）」チャラン…………♪

慎弥「凄い根性だな（汗）このクソ暑いのに（汗）」

圭吾「…………そうだ…………いい加減俺達のバンド名考えないと…………」ゴロン…………

律「まだ決めてなかったのか…………（汗）」

修一「…ぶっちゃけ俺は名前なんてどーでもいい…………ドラムさえ叩けたらそれで充分だ…………」

滯「適当だなオイ（汗）」

慎弥「お前らなあゝ……（汗）もうちょい真面目にやれよなあゝ（汗）」

圭吾「じゃあ慎弥お前が名前決めろよおゝ……」ゴロン…

慎弥「あのならゝ（汗）」

修一「…てかこの際だしリーダーも決めておかないかゝ？」グタァゝ…

圭吾「もう慎弥でいいんじゃない？…」ゴロン…

慎弥「いい加減にしろ（怒）」

……………

圭吾「…じゃあ第25回ゝ、自分たちのバンド名決めるぞ大会ゝ」

修一「わゝい…」パチパチ…

奈々「やるぞおゝ♪」

慎弥「第25回ってなんだよ（汗）しかもなんだよその大会（汗）」

結花「…（汗）」

圭吾「それじゃさっさと決めるぞ」

奈々「はいはい♪私は片山圭吾と愉快的仲間ry」

結花「……宝井先輩は少し黙ってて下さい（汗）」グググ…

奈々「ふがふがあゝ!!」（汗）」モゴモゴ…!

律・唯・滯・紬・梓・圭・慎・修「……（汗）」

圭吾「…（汗）…お前らはどうだ？なんかあるか？」

修一「…なーんも思いつかねえ…」

慎弥「…うゝん……」

結花「…ちよっと思いつかないです……（汗）」グググ…

奈々「@☆○¥\$%♂〜!!!!!!」パンパンパン!

律「結花結花!! (汗) 早く手放してやれ!! (汗)」

結花「…っ!! すっ、すみませんっ!! (汗)」パツ…

奈々「…えゝほっ!! えゝほっ!! ……しっ、死ぬかと思った…

(汗)」ハアハア…

唯「結花ちゃん怖いよ… (汗)」

圭吾「…もゝめんどくせえから明日までに各自バンド名考えて来いよゝ?」グタァ…

修一「めんどくさあゝ……」グタァ…

律「ダメだなこりゃ (汗)」

結花「…宝井先輩? 真面目にバンド名考えて来て下さいよ? (汗)」

奈々「私はいつも大真面目だよゝ! (泣)」

澤「どこがだ(汗)」

慎弥「…(汗)今日はこの2人は全くダメだな(汗)」ハア…

圭吾「あっつゝ……(汗)」グタァゝ…

修一「…死ぬうゝ……(汗)」グタァゝ…

………

ゝゝゝ修一宅ゝゝゝ

修一「…バンド名バンド名……何かいいのあるかなあゝ……」ウー
ン…

修一「…ダメだ……思いつかない……(汗)」ボタン…

修一「…一眠りしてまた考えよ……」

～～～慎弥宅～～～

慎弥「…うゝん…」↑昼飯食いながら考えてる

愛美「ちよつとお兄ちゃん？お行儀が悪いよ？」モグモグ…

慎弥「……なかなかいいのが思いつかないなあ……圭吾の奴も無茶を言うよまったく…」（汗）「ハア…

～～～奈々宅～～～

奈々「むう…」

哲哉「どうしたんだ奈々？さっきから難しい顔して…」

奈々「うゝん……ダメだあ……こーゆーの私が考えるの無理だよ
お…」（汗）「チーン…

哲哉「まあ…（汗）なんか頑張ってるそうだな…（汗）それより
昼飯出来たぞ？」

奈々「っ！！！」ガバッ！

哲哉「……（汗）」

〵〵〵結花宅〵〵〵

結花「……」ボーツ：

結花「…バンド名…か……」ハア…

結花「…今まではあまり意識してなかったけど……いざ考えるとかなり悩むなあ……」ハア……

結花「…気分転換に本屋に行こ…」スツ…

〵〵〵圭吾宅〵〵〵

圭吾「……あっちい……なんでこんな時にクーラーぶっ壊れてんだよ（怒）……」グタァ……

圭吾「扇風機じゃ涼しくなんね……」グタァ……

ヴー、ヴー……

圭吾「……」スッ……

圭吾「……早希か……なんだろ……」ピッ！

圭吾「……もしもし？」

早希『あつ、圭吾く？悪いんだけどあたしの部屋に大事な書類があるんだけどそれ今から持ってきてくれないく？』

圭吾「……あのなあ……（汗）大事な書類なら忘れるなよ（汗）……わかったよ……持っていてやるよ……」

早希『ありがとう圭吾く♪じゃーいそいでねえー♪』ブツンッ！！

圭吾「……！（汗）」

圭吾「……はあ……（汗）」ヨッコラセ……

~~~~早希の部屋~~~~



圭吾「…えつと…あつ、あつたあつた…」スツ…

ミー太「みゃ…」トコトコ…

圭吾「…お前よくこんなクソ暑い部屋にいられるなあ」（汗）……」

ミー太「？」

圭吾「…さて……ボチボチ行くとするか……」

……

……某美容室……

圭吾「…こんにちは…」ガチャ…

店員「あら圭吾くん！いらっしやい！」

圭吾「どうも……ウチの姉はどこにいます？（汗）」

店員「早希ちゃん今は休憩中だから多分事務室にいると思うけど……」

圭吾「わかりました、じゃちょっとお邪魔します……」

店員「はいはい♪」

……

～～～事務室～～～

コンコン……！

早希「はぁ～い！」

圭吾「持ってきたぞ？（汗）」ガチャ……

早希「おっ♪サンキュー♪」

圭吾「大事なモンなら忘れるなよ（汗）」

早希「今朝バタバタしてたから忘れちゃって……（汗）」アハハ……

圭吾「……（汗）じゃ俺は帰るぞ……」スッ……

早希「ちょっと待って圭吾！」ガサゴソ……

圭吾「なんだよ（汗）」

早希「ほいっ！ご褒美♪」↑1000円札

圭吾「あ……ありがとう……（汗）」

早希「寄り道しないで真っ直ぐ帰りなよぉ！」

圭吾「……（汗）」

……

圭吾「……そーいや今日はギターマガジンの発売日だったな……」

~~~~~本屋~~~~~

圭吾「……」

圭吾「……おっ……あったあった……」 スッ……

結花「……」 ペラ……ペラ……

結花「……ふう……」 パタン……

結花（……ダメだ……いいのと思いつかないなあ……）

結花（……あっ……片山先輩……）

圭吾（……げっ！（汗）……75万もすんのかよこのギター……（汗も……）

結花「……片山先輩？」

圭吾「……ん？なんだ、結花もいたのか」

結花「…はい……本で何かいい名前がないか調べてたんですよ……」

圭吾「へえ……」

結花「…片山先輩は何を……?」

圭吾「俺は特に何にも……」

結花「…あつ、そうだ……一応候補を書いておいたんですけど……」
スッ……

圭吾「……?」

結花「…全部フランス語なんですけど……どうですか?」

圭吾「……このCLAIRCELクレールシエルってのなんか響きがいいな……
これはなんて意味なんだ?」

結花「明るい空って意味です」

圭吾「…いいなこれ……」

結花「…そつ、そうですか?／／／」

圭吾「結花はこれで決まりだな……あとはあいつらだけど……あてにしないでおう……（汗）」

……

……次の日……

圭吾「…と言うわけでバンド名はCLAIR CIELに決定」

結花「…どっ、どうもです／＼」

慎・修・奈「……」↑落ち込んでる

律「圧倒的な差だな（汗）」

澪「でも結花は凄いよ…」

紬「フランス語ってなんかオシャレよねえ♪」

唯「凄いよ結花ちゃん♪」ダキッ！

結花「…っ！／＼」

律「でもまあ…無事に決まって良かったな…」

圭吾「ああ…」

律「…んであいつらはまだ落ち込んでるのか？（汗）」

滯「必死で考えたバンド名を即座に却下されてたからな…（汗）」

さわ子「みんないるわねえ…!?」ガチャ！

梓「どっ、どうしたんですか…!?」（汗）その目の下のクマ…！（汗）」

さわ子「毎日睡眠時間を削ってまで衣装を作ってたの！（汗）」

律「無茶しすぎだろ（汗）」

さわ子「見て…！私の自信作よ…！」バツ！

律「すっ、すげえ!!! (汗) 天才かさわちゃん!!!? (汗)」

唯「すごいさわちゃん♪」

さわ子「もっと褒めて〜!!」

結花「…あの……これは? (汗)」

梓「さわこ先生お手製の衣装だよ (汗)」

奈々「わっ♪凄い可愛い♪」

梓「…って奈々先輩いつの間に… (汗)」

紬「…どうしたの澪ちゃん? 着ないの?」

澪「えっ……ああ……うん…… (汗) 私は後で…… (汗)」 ↑ 恥ずかしくて着られない

圭吾「凄いな…浴衣をあんなにアレンジするとは…… (汗)」

慎弥「器用だな（汗）」

修一「けど恋愛は不器用」

さわ子「最後のは余計よぉー！！（泣）うわぁぁん！！（泣）」

律「修一ゝゝ（汗）」

圭吾「けど事実だろ？」

さわ子「うわぁぁん！！！！（泣）」

滯「とどめ刺してどーする（汗）」

さわ子「…まっ、まあとにかくそれはおいといて（汗）……あなた達もあるわよー！！ほらっ！！」バツ！

圭吾「……」

慎弥「おぉー……」

修一「…すげえ…」

さわ子「あなた達のイメージに合わせてみたわ！」

律「ちなみにこの衣装は誰用？」

さわ子「これは慎弥くん用の衣装よ！」

慎弥「えっ！？これ俺の！？」

さわ子「そしてこれが修一くん用ね、あなたはドラムだから動きやすいように作ってあるわ」スツ…

修一「…おお…」

さわ子「そして最後は圭吾くん…あなたのには少し時間が掛かったけど最高の出来よ！♪」スツ…

圭吾「……まあいいんじゃないんですか？」

さわ子「つてもうちよつと褒めてもいいじゃない〜！（汗）」

律「あつ、そうそう！圭吾達のバンド名がやっと決まったよさわちゃん？」

さわ子「そうなの？なんて言うバンド名？」

唯「CLAIR CIELだってえ〜♪」

さわ子「クレ……何？（汗）」

圭吾「クレールシエル！（汗）結花が考えたんだよ先生」

さわ子「凄いじゃない結花ちゃん！」

結花「…いえ／＼／偶々ですよ…／＼／エヘヘ…」

奈々「結花ちゃんったら照れちゃって〜♪可愛いなあ〜もう〜♪」
スリスリ…

唯「ずるーい！私も〜♪」スリスリ…

結花「…あの…／／／」

梓「何やってるんですか2人とも！（汗）」

唯「あずにゃんにもしてあげるよ♪」スリスリ…

梓「だからなんでそうなるのお〜！（汗）」

慎弥「…着てみたけど……どうだ？」

律「おお！！かっこいいぞ！！」

紬「その格好でベース持ってみて慎弥くん♪」

慎弥「あ〜……うん……よっ……どうだ？」

律・紬「おお〜！！」

慎弥「…でもちょっと裾が邪魔だな…（汗）本番の時は捲ってやるしかないな……」

修一「俺はどうだ!？」バーン!

律「…近所にいそうな悪ガキって感じだな(汗)」

修一「おいっ!(汗)」

滯「近所と言うより昭和だな」

修一「そこっ!!(汗)昭和は余計だ!!(汗)」ビシッ!

律「圭吾も着て見せてくれよ」

圭吾「めんどくせえよ(汗)てかどこで着替えんだよまず(汗)」

慎弥「俺らはトイレで着替えてきたぞ?」

修一「圭吾も一回着てみなよ」

圭吾「……(汗)わかったよ……着替えてくる……」スッ:

……数分後……

圭吾「着替えたぞ」（汗）」ガチャ…

律・唯・滯・紬・梓・慎・修・奈・結・さわ「おお！！！」

圭吾「もういいか？（汗）」

さわ子「やっぱり私の目に狂いはなかったわ！！」

律「そのままモデルデビューしたらいいんじゃないか？」

圭吾「なんでだよ（汗）」

梓「かっこいい…／／／」

慎弥「よく似合ってるじゃん」

修一「…お前はいいよな…：俺なんか近所にいそうな悪ガキとか昭和の子供とか言われたんだぞ…」（汗）」

さわ子「本番はいつだったかしら？」

澪「来週の土曜日です」

律「よし！本番に向けて練習するぞー！」

唯・紬・奈々「おー！♪」

）
f
i
n
（

#12 夏祭り!! (前書き)

内容はかなり自分の趣味と言うかなんと言うか… (汗)

とりあえずどうぞ (; ^ | ^ A

#12 夏祭り!!

圭吾「…よしっ……曲はこれでいいな？」

慎弥「ああ」

修一「うん」

奈々「オツケー♪」

結花「…はい」

〽CLAIRCEIL、曲順表〽

1、浜辺

2、READY STEADY GO

3、STAY AWAY

……………

圭吾「律達も決まったか？」

律「一応な」

「放課後ティータイム、曲順表」

1、ふわふわタイム

2、カレーのちライス

3、ぴゅあぴゅあはーと

.....

律「いよいよ明日かあ……！」ワクワク……

慎弥「さてと……俺は少し早めにあがらせてもらおうわ」ガタッ……

圭吾「おお、そーいえばお前掛け持ちだったな」

修一「忘れるなよ（汗）」

慎弥「明日はハードスケジュールだよ」

律「な〜にがハードスケジュールだよ（汗）」

慎弥「じゃまた明日なあ」

ガチャン…

律「じゃ練習するかあ？」グググ…

唯「うゝん…暑いからもうちよつとこのまま…」グタァ…

滯「おい(汗)」

修一「……」ダンドンダンバァン！♪

圭吾「……」ジャーンジャカジャカジャカ…！♪

結花「…あの…片山先輩、ここはこれでもいいですか？」ジャーン♪

圭吾「そこは…こうだな」ジャラーン♪

奈々「ふんふゝん♪」ポロンポロン…♪

梓「…奈々先輩今日は凄く機嫌がいいですね？何か良いことでもあったんですか？」

奈々「ん〜？今日コンビニで買ったアイスが当たりだったんだ〜♪」

梓「へっ、へえ〜……（汗）」

………

〜〜〜次の日〜〜〜

〜〜会場〜〜

圭吾「お〜……結構集まってるなあ〜……」

慎弥「てか女子率高いな（汗）」

修一「……」↑腕のストレッチ中

奈々「きっ、緊張してきたよ…（汗）」ドキドキ…

結花「……！」↑ガッチガチに緊張してる

律「あらら…結花の奴ガツチガチになってる…」（汗）」ハハハ…

唯「慎弥くん今日は凄い荷物だねえ…」

慎弥「ん？まあ…これが6弦でこいつがいつも使ってるBar
dicでほんでこれがBUGSY、あとはエフェクターボードぐら
いだな」

漣「慎弥は先に出るんだよな、何番目だ？」

慎弥「トップバッター」

律・漣・梓「とっ、トップバッター！！？」（汗）」ガビーン！

梓「一番最初ならもうステージに行かないとダメじゃないんですか
！！？」（汗）」

慎弥「集合が18時だからまだ大丈夫…」

圭吾「後5分で18時だぞ（汗）」

慎弥「行って来る!!」(汗)「ピューツ…!」

律・唯・滢・紬・梓・圭・修・奈・結「……」(汗)「

圭吾「じゃあとりあえず……見に行くか?」(汗)「

律「そうするか…」(汗)「

……

唯「あっ! 慎弥くんだ〜!」

奈々「慎弥く〜ん♪」

女子A「キャー!! 慎弥く〜ん!!」／／／

女子B「かっこい〜!!」／／／

圭吾「なっ、なんだ!!?」(汗)「

律「この女子が多い理由は慎弥目当てか?」(汗)「

修一「…あいつ（汗）早速ベースにステッカー貼ってる…（汗）」

唯「凄い人気だねえ」

〇〇「一曲目から飛ばして行くぜ…！！！」

慎弥「…」ヴォーン！！！！♪

〇〇「行くぞ…！！！」

ダカダカダカダカダン！！

ワアアアアア…！！！！

律「すっ、すっげえ…（汗）」

澪「凄い迫力…（汗）」

慎弥「…！♪」ベーンベーンベーン…！♪

唯「凄い凄い…♪」

奈々「フアイト〜♪」

圭吾「……慎弥の奴暴走してるな（汗）」

修一「……曲がメタル調だしな……暴走したくなるよそりや（汗）」
ハハハ…

結花「…凄い……！」キラキラ…

……そして、全ての曲が終了し……

〇〇「ありがと〜!!」

慎弥「まったねえ〜♪」

観客「キャー!!
／／／

圭吾「終わったか……」

奈々「慎弥く〜ん♪格好よかったよ〜♪」

修一「…律達もそろそろ準備した方がいいんじゃない？この次の次
だろ？」

律「そうだな、よしっ！いくぞっ！」

滯「こらっ！うるさい！！」（汗）」

結花「…」（汗）」

……………

～～～舞台裏～～～

唯「あずにゃんそっち結んで…」（汗）」グググ…

梓「もう！（汗）何やってるんですか！！」（汗）」グググ…

紬「じゃ～ん♪」

滯「よく似合ってるなムギ」

紬「滯ちゃんも似合ってるわよ～♪」

漣「そっ、そうかな？／＼／＼」

唯「ふう…（汗）」

律「結べたか？（汗）」

唯「なっ、なんとか…（汗）」

梓「全く…固結びなんかしないで下さい！（汗）」

唯「申し訳ありませんでした…（汗）」

係員「すみませ〜ん！そろそろスタンバイお願いしま〜す！！」

律「よしっ！みんな！？円陣組むぞ〜！」

律「…今日は今までの練習の成果をフルに出すぞ〜！！」

律・唯・漣・紬・梓「お〜っ！！！！」

……………

慎弥「ふうく……あつついなあ……」スタスタ…

奈々「お疲れ様〜♪」

修一「良かったぞ慎弥」

圭吾「コーラス格好よかったぞ？」

慎弥「あつ、ありがとうございますうく……（汗）」

圭吾「次は律達か……正直唯が心配だ……（汗）」

修一「俺は律が心配だ（汗）」

奈々「早く始まらないかなあ〜？」ソワソワ…

圭吾「おつ、出てきたぞ？」

律「よいしょっと…」スッ…

滯「……」ボン…ボンボン♪

紬「……」ポロン……♪

梓「……」ジャラーン……♪

唯「…皆さんこんばんは！！私達は桜高軽音部で放課後ティータイムというバンドを組んで活動してます！」

梓「……」コクン…

唯「今日は短い時間ですが、楽しんで帰ってくださいーい！」

パチパチパチパチ……！

唯「それでは聞いて下さい！！ふわふわタイム！！」

律「…ワンツー！」カッカッ！

唯「……♪」ジャカジャカジャカジャンジャカジャン！♪

澪「♪」ヴォーン♪

律「♪」ダカダカダカダカダン！

紬「♪」ポロンポロン♪

梓「♪」ジャカジャカ♪

唯「…君を見てるとハートいつもハートDOKI☆DOKI」♪「ジャカジャカ♪」

唯「揺れる思いはマシユマロみたいにふわ☆ふわ♪」ジャカジャカ♪

慎弥「…唯の奴いい感じだな」

圭吾「そうだな…」

奈々「♪」

修一「…横の奴なんかうっとうしいんですけど…」(汗)「

結花「…」(汗)「

…そして、無事3曲目も終わり……

唯「♪」ジャカジャカジャカジャカジャーン♪

漣「♪」ボンボンボン♪

律「♪」バァーン！ダカダカダカ…！♪

紬「♪」ヒュルルーン♪

梓「♪」ジャーン♪ジャーン♪

律「…♪」ダンッ！

律・唯・漣・紬・梓「…！♪」スッ…

ジャラーン！♪

唯「ありがとう〜！♪」

観客「いいぞお〜！！」

観客「可愛い〜♪」

圭吾「終わった…」

慎弥「無事に終わったな」

修一「……」

奈々「みんなあゝ♪」オーイ♪

結花「…宝井先輩？立ち上がったら他のお客さんに迷惑ですよ？
汗）」

奈々「はい…（汗）」シュン…

圭・慎・修「……（汗）」

律「あっぢいゝ…（汗）」スタスタ…

滯「ふう…（汗）」スタスタ…

唯「楽しかったあゝ♪」スタスタ…

紬「そうねえゝ♪」スタスタ…

梓「凄く楽しかったです!♪」スタスタ…

圭吾「お疲れさん」

慎弥「良かったぞみんな」

律「ふう…ライトの熱が暑いから汗だくだよ…(汗)」

修一「マジで?(汗)」

漣「それじゃ着替えてくるか…」

律「この衣装通気性良くないなあ…(汗)」

圭吾「…だとさ?お二人さん?」

奈々「りっ、りっちゃんそんな事言わないでよお…(汗)」

結花「…(汗)」

律「しょーがないだろう?(汗)ホントの事なんだからさあ(汗)」

唯「りっちゃん?いくよ?」

律「あいよー！…んじゃ着替えてくるわ…」スッ…

圭吾「ああ…」

奈々「うゝ…あの衣装着たくなっちゃった…」（汗）

結花「…仕方ありませんよ…」（汗）

…しばらくして…

律「おまたへ〜♪」

唯「おまたへ〜♪」

圭吾「な〜にがおまたへ〜だよ（汗）てか着替えるのにどんだけ時間掛かってんだよ（汗）」

紬「実は焼きそばを買うのに並んでてそれで時間が掛かったの」

梓「皆さんもどうぞ！」スッ…

圭吾「おっ！マジで！？…でもなんで焼きそば？」（汗）

律「ムギがどーしても焼きそばって言うからさあ〜…」（汗）

紬「あはは…（汗）」

圭吾「成る程（汗）……あつ、そうだ…金払わないとな…いくらだ？」

唯「250円だよぉ！」

圭吾「250円……ほいつ」スッ…

慎弥「ん」スッ…

修一「…」スッ…

奈々「はい♪」スッ…

結花「…」スッ…

律「んじゃー圭吾達の出番まで大分時間があるし、これ食べながら他のバンドを見るか」

滯「そうだな」

…そして…

圭吾「それじゃ～そろそろ行くか？」スッ…

慎弥「行きますか～！」スッ…

修一「やっとか…」スッ…

奈々「頑張るぞ～♪」スッ…

結花「…（汗）」ドキドキ…

律「頑張れよ～！」

唯「頑張ってね～♪」

紬「みんな頑張って～♪」

………

～～～舞台裏～～～

圭吾「よしっ………慎弥、何か一言」

慎弥「何で俺が？（汗）」

圭吾「だってお前がリーダーだから」

慎弥「あの話は冗談じゃなかったのか？（汗）」

圭吾「何言ってるんだよ……お前がリーダーにふさわしいから言ってるだよ」

慎弥「しかしなんでまた（汗）」

修一「リーダー早くしてくれよ」

慎弥「てっ、てめえもか修一！！（汗）」

奈々（圭吾くんリーダーになるのが嫌だから慎弥くんリーダー役を押し付けてるんだ…（汗）…）

慎弥「……（汗）…じゃあ……」スッ…

圭吾「…」スッ…

修一「…」スッ…

奈々「…」スッ…

結花「…」スッ…

慎弥「…………え…………今日は結花を迎えての初めてのライブです…」

圭吾「…」

修一「…」

奈々「…」

結花「…」

慎弥「…そして、CLAIRIELとして初めてのライブです…
…既に盛り上がってると思いますが…………まあ頑張りましょう…………」

圭吾「なんだ最後のは(汗)」

慎弥「やかましい(汗) んじゃ…せーの…!」

圭・慎・修・奈・結「おーっ!」

……………

律「遅いなあ……………」

唯「…………あっ!出てきた!」

圭吾「……………」

慎弥「……」ボン…♪

修一「……」↑腕のストレッチ中

奈々「……」ポロン…♪

結花「……」

圭吾「…皆さんこんばんは…CLAIRCELです」

修一「…!」ダンッ!ダンッ!バァン!

圭吾「僕らは桜高でバンドを組んで活動しています…メンバーそれぞれ個性があって楽しく活動しています…」

圭吾「まずはメンバー紹介から…僕はボーカル兼ギター担当の圭吾です」

観客「圭吾く〜ん♪こっち向いて〜♪」

律「相変わらず圭吾は人気だなあ…」（汗）」

梓「なんか複雑です…（汗）」

慎弥「ベースとコーラスを担当してる慎弥で〜す」

圭吾「彼はこー見えてCLAIRCELのリーダーなんですよ」

慎弥「それはいらねえだろ（汗）」

ハハハハハ……！！

圭吾「まあ彼の紹介はさておき…修一…」スツ…

修一「…ん……え〜……ドラムス担当の修一です……精一杯叩きます……」

圭吾「それだけかよ（汗）」

圭吾「…（汗）…次は……」

奈々「キーボードとコーラスを担当してます奈々でえ〜す♪よろしく〜♪」

圭吾「…うるせえ…（汗）」

律「奈々は相変わらずテンション高いな」（汗）」

澤「まあ…奈々らしいけどな…」

唯「奈々ちゃん頑張れえ〜♪」

圭吾「最後は…」

結花「…ギターとコーラスを担当します結花です……その……よろしく願います！！／＼」ペコリッ！

圭吾「……（汗）…じゃあ（汗）早速一曲目を……」

慎弥「…」スッ…

修一「…」スッ…

奈々「…」スッ…

結花「…」スッ…

圭吾「………」コクン…

修一「…！」チャンチャン…！

結花「…♪」ギューワ～ン…♪

結花「…♪」ポロポロ…♪

修一「…♪」タカタンタカタン…♪

圭吾「…♪」…♪

律「おお～…♪」

漣「優しい感じの曲だな…♪」

慎弥「…♪」ヴォーン…♪ポロンポローン…♪

唯「凄い…」オオ～…♪

紬「…♪」ウツトリ…♪

梓「…やっぱり曲のレベルが高い…」

…そして…

結花「…」ジャラン…♪

圭吾「…ありがとうございました」

パチパチパチパチ…!!

慎弥「よいしょっと…」↑ベースを持ちかえてる

修一「…ふう…」

結花（…上手く弾けた…）

奈々「…バラードは緊張するなあ…」

圭吾「……次は……レディステか……」

慎弥「準備出来たぞ」

修一「…よしっ!」スツ…

圭吾「…それじゃ2曲目行きま〜す」

観客「片山く〜ん♪」

観客「慎弥くんこっち向いて〜♪」

観客「修一く〜ん♪かわい〜♪」

律「かつ、かわいい!!? (汗)」ガビーン!

澪「…(汗)」

圭吾「…Are you…Ready!!!!!!」

修一「…!」チャンチャンチャン!

結花「…♪」ジャカジャカジャカ!…♪

修一「…!♪」ダンダンダン!!

慎弥「♪」ヴォーン♪

圭・慎「…READY STEADY CAN'T HOLD
E BACK♪READY STEADY GIVE ME
OOD LUCK♪READY STEADY NEVER
L G M

OK BACK♪LET'S GET STARTED RE
ADY STEADY GO♪!」

修一「…!」ッダンッダンッダン…!!

結花「…!」ジャカジャカジャカジャカ…♪

奈々「♪」ポンポンポンポロンポロンポロン…♪

慎弥「♪」ベンベンベン!」♪

梓「すっ、凄い迫力ですっ!!」

律「いけえ〜!圭吾〜!!」♪

修一「…!」ダンッ!ダダンダダン!!

圭吾「…吹き飛んでゆく風景〜♪転がるように前へ〜♪」

圭吾「苦し紛れでも〜♪標的はもう見逃さない〜♪」

結花「…!」ジャカジャカジャーン♪

慎弥「♪」ベンベンベン♪

圭吾「あてにならない地図〜♪焼いてしまえば良いさ〜♪」

圭吾「埋もれた真実〜♪この掌でつかみ取ろう♪」グッ！

修一「♪」ダンッ！

慎弥「♪」ヴォーン♪

結花「♪」ジャジャン♪

圭吾「夢中で〜♪」

慎弥「早く〜♪」ベンベン♪

圭吾「駆け〜♪」

慎弥「駆け〜♪」ベンベン♪

圭・慎「抜けて来た〜♪」

圭吾「うるさいくらいに張り裂けそうな鼓動の高鳴り〜♪」

結花「♪」ギュンギュンジャン♪

圭吾「響いて〜♪」

慎弥「呼んで〜♪」ベンベン♪

圭吾「いる〜♪」

慎弥「いる〜♪」ベンベン♪

圭・慎「君の声〜♪」

圭吾「ここで立ち止まるような時間はないさREADY〜!?!?♪」
スッ…

観客「STEADY GO〜!♪」

慎弥「♪」ベンベンベン♪

結花「♪」ジャカジャカジャカーン♪

修一「…♪」ツダンツダンツダン…!♪

…そして、曲も終盤に差し掛かり…

圭吾「心は〜♪」

慎弥「走る〜♪」ベンベンベン♪

圭吾「あの〜♪」

慎弥「あの〜♪」ベンベンベン♪

圭・慎「空の下〜♪」

圭吾「空回りする気持ちが叫び出すのを止められない〜♪」

圭吾「君まで〜♪」

慎弥「届け〜♪」ベンベンベン♪

圭吾「きつと〜♪」

慎弥「きつと〜♪」ベンベンベン♪

圭・慎「後少し〜♪」

圭吾「熱く日差しが照らすこの道の向こうREADY〜♪STEADY GO〜♪」

圭吾「PLEASE〜!?!?」スッ：

観客「TRUST ME〜♪」

結花「♪」ジャカジャカジャカジャカジャーン♪

修一「」ツダンツダンツダン…!!

慎弥「」ヘンベンベン

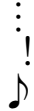
慎弥「」ヴウ〜ン…

修一「」スツ…

結花「」スツ…

奈々「」スツ…

ジャン

修一「」ダカダカダカダカ…!!

慎弥「」ヴォーンヴォーンヴォーン

結花「」ジャンジャンジャン

奈々「」ヒュルル〜ン

圭吾「跳べ〜!!!!ジャンプ!!!!ジャンプ!!!!」

慎弥「♪」ピョンピョン♪

修一「…っ!♪」ダンッ!

律「跳ぶぞ〜♪」ピョーン♪

唯「私も〜♪」ピョーン♪

漚「えっ!?(汗)」

紬「わ〜♪」ピョーン♪

漚(…さっ、流石に梓は跳んでなんか…(汗)…チラッ…

梓「♪」ピョーン♪ピョーン♪

漚「何っ!?(汗)」ガーン!

律「漚も跳べよお〜♪」グイッ!

唯「漚ちゃ〜ん♪」グイッ!

滞「わっ、わかったよ!! (汗) 跳ぶよ!! (恥) //」ピョー
ン♪

圭吾「次で最後になりまゝす!! STAY AWAY!!」

慎弥「…♪」ヴァーン!!!♪

慎弥「…♪」ヴァーンヴァーン!!

慎弥「…イエー!!!」ヴァーン!♪

観客「きゃー♪!!!」

慎弥「…」クルッ…

修一「…」スッ…

修一「…!♪」チャンチャンチャン!

結花「…!♪」ジャン♪ジャン♪ギューン!♪

修一「…!♪」ダカダカダカダカタン!♪

奈々「♪」プワァ〜ン♪

慎弥「♪」ボンボンボン♪

圭吾「∴」スタスタ∴

修一「∴!♪」ダンッ!ダダダダカダダンッ!♪

慎弥「∴」抜け出した大地で〜♪手に入れたのは自由〜♪」ボンボン♪

慎・圭「maybe lucky maybe lucky I
dare say I'm lucky」

慎弥「レールの上に沿って〜♪どこまで行けるかな〜♪」ボンボン♪

慎・圭「maybe lucky maybe lucky I
dare say I'm lucky」

修一「∴!♪」ダンッ!ダダンッ!ダダン!♪

慎弥「焼き増しの世界には惹かれないからあ〜♪君の未来はあっち
♪さあ∴桜ヶ丘〜!〜!」♪」ボンボン♪

観客「きゃー♪!〜!」

結花「♪」ジャカジャカ♪

慎・圭「causes stain stay away」♪

奈々「♪」ポロポロポロン…♪

修一「…!」♪」ッダンッダンッダン…!」♪

慎・圭「causes stain stay away」♪

修一「…!」♪」ダンッ!ダダダダンッ!」♪

結花「…まっさらな太陽は♪」誰にも降り注ぐ♪」ジャカジャカ
…♪

圭・奈「maybe happy maybe happy I
dare say I'm happy」♪

慎弥「♪」ボンボンボン♪

結花「うるさく言わないでねえ♪」沈んでしまうからあ♪」ジャ

カジャカ…♪

圭・奈「maybe happy maybe happy I
dare say I'm happy」♪

律「…結花歌上手いなあ…」

滯「…圭吾はさっきから慎弥にちよっかいを出してるな…」（汗）

唯「♪」ピョンピョン♪

圭吾「♪」↑慎弥にちよっかい出してる

慎弥「…（苦笑）」ボンボンボン♪

結花「絡みつく世界にはうんざりなのさあ」♪影踏みしてないで♪
さぁtrying trying in yourself」♪
ジャカジャカ…♪

結・奈「causes stay away」♪

慎弥「♪」ボンボンボン♪

結・奈「c a u s e s s t a i n s t a y a w a y」

結花「f u ~ ~」ジャカジャカ

結・奈「c a u s e s s t a i n s t a y a w a y」

結花「r i g h t a w a y o h ! B R O T H E R M E !
」ジャーン♪ジャカジャカジャカ

修一「: !」ダカダカダカダカ: ! !

慎弥「」ヴォーン♪ヴォーン♪

奈々「:」ヒュルルン♪

律「: ~ ~ ~ ? ~ ~ ~ なんだ? まだ最後の大サビじゃないのに: ~ ~」

梓「: ~ ~ ~ しまったんだろ: ~ ?」

圭吾「:」スタスタ:

修一「: !」バァン!♪バァン!♪

圭吾「:」バンバンバン!♪

澤「まっ、まさか…（汗）」

修一「…」スッ…

圭吾「よいしょっと…」スッ…

修一「…」スタスタ…

修一「…」スッ…

修一「…いゝくぞゝ…！！！！」ウオオオゝ！！

観客「きゃゝっ！！！！／＼／＼」

圭吾「…！！」チャンチャンダダンッ！！

結花「♪」ジャンジャン！♪

慎弥「♪」ヴォンヴォン！♪

修一「…闇に咲いた花は…！！！」↑デスメタル調

修一「…ふう…」スタスタ…

圭吾「面白かったぞ修一の歌(笑)」スツ…

修一「…うるさい…(汗)」スツ…

修一「…よいしょ…つと…」バァーン！♪ダカダカダカダカ…
♪

修一「…」スツ…

結花「…」コクン…

慎弥「…」コクン…

奈々「…」コクン…

修一「…！♪」チャンチャンチャンチャン！♪

結花「…♪」ジャーン♪ジャーン♪

慎弥「♪」ボーン♪ボーン♪

奈々「♪」ポローン♪ポローン♪

奈々「…生まれながら僕は無法状態さあ」石ころ転がしさあ
trying to try in myself」ポロンポロ
ン

修一「…!」ダダダン! ダダダン!

結花「…」ジャカジャカ

奈・圭「causes stay away」

慎弥「…」ヴウーン! ↑ベースソロ

奈・圭「causes stay away」

慎弥「」ヴヴヴウーン!

奈・圭「causes stay away」

慎弥「」ブヴァーン!

奈・圭「right away」

修一「∴!♪」ダんだン!♪

圭・慎・奈・結「浮かぶ雲のようにい〜♪誰も僕を掴めない〜♪」

圭・慎・奈・結「何もかもを壊し〜♪自由のもとに〜生まれたあ〜♪」

圭吾「fu〜♪∴」

修一「∴!♪」ダんだンバ〜ン!♪

慎弥「♪」ボーン♪ボーン♪

結花「♪」ギュルルル〜∴!♪

奈々「♪」ポローン♪ポロポロ∴♪

圭吾「∴跳べ〜!!」

慎弥「♪」ピョーン♪

結花「アハハ…(汗)」ジャラーン♪ジャラーン♪

奈々「みんなジャンプジャンプ♪」ピヨーン♪

修一「…ハハハ(汗)」バァーン!♪バァーン!♪

圭吾「跳べ〜!!!跳んでくれ〜!!!ジャ〜ンプ!!!!」

慎弥「♪」ボーン♪ボーン♪↑ベース弾きながらジャンプしてる

観客「♪」ピヨーン♪

律「♪」ピヨーン♪

唯「楽し〜ねこれ♪」ピヨーン♪

滯「…♪」ピヨーン♪↑意外と楽しんでる

紬「ジャンプジャンプ♪」ピヨーン♪

梓「♪」ピヨーン♪

修一「…!」ダンッ!!!ダカダンッ!!!♪

慎弥「…」スツ…

奈々「…」スツ…

結花「…」スツ…

圭吾「…」

ジャラ〜ン!♪

圭吾「ありがと〜!」

慎弥「…!」ポイツ!↑ピックを客に向けて投げた

修一「…あつつう〜……(汗)」スツ…

奈々「暑い〜…(汗)」スタスタ…

結花「…」スタスタ…

圭吾「…」スタスタ…

慎弥「…」スタスタ…

慎弥「…」ピタッ…

律「…なんだ？」

漑「…？」

慎弥「…バイバァーイ♪」

律・漑・梓「っ！！」(汗)「ズルッ！

観客「きゃー！！！！／／／／慎弥くうん！！！！／／／／♪」

律「……」(汗)「まあ………慎弥らしくていいんじゃないか？」(汗)「

梓「そっ、そうですね」(汗)「ハハハ…

漑「…でも………演奏はやっぱ凄いやなあ………」

唯「修一くんの歌聞くのって初めてだよね？」

紬「うん…多分…」

澪「……!!」ガタガタ…

律「あ…その話は止めてやってくれ(汗)」

圭吾「ふう…疲れた…」スツ…

律「おっ!お疲れ♪」

唯「お疲れ♪みんな♪」

奈々「あっついよお…(汗)」グタァ…

律「コラコラ(汗)みっともないぞ?(汗)」

結花「…ふう…」スツ…

慎弥「…いつまでその状態なんだお前は?(汗)」

奈々「お構い無く…」グタァ…

修一「…恥ってもんが無いのかお前は…(汗)」

圭吾「…(汗) …ってか滯はどこ行った？」

律「滯なら…(汗)」 チラッ…

圭吾「ん？」 クルッ…

滯「…!!」 ガタガタ…

圭吾「…なんで脅えてんだ？(汗)」

律「まあ…(汗) 理由は後程…(汗)」

慎弥「…でもまあ…無事に終わってよかったよかった…」

結花「…ホントですね…」

圭吾「…てか腹減った…焼き肉食いてえ…」

修一「…そうだ……ウチの親から金もらって来たんだけどなんか食
いに行くか？」

慎・奈「ファミレス！」

修一「…お前ら少し黙っててくれ（汗）」

圭吾「焼き肉」

律「マジか修一…!!じゃあここはパァ〜と行こうぜ〜♪」

滯「お前が言うな!（汗）」ゴチンッ!

律「ってえ〜…!!（泣）」ズキズキ…

圭吾「肉食いたい」

修一「…どうする?焼き肉にするか?（汗）」

唯「お〜に〜くう〜♪」

梓「私は何でも…」

修一「…じゃあ焼き肉にするか…」

滯・紬（……今ダイエット中なのに……（泣）…）

圭吾「…てか慎弥お前その荷物どーすんだ？」

慎弥「一旦家に持って帰るよ、近所だし」

圭吾「…俺もそうするかな…」

修一「じゃあ○○○○って言う焼き肉屋に集合な」

圭吾「はいよ……って待て待て待て……！！（汗）あそこってここら辺で一番高い店じゃねえか！！（汗）」

慎弥「…マジかよ（汗）」

律「すっげえ…（汗）」

滯「…（汗）」

唯「？」

梓「凄い…（汗）超高級焼き肉店って…（汗）」

結花「…あの店って確か一人前でも一万円するって聞いた事があります…（汗）」

奈々「すごい！一人前一万円？」

結花「…噂ですけど」

修一「…まあとにかく、その店に集合な」

圭吾「…あの店か…一度は行ってみたいとは思ってたんだよね…」

慎弥「じゃあ俺先にコレ家に置いてくるわ！じゃあな！」スツ…

圭吾「じゃあ俺も行って来る」スツ…

修一「遅れんなよ」

律「…しかし……私らが行ってもいいもんかね？」（汗）

修一「別に気にするな！食った者勝ちだ！んなモン！」

「いやいや……汗」

修一 「それより俺達も先に行くとするか」

奈々「お肉」♪

滯・紬（……ああ……また太る……（泣）……）ハア……

.....

$$\begin{pmatrix} \text{f} \\ \text{i} \\ \text{n} \end{pmatrix}$$

#13 勉強&P;お泊まり会!! (前書き)

遅くなつてすみません(・・;)

#13 勉強& お泊まり会!!

圭吾「…ここは……デイレイを利かせた方がインパクトがあるな…
…」ジャラーン…♪

慎弥「…あゝっ!! (汗) わかんねえよ!! (汗) グシヤ
グシヤ…!

修一「だからそこは関係代名詞なんだからさ… (汗)」

慎弥「関係代名詞ってなんだよぉ!! (汗)」

修一「… (汗)」

奈々「うーんと……ここは…」カキカキ…

漣「…うん、そうだな…じゃあ次は…」

奈々「ふむふむ…」

紬「…あつ、唯ちゃんそこはそうじゃなくて……」

唯「えっ！？違うの！？」

紬「ここは…」カキカキ…

律「暇だあ…」グタァ…

唯「…うう…：…足が痺れた…：…」モゾモゾ…

律「…！」

律「…チョリ…ン…」チョン…

唯「うぎゃあ…！」（汗）

漣「律…っ！（怒）」ゴンツ！

律「あだっ！！（泣）」ズキズキ…

修一「…よしっ、とりあえず休憩するか…」

慎弥「あゝ疲れた〜……」 バタッ…

圭吾「今のままじゃ大学にも行けやしないぞ」

慎弥「うるせーっ！（汗）てかお前は何で勉強してねえんだよ！」

圭吾「俺は毎日ちゃんと勉強してたからな、分かった？」

慎弥「うっ…（汗）」

修一「圭吾って専門学校だよな？確か美容系の」

圭吾「ああ、一応推薦で行こうかなとは思ってたけど……」

漣「まあ圭吾なら推薦でも大丈夫だろう……成績もクラス上位だし……」

修一「…」ゴソゴソ…↑冷蔵庫から水饅頭を取り出してる

律「圭吾って意外と頭いいよなあ…」

漣「律と違って圭吾は毎晩ちゃんと勉強してるからだ（汗）」

律「そつ、そんなヒドイ…（泣）」ヨヨヨ…

紬「まあまあ…」ヨシヨシ…

奈々「…ふい…：…疲れた疲れた…：…」グググ…

唯「ん…：…」グググ…

修一「はい、水饅頭」スツ…

唯「おお…♪」キラキラ…

奈々「丁度水饅頭が食べたいと思ってたんだあ…♪」

圭吾「それ全部俺のおごりだ、ちゃんと味わって食えよ？」

律「いったただきま…す♪」

滯「こーゆー時だけ元気だな…（汗）」

修一「…後は麦茶だな…」スタスタ…

唯「…おいしい〜♪」

奈々「冷たくておいし〜ね〜♪」

律「いやあ〜……夏って感じだなあ〜……」

紬「ホントねえ〜……」

澪「……」モグモグ…

慎弥「…はあ〜……」グタァ〜…

澪「…慎弥は得意科目とかあるのか？」

慎弥「得意科目〜？ん〜……あっ！保健体育！」

澪「っ！！？（汗）」ブツ！

律「お前なあ…（汗）」

圭吾「堂々と答えるなよ（汗）」

修一「どうした？」

紬「…ううん！！（汗）何でも！！（汗）」ハハハ…

修一「…？まあいいや…はいつ、お茶」スツ…

奈々「…でももうすぐで夏休みも終わりだなあ…」ハア…

慎弥「……」ボン…ボン…

律「…しかしこの部屋少し寒くないか？」ブルブル…

修一「唯がエアコン苦手なのを考慮して設定温度は27度にしてるんだけどな…」

滞「…多分ここが地下室だからじゃないのか？」

圭吾「いいよなあ…俺ん家にも地下室欲しいな…」

慎弥「…ん…バリトンギターは少し慣れるのに時間がかかりそうだな…」

唯「バリトンギター？普通のギターとどう違うの？」

圭吾「バリトンギターってのはギターの亜種でナットからブリッジまでのスケールが普通のギターより長いんだ」

唯「へえ…」

慎弥「まあ簡単に言えば1オクターブ下げたギターって感じだな、フェンダーのBASS？ってヤツはギターじゃなくてベースとして販売されたけどな」

律「ってかそれフェンダーのBASS？じゃないのか？（汗）」

慎弥「そうだよ？」

圭吾「お前それどこで手に入れた？（汗）」

慎弥「昨日親父がアメリカから送って来たんだよ（汗）」

滯「…バリトンギター…初めて見た…（汗）」

慎弥「でもコレは使うことはないな…使いにくいし…いつものに戻すか…」

修一「…今年の夏は…受験勉強でどこにも行ってないなあ…」

圭吾「…じゃあどこかに行くか？例えば市民プールとか」

律「行きたくねえ…（汗）」

慎弥「市民プールで（汗）小学生ぐらいしか行かねえよあんなトコ（汗）」

修一「…テレビ何かやってないかな…」ピツ！

圭吾「CSなら面白い番組が結構あるぞ？」

修一「CS?」ピッ!

唯「あゝ!!このアニメ昔良く見てたゝ!♪」

修一「アニメなんかどーでもいい」ピッ!

唯「ええゝ!?!見ようよおゝ!!」ブーブー

慎弥「アニメ……(汗)お前年いくつだ(汗)」

修一「…おっ、何かやってる…」

慎弥「…あっ!ジキルが去年京セラドームでライブをした時のヤツじゃん!」

圭吾「ホントだ…」

律「…すげゝなあゝ………」

漣「……かっこいいな……」

唯「ギター弾いてる人のギター凄い形してるね〜!」

圭吾「…あんな形のギターでよく弾けるなあ……」

紬「あっ! 奈々ちゃんのお兄さん!」

律「おお〜!」

慎弥「スッ、スラップ速すぎだろ……（汗）」

漣「確かに……（汗）」

奈々「……」

圭吾「…!」 チラツ…

圭吾「どうした奈々? ぼーっとして」

奈々「…なんかね……今考えたら最近お兄ちゃんと全然話してないなあ〜と思って……」

律「なんでなんだ？」

奈々「…今お兄ちゃん達のバンド……ベストアルバムの制作期間で家に帰ってくるのが真夜中とかなんだ〜……だから全然話とかしないから……」ハァ〜

滯「…そうなのか……」

慎弥「…哲哉さんかつこいいなあ〜……俺もあんな風になりてえ……」

圭吾「お前に必要なのはまず勉強だ」

慎弥「…（汗）」

唯「そーいやあずにゃん今日ウチに泊まりに来るんだっけ」

慎弥「確か俺ん家も愛美の友達が泊まりに来るんだったな」

律「じゃー私も滞ん家に泊まりに行こっかなあ？（笑）」

滞「来なくていいから」キッパリ！

律「即答かよっ！！？（汗）」ガーン！

修一「残念だったな」

……その頃……

~~~~唯宅~~~~

ピンポーン♪

憂「はあゝい！」タタタ…

梓「やつほゝ」ガチャ…

憂「梓ちゃんいらっしゃい♪」

梓「はいこれっ、お母さんが持っていきなさいって……」スッ…

憂「わあ〜…♪あっ！お寿司♪」

梓「…純はまだ来てないの？」

憂「多分もうそろそろ来ると思うけど……」

梓「純はいつもギリギリだなあ〜……（汗）」ハハハ…

憂「でも純ちゃんらしくていいじゃない♪」

梓「まあ……ん？なんか焦げ臭くない？」クンクン…

憂「いけないっ！！！！（汗）お魚焼いてる途中だったんだ！！（汗）  
」タタタ…

梓「憂ったらもう……（汗）」ハハハ…

憂「…少し焦がしちゃった…」 シュン…

梓「大丈夫だよこれなら」

憂「そうかなあ…」

梓「…てか憂凄い量の料理作ったね」 (汗)

憂「足りなかったらあとちらし寿司とピザもあるよ？」

梓「じゅっ、十分足りるから！！」 (汗)

ピンポーン♪

憂「あっ！純ちゃんかな！？」

梓「多分そうかも」

……………

純「こんばんは」 ガチャ…

憂「いらっしゃい♪」

梓「遅いよ純？」

純「遅くなった理由は……これを買に行っていました!!」サツ!

憂「?」スツ……

梓「…これは？」

憂「わくわくパーティーセット、高かったんだよ？」  
梓「うそっ!?! あのドーナツ屋さんの!?!」

憂「すごい♪」

純「一度買ってみたかったんだ♪」

梓「凄い…」

憂「後はお姉ちゃんが帰ってくるのを待つだけなんだけど……」

純「確か今日高山先輩の家で勉強会してるんだっけ？」

梓「うん」

純「いいなあ……軽音部ばかりずるいな……」ブーブー……

梓「何がずるいの？（汗）」

純「だってだってえ！いつも別荘で合宿やってるし機材も良いの使ってるしズルいじゃん！！」

梓「そうかな？（汗）」

純「いいないいな……高山先輩の家で勉強会……」

梓「遊んでるんじゃないんだから……（汗）」

憂「後はお姉ちゃんが帰ってくるのを待っただけかあ……洗濯物でも取り込んでおこうかな……」

梓「手伝うよ憂」

憂「そんな悪いよ梓ちゃん！（汗）」

梓「いいから……ほら純も手伝って！」

純「ほい……」

……

~~~~~ 慎弥宅 ~~~~~

愛美「♪」

ピンポーン♪

愛美「はあ〜い！」タツ……

結花「こんばんは……」

愛美「いらっしゃ〜い結花ちゃん♪」

結花「……今日泊っても大丈夫なの？迷惑じゃない？」

愛美「大丈夫大丈夫！ウチは私とお兄ちゃんだけだし！」

結花「……じゃあ……お邪魔します……」

愛美「はいはい♪」

結花（…山河さんの家おっきいなあ…）

結花（…山河…？確か山河先輩も同じ山河…まさかね…）

愛美「お兄ちゃんまだ帰って来てないから先にお風呂にでも入る？」

結花「うん…じゃあそうさせてもらおっかな…」

愛美「じゃあ一緒にはいろうっか♪」

結花「うん…」

………

……一方、圭吾達は……

慎弥「今日は疲れた…（汗）」スタスタ…

圭吾「お前ホント英語駄目だな（汗）」

慎弥「ここは日本だっ！！英語なんていらねーっ！」ウガー！

漑「最低な言い訳だな（汗）」

律「ホントだよな」（笑）」

漑「お前は何もしてないだろ（怒）」

紬「…でも、今日は唯ちゃんと奈々ちゃんは凄く頑張ってたわ！」

漑「…そうだな…：燃え尽きてるけど（汗）」

唯「…お腹すいたよお…：…」フラフラ…

奈々「…カレー食べたい…：…」フラフラ…

ヴー、ヴー…

奈々「…？」パカ…

奈々「…やった〜♪今日お兄ちゃん休みだあ〜♪」

律「良かったじゃん（汗）」ハハハ…

圭吾「…そーだ…帰りにスーパーに寄らないと…」

慎弥「スーパーって…お前は主婦か（汗）」

圭吾「…（怒）」ゴンツ！

慎弥「いってえ〜！！（汗）」ズキズキ…

滯「…（汗）」

紬「…じゃあ私達はどこで…」

律「じゃあな〜」

滯「またな」

慎弥「律、勉強頑張れよ？」

律「お前が言うな！（汗）」

唯「ばいばい！」

奈々「始業式までさいなら♪」

圭吾「またな」

.....

律「...そろそろ私達も曲作らないとな...」

滯「そうだな...」

.....

~~~~唯宅~~~~

唯「ただいまあ...」ガチャ...

憂「お帰りがいい♪」

梓・純「お邪魔してま〜す」

唯「あっ♪あずにゃん♪」ガバッ！

梓「いきなりですか……（汗）」

純「相変わらずだねえ（汗）」

憂「勉強はどうだった？」

唯「今日は物凄く頑張ったよー！♪」ブイッ！

憂「頑張ったねーお姉ちゃん♪」

唯「……でも……頑張り過ぎてお腹空いた……」グウ……

憂「……じゃあご飯にしようか♪」

……

……慎弥宅……

慎弥「……ただいまあ……」ガチャ……

慎弥「…？誰もいないのか？」

慎弥「…まあいいや…トイレトイレと…」スタスタ…

結花「ふう…」ゴシゴシ…

愛美「いいお湯だった…」ゴシゴシ…

慎弥「…スッキリした…」パタン…

愛美「…あゝっ！！」(汗)「バツ！

結花「…っ！！？」(汗)「↑何故か既に戦闘体勢の構え

慎弥「…っ！！！！／／わっ、悪りい！！／／」(汗)「バツ！

結花「…？山河先輩？」スッ…

慎弥「…！！？その声…まさか結花か！！？」(汗)「

結花「…ちよつと愛美!! (汗) どういう事!!? (汗)」ヒソヒソ…

愛美「ごめ〜ん… (苦笑) ……別に話さなくていいかなあ〜って思  
って… (汗)」アハハ…

慎弥「……!!! / / /」↑そそくさとその場を立ち去った

結花「…はあ〜… (汗) この後気まずくなるじゃん… (汗)」

愛美「ごめんごめん (汗)」

………

……その頃、圭吾は……

圭吾「…」ガチャ…

圭吾「…今日は一人か……」

圭吾「…テレビでも見よ……」カチ…

圭吾「……」モグモグ…↑晩飯食べてる

ヴー、ヴー…

圭吾「…」スッ…

圭吾「……おっ、三万で落札出来たか……」

圭吾「明日振り込みに行くか……」スッ…

圭吾「…しかし……この新商品のカップ麺……マズいな……（汗）」  
ズルズル…

………

~~~~奈々宅~~~~

奈々「ごちそうさま〜♪」

哲哉「旨かったか？」

奈々「凄く美味しかったよ〜♪」

哲哉「そりゃ良かった…」

奈々「さてと〜……練習練習〜♪」

哲哉「…確か学園祭まであと一ヶ月半だったっけ？」

奈々「うん！だから今のうちに沢山練習しておくの！♪」

哲哉「偉いな奈々」

奈々「えへへ〜♪」

……………

〜〜律宅〜〜

律「しかし……暇だなあ〜……」

滯「……さて、そろそろ帰るか……」 スッ…

律「待てえ〜滯〜！！！」ガシッ！

滯「なんだよ（汗）」

律「頼む！！頼むから今日泊まってくれ！！」（汗）」グググ…

滯「帰って勉強したいんだけど…」（汗）」

律「お〜ね〜が〜い〜！（汗）」

滯「……しょうがないな……わかったよ……」ハア…

律「サンキュー滯〜♪」

滯「ただし勉強には付き合ってもらおうからな？」

律「え…？（汗）」

……………

~~~~修一宅~~~~



修一「……」ダカダカダカダン……!!

修一「……ふう……」

修一「……まだまだだな……」

……

~~~~~紬宅~~~~~

斎藤「紬お嬢様、お食事のご用意が出来ました……」

紬「ええ……すぐ行くわ……」カキカキ……↑作曲中

斎藤「……」

紬「……はぁ……まだまだだね……」スッ……

斎藤「……あまり無理をしますと……体に毒でございますよ?」

紬「……ありがとう斎藤……でもライブまで後一ヶ月半しかないから

急がないと……」

斎藤「……」

………

……PM8:00……

~~~~唯宅~~~~

憂「…あつ、もうこんな時間……」

唯「ねーねー、みんなでお風呂に入ろよ♪」

梓「でも4人はキツくないですか？」

憂「4人なら大丈夫だよ？」

純「……」ウトウト…

梓（…既に眠気と戦ってるのが一人……（汗）…）

唯「じゃあ早速お風呂場へレッツゴー♪」

〳〳〳風呂場〳〳〳

唯「…いい湯だねえ〵……」

純「…ホントですねえ〵……」

梓「……(汗)」

憂「……いよいよ明後日から学校だね〵…」

梓「あつという間だったよね〵…」

憂「……ねえ梓ちゃん？」

梓「…ん〵？」

憂「…片山先輩とはどうなの？」

梓「…っ！！！！／／／ちよっ…っ！！！！／／／カァー…」

純「赤くなってる赤くなってる(笑)」

梓「…っ！／＼／＼」カァー…

唯「でも圭吾くんとあずにゃんって凄い仲のいいカップルだよ」

純「梓はいいよねえ…あんなカッコいい人が彼氏なんて…」

梓「そっ、そうかな…／＼／＼」

純「私も一度でいいから彼氏欲しいなあ…」

憂「純ちゃんならきっと大丈夫だよ」

純「…だといいんだけど…」ハァ…

憂「…純ちゃんは懂れてる人っているの？」

純「それは…漣先輩と山河先輩…あつ、あと高山先輩も！」

梓「漣先輩と山河先輩はわかるけど…なんで高山先輩も？」

純「高山先輩ってあまり喋らないイメージがあるけどドラム叩いて

る時の姿が凄くカッコいいんだよね〜!♪」

梓「…確かにそれはわかるかも……」

………

修一「…へえ〜つくしよんっ!……!」

修一「……風邪ひいたかな?」ズズ…

………

梓「…私はそろそろ上がるかな……」チャポン…

唯「私も上がる〜」ザバァ〜…!

純「私も…」スッ…

ツルツ!

純「わっ!!(汗)」ザッパァ〜ン!…!

憂「きゃっ!!!? (汗)」

梓「ちよっ……!! (汗) 何やってんの純っ!!!! (汗)」  
純「ゲホッ! ゲホッ! 鼻に入った……!!」

憂「だっ、大丈夫? (汗)」アセアセ…

唯「凄い音したよね (汗)」

梓「… (汗)」

………

~~~~~ 慎弥宅 ~~~~~

慎弥「……」ベンベン……♪

結花「…… (汗)」チラッ…

結花「なんか気まずいなあ…… (汗) …」

愛美「結花ちゃんお茶飲む?」

結花「あっ、うん…ありがと…」スッ…

慎弥「俺のは? (怒)」

愛美「あっ…（汗）」アハハ…

慎弥「…もういいよ…俺寝るわ…」スッ…

愛美「えっ、でもまだ晩ごはんが…」

慎弥「今日はいらない」ボタンッ！

愛美「…どうしたんだろ…」

結花「…」

……………

……律宅……

律「頭使うと疲れるなあ…」グググ…

滯「それが普通だ（汗）」

律「さあてえ…風呂でも入るか…」

滯「そうだ…私パジャマないんだった（汗）」

律「私があるから心配すんなくて♪誰もすっぽんぽんにしないって♪（笑）」

滯「（怒）」ゴンッ！

律「いっ！…！（泣）」

.....

~~~~奈々宅~~~~

奈々「えつとおく……ここは……」ポロン…♪

哲哉「ここはこうだな」ポロン♪

奈々「なるほどく…」

哲哉「おつ、もう8時過ぎだしそろそろ風呂入ってこいよ」

奈々「うん！」タタタッ…

哲哉「……しまあ……今どきの高校生は凄いなあく…」シュボッ！

哲哉「……………」フウ…

哲哉「…俺も……頑張らないと……」

.....

~~~~唯宅~~~~

純「ZZZ…」スヤスヤ…

梓「もう寝てる(汗)」

憂「凄いねえ…(汗)」

梓「…そういえば唯先輩は？」

憂「お姉ちゃんなら多分部屋で勉強してると思うよ？」

梓「唯先輩が？(汗)」

憂「よくわからないけどここ最近夜遅くまで勉強してるんだよ」

梓「なんか唯先輩らしくないな…」

憂「…私たちももう寝る？」

梓「…まだ眠たくないよ…」

憂「…じゃあお喋りしよっか♪」

梓「…うん♪」

憂「よいしょっと…」カチッ…

梓「……」ゴソッ…

憂「…ふう…」ゴソゴソ…

梓「…あと少しで夏休みも終わりだね…」

憂「…そうだね…今年夏は楽しかったな…」

梓「…そういえば9月の中頃に体育祭があるんだったっけ？」

憂「うん、今年の体育祭の応援合戦楽しみだな…」
「ワクワク…」

梓「…先輩達とのライブも今年で最後…なんだよね…」

憂「どうしたの梓ちゃん？何か考え事？」

梓「…今思えば…先輩達とのライブがもう学祭で終わりなんだな
って…」

憂「…梓ちゃん」

梓「…最初の頃は少し不安だったけどみんな優しいし、何よりも演奏の楽しさを教えてくれた気がするんだ…」

……………

「…約1年前…」

梓「中野梓です、よろしくお願いします！」
「ペコリ…」

律「じゃあ私達も自己紹介するかー！私は部長の田井中律！！よろしくなー！」

滯「私は秋山滯、よろしく」
「ニコッ…」

梓（…綺麗な人…）

紬「琴吹紬で〜す♪よろしくね〜♪」

梓（…可愛い人だな…）

唯「平沢唯で〜す♪よろしくね〜あずにゃ〜ん♪」

梓「あつ、あずにゃん!？」ガビン!!

律「あと二人いるんだけど……あいつら遅いな〜…」

ガチャ…

慎弥「悪い悪い、遅くなった」

圭吾「…? 誰だそいつ?」

梓「はっ、本日から入部しました中野梓です!! よろしくお願いします!」
（汗）「ペコッ!」

慎弥「おう、よろしくな!」ポンッ!

梓「はっ、はい!!」

紬「梓ちゃんだっけ? 楽器は何が出来るの?」

梓「一応ギターを…」

唯「あつ、私と同じだあゝ♪」

漑「へえゝ…なあ、一度弾いてみてよ」

唯「はいっ、どうぞ♪」スツ…

梓「はい…じゃあ…」スツ…

ギユワーン!!♪ジャカジャカ…♪

律「すっ、すげえ…(汗)」

漑「凄い腕の持ち主だな…(汗)」

唯「私より上手い…(汗)」

紬「凄いわねえ…(汗)」

慎弥「すげっ…!(汗)」

圭吾「…!」

梓「…はっ!(汗)しまった…:みんな固まってる…:(汗)私の演奏が駄目でビックリしてるんだろぅなあゝ…」

唯「まっ、まだまだね!!!(汗)」

律・漑・慎「何っ!? (汗)」ガビーン!

紬「…(汗)」

梓「…えっ(汗)」

圭吾「…(怒)」ゴンッ！

唯「っで！！(泣)」ズキズキ…

圭吾「…上手いな…ギター…長いことやってるだろ？」

梓「えっ、あっ、はい…(…近くで見ると凄くカッコいい人…)」

圭吾「俺は片山圭吾、こいつと同じくギターをやってたんだ、よろしくな

」グイッ！

唯「うう…(泣)」

梓「…はい！よろしくお願いします！！／／／」ペコリッ！

圭吾「さてと…」スッ…

梓(黒のレスポール…格好いいな…)

圭吾「……」ジャーン♪ジャカジャカ…♪

梓(うっ、上手い…(汗)…)

圭吾「……」ジャーン♪ヒュルル…♪

梓「…しかも速弾きが物凄く速い…（汗）…」

慎弥「…なあ圭吾、一回合わさねえか？」

圭吾「おう…」

慎弥「せーの…」スツ…

圭吾「…」スツ…

慎弥「…♪」ヴウ〜ン♪ベンベン♪

圭吾「…」ジャカジャカジャカジャカ♪

梓「…凄い…（汗）」

律「あれ〜？もしかして惚れちゃった〜？（笑）」

梓「なっ！？／＼／＼」

漑「変な事言うなバカ（汗）」ポカツ！

律「あでっ！！（汗）」

慎弥「…」ヴウ〜ン♪

.....

梓「……」

憂「…ふわあ…：…なんだか眠くなってきた…」

梓「…私も…：眠くなってきたよ…」

憂「…じゃあおやすみ…」

梓「おやすみ…」

〵〵〵慎弥宅〵〵〵

結花「…：…もう11時半か…」

愛美「あ…：…頭痛い…」

結花「…大丈夫？」

愛美「…うん…：…多分寝たら良くなると思う…」

結花「…だといけど…」

愛美「…じゃあもう寝よっか…！」

結花「…うん…」

カチツ……………

数分後……………

結花「……………」ムクツ…

結花「…眠れないなあ…」

結花「…」チラツ…

愛美「……………」

結花「…！」スツ…

結花「…やっぱり…頭痛い痛いって言ってたけど…熱があったのね…」

愛美「…ううん…あれっ？どうしたの？」

結花「どうしたのじゃないわよ…あなた熱あるわよ？」

愛美「…夏風邪かなあ…？」エヘヘ…

結花「何のんきな事言ってるの全く…」ハア…

愛美「エヘヘ…」

結花「…氷枕はどこにあるの？」

愛美「…しばらく使ってないから……どこにあるか……多分お兄ちゃんなら知ってるかも……」

結花「山河先輩ね……わかった!!」

〃〃慎弥の部屋〃〃

慎弥「…♪」ベンベン…♪

結花「山河先輩!!」ドンドン!!

慎弥「ん？」

……………

結花「…という訳で…」

慎弥「わかった、すぐに持ってくるから部屋に戻っててくれ」

結花「はっ、はい…」

〃〃愛美の部屋〃〃

愛美「…頭がガンガンする…」

慎弥「持ってきたぞ」ガチャ…

結花「ありがとうございます先輩」

慎弥「…で？どーいう状態なんだ？」

愛美「…とにかく頭が物凄く痛い…」

慎弥「…まあとりあえず熱はかるか…：…起きれるか？」

愛美「んっ…ちょっとヤバいかも…：…」ググッ…

慎弥「よっと…：…」グッ…

愛美「…ありがとう…」

慎弥「とりあえずこれ挟め」スッ…

愛美「…うん」スッ…

結花（…山河先輩優しいな…）

ピピピピ…!

慎弥「どれ……38，3度か……」

愛美「…ごめんね結花ちゃん……」

結花「気にする事ないよ……」

慎弥「冷えピタ貼って……この薬飲んで寝ろ」

愛美「…うん」

慎弥「結花は風邪移すとマズいから別室で寝てくれ、すまん」

結花「…いいえ、大丈夫です! 私1人だけ寝るなんてそんな事出来ないです…!」

慎弥「…そうか…」フツ…

結花「…私も看病します…!」

慎弥「…いつもの結花らしくないな…」

…しばらくして…

愛美「…」スースー…

結花「…寝ましたね…」

慎弥「…そうだな…」

結花「…んっ…ふわぁ…」

慎弥「…もう1時か…」結花、別の部屋に案内するからついてきてくれ」

結花「…はい…」

……………

慎弥「この部屋は来客用の部屋だからさ、ゆっくり休むといいよ」

結花「すっ、凄い…！（汗）」

慎弥「…じゃあおやすみ…」ガチャン…

結花「…」

結花「…うわっ…凄いふかふかだこのベッド…」フカフカ…

結花「…なんかホテルみたい…」

結花「…そろそろ寝よつと…」

.....

〃〃愛美の部屋〃〃

慎弥「…」ガチャ…

愛美「…」スースー…

慎弥「……」

.....

愛美「お兄ちゃんが勉強してるなんて珍しいね」(笑)「クスツ…」

慎弥「やかましい(汗)俺だってやるときはやるわい(汗)」

愛美「…明日は雪が降るかもねえ」(笑)「」

慎弥「…うぜえ…(汗)」

愛美「…さあゝて……私も勉強しようっと♪」

慎弥「……」カキカキ…

愛美「…とうっ♪」

慎弥「いてっ!!……今度はなんだよ…(汗)」

愛美「へっへっ♪」

慎弥「…もう勝手にしてろ（汗）」ハア…

愛美「何よ〜！」プンプン！

……………

慎弥「……」

慎弥「…！これ俺が昔愛美の誕生日にあげたぬいぐるみ……まだ持ってたんだな…」スッ…

慎弥「…しかし……腹へった…（汗）」

慎弥「…ラーメンでもねえかなあ…」ガチャン…

~~~~圭吾宅~~~~

圭吾「……」ボヘー…

早希「ただいまあ〜…」ボタン…

圭吾「お帰り〜…」

早希「疲れたあ〜！（汗）」グタァ〜…

圭吾「……」↑テレビ見てる

早希「…って反応無しっ！？（汗）」ガビーン！

圭吾「…聞いてる聞いてる…」

早希「…まあいいや…それよりお腹すいた…！」

圭吾（帰ってきて早々うるせえなこの女は（汗）…）

圭吾「…棚にカップ麺と冷蔵庫の中に卵焼き作ったのがあるからそれ食っとけ」

早希「…ういゝす…」

圭吾（…大丈夫かよ…（汗）…）

圭吾「…俺はもう寝るからな…？」

早希「ういゝ…」クダァ…

圭吾「…（汗）」

圭吾「…駄目人間だな（汗）」

早希「ほっといて…！」（泣）」ウワァーン！



圭吾「…なんだよ（汗）男にフラれたのかよ？（汗）」ハア…

早希「…！！うわぁ～ん！！」（泣）」

圭吾「凶星かよ（汗）」

圭吾「…寝よ…（汗）」スッ…

……………

～～～慎弥宅～～～

結花「……………」スースー…

愛美「……………」スースー

慎弥「…」ズルズル…

慎弥「…うめえ～…」ズルズル…

慎弥「……………」ズルズル…

慎弥「…ふう……………」

慎弥「…もう2時半か…：…しかし眠たくねえしなあ…：…」ハア…：…

慎弥「…久々に触ってないベースでも弾くか…：…」スツ…

…：…

結花「…：…」ムクツ…

結花「…トイレ…：…」スツ…

…：…

慎弥「…：♪」スタスタ…

結花「…スツキリした…：…」ガチャ…

慎弥「…：？なんだ結花、まだ寝てなかったのか？」

結花「ちよつとトイレに…：…先輩は？」

慎弥「今から保管室に行くトコ」

結花「保管室…：？」

慎弥「俺の今まで集めてきたベースの保管室だよ」

結花「…それは大体何本位なんですか？」

慎弥「まあ4〜50本ぐらい？」

結花「…え？（汗）」

慎弥「…結花もくるか？」

結花「はっ、はい！！是非っ！！」

……………

〜〜ベース保管室〜〜

慎弥「ん〜と…どれだっけ…？」ガサゴソ…

結花「…凄い数…（汗）」

慎弥「おっ！いいのがあった！」ガチャ…

結花「…どんなベースですか？」

慎弥「これだ！」スッ

結花「…これは…ギブソンのフライングVですよね！？（汗）  
んで先輩こんな貴重なベース持ってるんですか！？（汗）」

慎弥「えっ？（汗）これそんなに貴重なの？（汗）」

結花「2年間しか製造されなかったシリーズですからね、大変貴重

ですよ」

慎弥「そうなんだ〜…」

結花「ちなみにギブソンの直系ブランドのエピフォンからはまだフライングVは発売してますね」

慎弥「…結花結構詳しいな(汗)」

結花「これくらいなんて事ありませんよ」

慎弥(…なんか……圭吾に似てるな…(汗)……あいつもかなり楽器に詳しいし……(汗)……)

結花「…あれっ？確か前に聞いた話だと山河先輩のベースの数は3〜40本って……」

慎弥「なんかウチの父親が1ヶ月に2〜3本アメリカから送ってくるからホント大変だよ…(汗)この前なんかFender BAS S ? っていうベース送りつけてきたんだ(汗)」

結花「…そのベースもかなり貴重ですね(汗)」

慎弥「さあて…お目当てのベースも見つかった事だし……寝よっ！」

結花「…寝るんですか（汗）」

慎弥「…さっきから凄い眠気が…（汗）」

結花「…（汗）」

……翌朝……

……圭吾宅……

圭吾「……ふわぁ……」ムクツ……

圭吾「………」ボヘー……

圭吾「……コンビニ行ってこよ……」スツ……

………

……慎弥宅……

慎弥「ぐがあ……」スヤスヤ……

結花「…んっ…」ムクツ……

結花「…ふわあ…」グググ…

結花「…そうだ!! 愛美…!!」タツ…!

結花「…愛美?」ガチャ…

愛美「…おはよ…」ニコツ…

結花「…もう体は大丈夫なの?」

愛美「…まあなんとか…迷惑かけてごめんね…(汗)」エヘヘ…

結花「…まったく…」フフ…

愛美「…そういえばお兄ちゃんは?」

結花「…先輩なら多分爆睡中だと思う…(汗)」

……………

〃〃唯宅〃〃

憂「……」ゴシゴシ…

梓「……」ゴシゴシ…

純「こんのおく……！」グググ……！

憂「…新しいのあるよ？」ゴシゴシ…

純「…いら…ない……！」グググ……！

………

梓「…これでよしっ！」

憂「梓ちゃん位置上過ぎない？」

梓「こんなもんだよ」

純「…梓はいいよね……黒くて真っ直ぐで……」

梓「そう？でも片山先輩に日本人形みたいって言われて嫌なんだけ  
ど……」

………

〳〵一年前、修一宅で泊まった次の朝〳〵

梓「…」ゴシゴシ…

慎弥「あ……ねむっ！……」

修一「…」ゴシゴシ…

圭吾「……」スタスタ…

梓「…あつ、おはようございます！片山先輩！」

圭吾「…おはよ…」

圭吾「……」ジーツ…

梓「…？あの……どうかしましたか？」

圭吾「…お前……日本人形みたいだな……」

梓「なっ！？（汗）」ガビーン！

………

純「いいじゃんそれ〜！私なんか癖っ毛だから毎朝大変なんだから〜！」↑ボサボサ

梓「…確かに大変そうだね…（汗）」

梓「…そういえば唯先輩は？」

憂「お姉ちゃんならまだ寝てるよ〜？」

唯「ギー太〜……こっちにおいでえ〜……ZZZ…」ムニャムニ



ヤ…

……………

（～）律宅（～）

律「…ZZZ …」スヤスヤ…

漣「…う…：…ううん…：…今何時だ？」スッ…

漣「…ってもう10時前じゃないか！！（汗）」ガバツ！

律「…うるさいなあ～漣～：…」ムクッ…

漣「今日の2時から夏期講習なんだよ！！（汗）」バタバタ…！

律「…へ～：…：…ふわあ～：…」グググ…

漣「あ～！！…なんで目覚まし8時にセットしたのに～！（汗）」バタバタ…！

律「…これ…：…電池切れてるぞ…：…」スッ…

漣「っ！！」

律「…まあ人間だれでも間違いはあr y」

漣「（怒）」ゴンッ！

律「いってえ〜!!」(泣)

.....

〜〜慎弥宅〜〜

結花「…じゃあそろそろ帰るね」

愛美「お昼ごはん食べていけばいいのに〜!」

結花「…そんな長居しちゃ悪いし……それに私今日空手の稽古もあるから早く帰らないと……」ニコッ…

愛美「また来てよ〜!」

結花「…うん!じゃあまたね!!」タッ!

.....

〜〜コンビニ〜〜

圭吾「……」ピッ!

圭吾「…え〜っと…口座番号は……」ピッ…ピッ!

圭吾「…よしっ…終わり…!」

圭吾「…早く来ねーかなあゝ……」

店員「ありがとゝございましたゝ！」

圭吾「…あつつ…（汗）」

圭吾「…早く帰ろ…」スタスタ…

結花「…あつついなあゝ…（汗）」スタスタ…

圭吾「……あちいゝ…（汗）」スタスタ…

圭吾「……」スタスタ…

結花「……」スタスタ…

圭・結「あっ」バツタリ

結花「…おはようございます片山先輩…」ペコリ…

圭吾「…おはよ……てかなんで結花が？友達ん家にでも泊まりに行  
ったのか？」

結花「…は、はあ……まあそうですね…」

圭吾「…とにかく…きいつけて帰れよ…:…じゃあなあ…:…(汗)」  
スタスタ…

結花「…さようなら…(汗)」

結花「…私も早く帰ろう…(汗)」スタスタ…

……………

〃〃唯宅〃〃

梓「…じゃあ唯先輩によろしく言っついてね」

純「またね〃憂〃」

憂「うん〃またね〃」

梓「…今日は暑いなあ…:…(汗)」スタスタ…

純「…今日の最高気温35度だってさ…:…(汗)」スタスタ…

梓「…嫌になっちゃうよ…:…(汗)」スタスタ…

純「…あっ！そうそう！今年マラソン大会無くなるらしいよ？」  
タスタ…

梓「えっ？そうなの？」タスタ…

純「なんかいつものコースが来月から大幅な工事が始まるらしいからだって」タスタ…

梓「…私あんまり体力に自信がないからちょっと嬉しいかも…」  
タスタ…

純「走るの苦手だから大歓迎〜！♪」タスタ…

梓「…ハハハ…（汗）」タスタ…

純「あっ！もうバス来てる！！じゃあね梓！（汗）」ダツ！

梓「バイバーイ（汗）」

梓「…早く帰ってアイス食べよ…」タスタ…

……………

〵〵紬宅〵〵

紬「ふうっ…出来たわ…！」

斉藤「紬お嬢様…奥様がお帰りになられました…」

紬「えっ！？お母さんが！？」

紬母「ただいま、紬…」スッ…

紬「…お母さん…！！」ダッ！

紬母「あらあら…この子ったら…」フフッ…

紬「……」ギュッ…！

紬母「…前より髪伸びた？」スッ…

紬「…うん…！頑張って伸ばしてるの…！」エヘヘ…

紬母「…そうだわ！お昼ご飯はお母さんが腕によりをかけて作るわね！♪」

紬「やったあ〜！♪」

……………

〃〃慎弥宅〃〃

慎弥「……」ムクツ：

慎弥「…寝すぎて頭痛え…（汗）」

〃f i n〃

**#14 部室がない!! (前書き)**

すみません……

ネタ不足です… (泣)



## #14 部室がない!!

圭吾「…ふわあ…:…:暇だな…:…」グググ…

慎弥「体育祭も無事終わったし…:…:残すは学園祭だけだな」

修一「早いよなあ…:…:もうちょいしたら俺達卒業だもんなあ…:…」

律「おゝい!練習に行くぞゝお前らゝ!」

奈々「みんな行くよゝ♪」

圭吾「…ふう…:…:行くか…:」ガタツ…

慎弥「んゝ…:」ガタツ…

修一「…:…」ガタツ…

さわ子「あっ、あなた達ちよっと待って」

唯「どうかしたのさわちゃん?」

さわ子「実は部室…:…:しばらく使えないかもしれないの…:…」

律「…:…:なんで?」

さわ子「部室の上を通ってる水道管から水が漏れてるらしいのよ」

圭吾「水漏れねえ…」

漣「修理にどれくらいかかるんですか？」

さわ子「順調にいけば5日ですって」

慎弥「…5日か…」

修一「長いな…」

律「…練習はしばらく休みにするか？」

漣「学園祭前にそれはキツイな…」

圭吾「…部室に行ってちよつとエフェクター取ってくる…」 スッ…

慎弥「あっ、おい!!」

慎弥「…まったく……しようがないなあ…」

……………

梓「♪」 スタスタ…

結花「…これは…」スッ…

梓「〜♪……？大田さんどうしたの？」

結花「…あっ…梓先輩…ドアにこんな紙が貼ってあって…」

梓「…関係者以外立ち入り禁止……何これ？」

結花「…イタズラですかね…？」

梓「…どうだろう……」

梓・結「……」ジーツ…

圭吾「おい」ヌツ…

梓・結「きゃあ〜っ！！？」（汗）「ビクッ！

圭吾「何やってんだお前ら？」

結花「びっ、びっくりした…」（汗）「ドキドキ…

梓「…じっ、実はこんなものが貼ってあって（汗）」

圭吾「…ああ……部室ならしばらく使えねえぞ？」

梓「えっ？どうしてですか？」

圭吾「なんか部室の上を通ってる水道管から水漏れがあったらしいからその工事だよ」

梓「そうなんですか…」

結花「…じゃあ練習は……」

圭吾「まあ心配すんな、何とかする」ポンッ！

結花「はあ…」

圭吾「さてと…エフエクターエフエクターと…」ガチャ…

結花「…なんか大変な事になりましたね…」

梓「そうだね…」

……………

律「…しかし……練習すると言っても肝心の練習場所がなあ」

唯「教室は？」

圭吾「無理に決まってるだろう、アホかお前は」

唯「ひっ、ひどい…（泣）」

滯「体育館とか？」

修一「体育館はバレー部やらバスケット部やら新体操部やらが使ってるから多分無理だろうな…」

紬「…じゃあ屋上は？」

修一「屋上は写真部が使ってるから無理だな」

滯「…なかなか良い場所がないな…」

奈々「…あっ！！修一くん家は！？」

律「おっ！？いいなそれ！！」

修一「ちよっ、ちよっとまで！！なんで俺ん家…（汗）」

滯「…そうだな…！修一の家なら地下スタジオがあるからな…！」

紬「機材も揃ってるし」

梓「私も賛成です！」

結花「…賛成です…！／／／」ハイ…

唯「私も♪」

修一「なっ…！（汗）」

圭吾「…観念するんだな…」

慎弥「こりゃもうノーとは言えないよな…（汗）」ハハハ…

修一「…はぁ…（汗）」

律「よし！！今から修一の家に突撃だぁ〜！♪」

唯・紬・奈「お〜♪」

修一「今からかよっ！？（汗）」ガビーン！

……………

~~~~修一宅~~~~

……地下スタジオ……

律「相変わらず凄いよな〜!!」

修一「…まったく…急には困るよ…(汗)」ハア…

慎弥「まあいいじゃないの」

修一「お前そう簡単に言うけどな〜…(汗)」

律「よし!!練習だあ〜!!」

唯・紬・奈「お〜」

紬「…あつ、でもまず先にお茶にしましょ」

圭吾「おい(汗)」

梓「…(汗)」

……………

律「…なんか落ち着くなあ〜…」フウ…

唯「ホントだね〜…」グタァ…

奈々「…おやすみ〜…」グタァ…

滯「お前らさっきまでの元気はどうした(汗)」

慎弥「…修一、ちょっと音鳴らしてもいいか？」

修一「んゝ？うんいいぞゝ？」

慎弥「…」カチャ…

結花「…」ズズズ…

慎弥「…」カチッ…カチッ…

慎弥「…」ボン…♪ボン…♪

圭吾「…俺も新しいギターで練習しよ…」スツ…

唯「圭吾くん新しいギター買ったの!？」

圭吾「新しいつつつてもオークションで手にいれた中古だけだな」
ゴソゴソ…

梓「メーカーはどこのですか？」

圭吾「フェンダーだよ」スツ：

慎弥「フェルナデス派のお前がフェンダーって珍しいな」

圭吾「フェルナデスもいいけどフェンダーも弾いてみるといいもんだよ」

漑「いくらぐらいで落札したんだ？そのギター」

圭吾「3万で落札したけど俺が後でパーツ類は全部交換したからその費用だけで多分8万ぐらいかかっていると思う」

漑「はっ、8万…（汗）」

唯「見せて見せて〜♪」

圭吾「ほれ」スツ：

梓「…ブルーのストラトですね…」

唯「すごい！ピカピカ〜！♪」

律「へえ〜…3万の割には結構綺麗じゃん」

圭吾「キズがあるつつつても裏にバックルキズがあるぐらいだな」

結花「…カッコいい…」

慎弥「いいじゃんそれ、かなりいい掘り出し物だな」

圭吾「…ってお前またベース買ったのか？（汗）」

慎弥「バカ言え！！（汗）これは前からあるヤツだ！！（汗）」

梓「…レイクランド…このメーカーのベースは高いんですか？」

修一「高いも何も…（汗）4〜50万はくだらない代物だぞ？（汗）」

梓「えっ！？（汗）」

圭吾「ホント…お前が羨ましいよ（汗）」

慎弥「…へいへいいつも高いベース弾いててすいやせ〜ん（汗）」
ボンボンボン♪

結花「…(汗)」

圭吾「…」ジャカジャカ♪

修一「…」ダンッ…!ダダンッ…!

結花「…」ジャラン…♪

奈々「…ZZZ…」スヤスヤ…

律「…奈々は相変わらずのんきだよなあ…(汗)」

漣「…こっちな(汗)」チラッ…

唯「…うへへ…ZZZ…」スヤスヤ…

律「…(汗)」

圭吾「…よしっ!…一回合わすか…!」スッ…

修一「何やるんだ？」

慎弥「…とりあえず空の虹からにするか？」

律「なんだそのとりあえずビールみたいな言い方（汗）」

奈々「オツケ〜♪」

律「っってお前いつ起きた！？（汗）」ガビーン！

圭吾「そうだな…しばらくその曲やってないし…」

結花「…そうですね」

修一「…じゃあ行くぞ〜…」スツ…

修一「…っ！！」ダカダカダカダカ！！♪

慎弥「…♪」ヴウ〜ン♪

結花「♪」ジャン♪

奈々「♪」ポロンポロン♪

圭吾「…♪」ジャカジャカ♪

滯「…やっぱ上手いよな……圭吾達は…」

律「私らだって負けてないぞ〜！」

唯「そうだ〜！」

梓「唯先輩はまずギター間違えずに弾いて下さい（汗）」

唯「はい（汗）」シュン…

滯「律も修一みたいに上手くドラム叩いてくれよな（汗）」

律「う…っ！！（汗）」グサツ！

ジャーン♪

修一「…久々の割には結構よかったな…」

圭吾「…ああ」

慎弥「疲れた…（汗）」

奈々「お菓子…食べたい…（汗）」

結花「…（汗）」

圭吾「律達も練習しないのか？」

律「んじゃ行くぞ〜!♪」

唯「お〜!♪」

圭吾「いつもより積極的だな（汗）」

唯「このギターアンプ凄い大きいよね〜あずにゃん♪」

梓「あっ、はい…（汗）」

律「すげ〜よなあ〜…このドラムセット…」タカタカ…♪

漣「…まあ…理由はだいたい予想がつくけどな（汗）」

慎弥「…あっ、漣!これやるよ!」スッ…

漣「…これは……プリアンプ？」

慎弥「お前いつも直アンプだっただろ?こいつがあればかなり違うぞ?」

漣「…でも…こんな高価な物…」

慎弥「いいっていいって!この前新しいの買ったから(汗)」ハハハ:

圭吾「要するにお古か(汗)」

修一「最低な人間だな」

慎弥「そっ、そんな真顔で言うなあゝ!!」(汗)」

漣「…ありがとう…／＼／＼慎弥!!」ニコツ:

慎弥「セッティングはそのままでもいいからなゝ」

律「よし!んじゃまずふわふわな!!」スツ:

紬「ラジャー♪」

唯「ほゝい!」

梓「はい!」

漣「ああ」

律「…ワンツー!♪」カッカツ!

唯「♪」ジャカジャカ♪

.....

ジャン♪…

圭吾「へえ…上手くなってんじゃん」

唯「そう…?」エヘヘ

圭吾「唯以外な」

唯「ガン!!」(泣)

修一「…なあ、そろそろアレの練習しなくてもいいのか？」

圭吾「ああ…アレね」

慎弥「アレか」

結花「アレですね」

奈々「アレ？」

律「1人理解出来てないのがいるぞ…?」(汗)

紬「アレってなあに？」

滯「…多分…パートチェンジバンドの事だろう…」

圭吾「ついでに練習しておくか？」

慎弥「そうだな…一回通しでやってみるか」

修一「じゃあちょっと待っててくれ、ベースとってくる」スタスタ…

圭吾「…」ジャーン♪ピロピロピロ…♪

律「相変わらず圭吾の早弾きは凄いよなあ」（汗）」

奈々「よっ…」♪「バァーン!!!」♪ダカダカダカダカ…!!!」♪

紬「奈々ちゃんすごい」♪

修一「…」ボン…♪ボンボン…♪

慎弥「…みんな準備はいいか？」

奈々「いつでもいいよ」♪

結花「…」

慎弥「…じゃあ…」

圭吾「…」スッ…

修一「…」スウ…

修一「1 2 3 GO っ!!」

圭吾「…」ジャーン♪

奈々「♪」ッダン！♪ッダン！♪

修一「…♪」ヴォーン♪

結花「…♪」

慎弥「…♪」ジャカジャカ♪

律「…あれ？慎弥って確かギター全く弾けなかったんじゃない？」

漣「確か…そうだったな…」

……………

圭吾「…」ジャーン…♪

奈々「…♪」バァーン！…♪

修一「…」ヴーン…♪

慎弥「…」ジャーン…♪

結花「…」

唯・紬「すごい♪」パチパチ…

律「…なあ慎弥、お前ギター弾けなかったはずじゃ…」

慎弥「圭吾に無理やり練習させられて一通り弾けるようになった（汗）」

漑「強制…（汗）」

梓「先輩…（汗）」

紬「…でも凄いわみんな！パートが代わっても凄い上手いし…！！」

律「…私らもやってみるか？」

漑「その前に自分のパートを上手くなれ」キツパリ

律「ぐっ！！（汗）痛い所を…（汗）」

奈々「いやあく楽しかったあ〜♪」

唯「奈々ちゃんお疲れ〜♪」

圭吾「…しかし…結花をボーカルにして正解だったな…」

結花「あつ、ありがとうございます…／＼／＼」

慎弥「やっぱりギターは難しい…（汗）」ポロン…♪

……………

律「…暇だなあ…」グダア…

唯「…そうだねえ…」グダア…

奈々「…なんか面白い事ないかなあ…?」グダア…

圭吾「…」ペラ…ペラ…

奈々「…圭吾くん何見てんのそれ?」

圭吾「ヘアカタログ…」ペラ…ペラ…

奈々「…そろそろ私も髪切らないとなあ…」

唯「…私も大分伸びてきたからそろそろ切らないと…」

慎弥「この際イメチェンでもしてみたら?」

唯「うん…」

…イメチェン…か…
梓

慎弥「…なあ圭吾、今度のライブの時の髪型はこんなにしてくれよ」スツ…

圭吾「ん〜?」スッ…

圭吾「…これならセットするの簡単だな」

圭吾「梓もライブの時髪型変えてみるか？」

梓「えっ？」

律「私も〜！」

唯「私も〜♪」

圭吾「お前らからは金とるからな」

律・唯「ひどいっ!! (汗)」ガーン!

圭吾「例えばだな…：：：奈々! ちょっとこっちに来てモデルになれ」

奈々「えっ!?! モデル〜?」ルンルン♪

圭吾「ここに座ってくれ」

奈々「あ〜い♪」スッ…

圭吾「…奈々と唯は同じ髪質で長さもそんなに変わらないから一番

形を作りやすいんだ」

唯「そうなんだあ」

奈々「でも圭吾くん、私結構癖毛なんだよね」

圭吾「まあこれなら大丈夫だ」

奈々「そうっ!?!」

圭吾「こうして……こうすれば……」サツサツ……

唯「おおー! 凄いよ奈々ちゃん!!」

奈々「えっ!?! どういう感じになってるの!?!」ワクワク……

圭吾「……よしっ、完成っ!!」スッ……

律「ほいつ、鏡」スッ……

奈々「……おおー!!」♪すごーい!!」♪

紬「凄くかわいいわよ」♪

潐「似合ってるぞ奈々」

結花「……かわいい……」

慎弥「……／＼／＼ジィー……」

修一「……ガン見すんな（汗）」グイッ！

慎弥「うっ！！（汗）」

奈々「凄いなあ……」

圭吾「ヘアピンとワックスとコームさえあれば出来るから今度やってみるといいよ」

奈々「……しばらくこの頭で居ようっと……」

修一「……！もう5時前か……」

澪「あっという間だな……」

律「じゃ～最後にもう一回だけ合わそ～ぜ～」

唯「お～」

紬「よしきたあ～」

……

……数日後……

〃音楽準備室〃

律「帰ってきたぞ〜♪」

奈々「来たぞ〜♪」

唯「やっぱりここが一番落ち着くね〜♪」

慎弥「…なあ圭吾、ライブの曲順はどうする？」

圭吾「…そうだな……オリジナルのを入れても足りないから……ん
〜…」

修一「……ふわぁ〜……眠っ……」

結花「……」チャカチャカ…♪

紬「お茶入りましたよ〜♪」

律「おっ!?!♪」

唯「今日のお菓子は何かなあ〜?♪」ワクワク…

澪「…そういえば梓のヤツ遅いな……」

梓「すみません……!遅れました……!」ガチャ…

律「来た来た……遅いぞ梓〜!？」

唯「あゝずにゃん♪」ガバツ!

梓「うっ…! (汗) やっ、やめてくださいよ… (汗)」

結花「…」ジャーン♪ジャカジャカ…♪

修一「…適当にドラム叩いところ…」スツ…

律「学園祭まであと1週間かあ…」

滯「それまでにしっかり練習しないとな…!」

梓「…今携帯で天気予報を見たら明後日位に台風が日本に上陸する恐れがあるらしいですよ?」

慎弥「…台風か……まあ直撃はないだろ…」

圭吾「そうそう、それより練習練習」

……………

……しかしその台風がのちに大変な事態を引き起こす……………
……………

}
f
i
n
{

#15 非常事態& a m p; 女装コンテスト!! (前書き)

新年一発目!!

相変わらずのグダグタですが(汗)

#15 非常事態& a m p; 女装コンテスト!!

くくある日くく

びゅく!!!……

圭吾「……凄いなく……今回の台風は……なあ慎弥?」

慎弥『そうだなあく……まさか直撃するとは思わなかったなく……』

圭吾「まあ今晚には通過するらしいから明日から仕切り直しだな……」

慎弥『だな……じゃあまた明日な』

圭吾「おう……」ピツ……

圭吾「……しかし凄いな……」

……しばらくして……

早希「台風過ぎてったみたいねく……」ガラッ……

圭吾「さっきまでのが嘘みたいだな…」

ヴー、ヴー…

早希「…？圭吾…？携帯鳴ってるよ…？」

圭吾「ん…」スッ…

圭吾「もしもし？」ピッ…

律『けっ、圭吾…！？（汗）たっ、大変だっ…！（汗）』

圭吾「なんだ、頭悪いのが余計悪化したか？」

律『違うわっ…！（汗）学校が大変な事になってんだよ…！（汗）』

圭吾「…大変な事？」

律『とにかく今すぐ学校に来いっ…！（汗）』

圭吾「…（汗）」ピッ…

……………

圭吾「…うわっ…川すげ〜水量だな…（汗）」スタスタ…

梓「あつ、片山先輩…！」ペコリ…

圭吾「おつ、梓も律に呼び出し食らったのか？」

梓「はっ、はい……」

圭吾「まあどうせ校舎のガラスが割れたとかそーゆーのだろうな…」
ハハハ…

梓「…そうだといいですけど…」スタスタ…

〜学校〜

さわ子「大変な事になったわ…」

圭吾「先生〜、なんかあったんすか〜？」スタスタ…

さわ子「あら圭吾くん…梓ちゃんも……実は講堂の屋根が台風で吹き飛ばされちゃったのよ…」

梓「こっ、講堂の屋根がですか！？（汗）」

圭吾「マジかよ…（汗）」

律「あっ！圭吾と梓だ！！おい！」

梓「律先輩…これは…」

漣「大変な事になったよ…」

律「…学園祭まであと1週間もないっていうのに…」

唯「これじゃまずいよ…」

慎弥「おゝい！講堂の屋根が吹っ飛んだってゝ！？」　タタタ…

漣「…ああ慎弥…それが結構屋根がやられたらしいぞ？」

慎弥「マジかよゝ…それじゃ学園祭まで間に合わないじゃんかよゝ…」　ハア…

圭吾「…来てんのはこれだけか？」

律「ムギにも電話したけど台風で電車が止まったままらしいから来れないって…」

慎弥「…修一と結花もムギと同じ理由で来れないってさ…奈々は電話に出ないし…（汗）」

圭吾「…今日のところはひとまず帰るぞ…続きはまた明日だ…」

律「…そうだな…とりあえず帰るか…」

梓「……」

滯「……」

慎弥「…凄い事になったよホント…」

唯「…すぐ直るよね…?」

圭吾「…さあな…」

………

〵〵次の日〵〵

圭吾「昨日は暗くてよく見えなかったけど……酷い壊れようだな…
…」

修一「…ありゃ…酷いなあ…」

紬「…まさかこんな事になってたなんて……」

奈々「…うわあ…」

結花「……」

唯「…ライブ……どうなるのかな?…」

滯「…中止…：…だろうな…」

梓「…嫌です…」

紬「…梓ちゃん？（汗）」

梓「嫌です！！中止なんか絶対嫌です！！」

律「…梓…」

圭吾「…修理に2ヵ月かかるんだ…：…どうしようもない…」

慎弥「…修一…？何とかならないかなあ…？」

修一「…俺に言うなよ（汗）」

さわ子「あなた達…？そろそろチャイムが鳴るから教室に入ってね…？」

律「ほ…い」

圭吾「…また後でな梓…」 ポン…

梓「…」

結花「…私達も戻りましょうか梓先輩…」

梓「…」

結花「…梓先輩？」

梓「…うん……大田さんは先に行ってて…」

結花「…は、はい…」スタスタ…

梓「…」

梓「…中止は…嫌だ…絶対に嫌…」

……………

〃〃唯達の教室〃〃

さわ子「じゃあさっき言ったように講堂はしばらく修理に時間がかかるし危険だから入らないでね？」

圭吾「…」ボーツ…

圭吾（…今年のライブは中止だな……代わりに何をしようか……）

慎弥「圭吾！圭吾ってば！！」ユサユサ…

圭吾「…ん？」

修一「お前女装コンテストに出なきゃならないようになったぞ？」

圭吾「…ふん…女装コンテストねえ…って何い!? (汗) 女装コンテスト!? (汗)」ガタンッ!

律「満場一致で圭吾に決定したぞ? (汗)」

圭吾「…っ!! (汗)」

女子A「圭吾くんってモデル並みに背が高いしイケメンだし♪」

女子B「そうそう♪」

圭吾「さっ、最悪だ… (汗)」ズウーン…

滯「圭吾が凄い落ち込んでる… (汗)」

慎弥「まあ決まった事は仕方ない! ♪頑張れ圭吾! ♪」ポンッ

圭吾「… (怒)」ガシッ!

慎弥「えっ? (汗)」

圭吾「…先生…慎弥も女装コンテストに出場って事で (怒)」

さわ子「…まつ、まあ別にいいけど… (汗)」

慎弥「良くない良くない!! (汗) おかしいってそれ!! (汗)」

奈々「私慎弥くんの女装姿見てみた〜い♪」

紬「私も見た〜い♪」

修一「諦めろ慎弥…」

慎弥「…終わった…俺の高校生活…（汗）」ズウ〜ン…

男子A「山河〜？（汗）大丈夫かあ〜？（汗）」ツンツン…

律「こりゃメイクするのが楽しみだな♪」

紬「ホントねえ〜♪」

澪「何する気だ（汗）」

……………

……放課後……

〜音楽準備室〜

圭吾「…（汗）」ズウ〜ン…

慎弥「…ハア…（汗）」ズウ〜ン…

律「まあ〜だ落ち込んでるよあの2人（汗）」

さわ子「カツラ持って来たわよ〜？♪」バンッ！

圭・慎「…」チラツ…

圭・慎「…ハァ…」（汗）「ズウ…ン…

さわ子「…えっ!？」（汗）「

律「タイミング悪いよさわちゃん（汗）」

圭吾「…いつまで落ち込んでいても仕方ない…やるか!!」（汗）「

律（圭吾が壊れた…（汗）…）

滯（あの圭吾が壊れた…（汗）…）

唯「でも服はどうするの…?」

律「服はさわちゃんお手製の衣装があるから大丈夫だよ…問題はメイクだな…」

奈々「あるよ…?メイクセット!」スッ

滯「何故そんなのを持ってる?」（汗）「

さわ子「早速取りかかるわよ…!」♪

慎弥「最悪だあ…（汗）」スタスタ…

……………

梓「……」スタスタ：

結花「…あつ、…梓先輩だ…」スタスタ：

梓「……」スタスタ：

結花「…梓先輩…！」タツ…！

梓「……！…大田さん……今日も1日頑張ろっか…！」ニコツ：

結花「…はい…！…」

梓「…」ガチャ：

律「おー！いいトコに来た2人とも！」

梓「…あれ？片山先輩と山河先輩は？」

漣「2人なら…その…（汗）」ハハハ：

結花「…？」

さわ子「出来たわよ？」

奈々「見たら凄くビックリすると思うよ〜みんな〜♪」

圭吾「…はっ、恥ずかしい…／／／（汗）」スツ：

慎弥「……／＼／＼（汗）」スッ：

律・唯・紬「……おおー！！！」

梓「……？？？（汗）」

結花「……先輩達に何かあったんですか？（汗）」

滯「……実は……成り行きで圭吾と慎弥が女装コンテストに出る事になったんだ……（汗）」

結花「……女装コンテストですか……（汗）」

圭吾「……最悪だ……俺の人生で一番の汚点だ……（汗）」ハァ：

慎弥「……こんな格好……妹には絶対見せられない……（汗）」

圭吾「……ハァ……ん？……って梓っ！！？（汗）」ガビーン！

梓「……（汗）」

圭吾「……その……梓……あれだ……なんかすまん……（汗）」ズウーン……

梓「……いえ……色々大変そうですね……（汗）」

奈々「慎弥くん凄いかわいいよおー♪／＼／＼理想の女の子だよ……

／＼／

慎弥「……止めてくれ……（汗）」↑鳥肌

修一「てかお前らいつまでその格好なんだ？（汗）」

圭・慎「あ…」

………

圭吾「…さて……ライブについてだな…」↑元に戻った

奈々「あゝあ……もうちょつとあのままでいてほしかったなあ……」
ムスウー……

圭吾「そこうるさいっ!!」（怒）「バンッ!!」

奈々「けっ、圭吾くんが怒ったあゝ!」（泣）「ウェーッ……」

律「よしよし（汗）」

慎弥「…講堂が駄目なら…体育館は？」↑一応慎弥も元に戻った

さわ子「体育館は使えないわよ？新体操部が使うから」

圭吾「…体育館は駄目か…他何かないか？」

唯「はいっ!!教室は？」

律「教室は全学生が使うから無理に決まってるだろ〜? (汗)」

唯「むう〜…じゃありっちゃんどこかいトコないの〜?」

律「ん〜…校長室とか?」

澪・圭「真面目に答えろ (怒)」ゴンッ!

律「いっっ!? (泣)」ズキズキ…

結花「… (汗) ……あつ、理科室とかどうですか?」

さわ子「理科室も科学研究部が当日使うから無理ね」

結花「無理ですか…」 シュン…

修一「…とりあえず全部当たってみるか?」

圭吾「そうだな…丁度10人いるから半分に別れてどこが使えるか聞きに行くか…」

慎弥「よし! いくぞ〜!」

唯・奈「お〜♪」

圭吾「とりあえずそのバカ3人は黙ってる (怒)」

.....

〓〓30分後〓〓

律「ダメだあゝ……どこ行っても使える場所が見つからない……（汗）」
ハア……

唯「たくさん歩いたから疲れたあゝ……」グタァゝ……

圭吾「……ふう……」ガチャ……

律「そっちはどうだった？」

圭吾「ダメだ……どこも使えない……そっちはどうだった？」

律「こっちも全敗……」グタァ……

紬「……困ったわ……このままだとホントにライブが中止に……」

修一「……！まてよ……グラウンドがあるじゃないか！！あそこなら誰も使わないからイけるかもしれないぞ！？」

律「そうだ！！グラウンドだ！！ナイスアイデアだ修一！！」

圭吾「……グラウンドでするって言うても舞台はどうすんだよ？（汗）」

滯「…確かに…舞台がなかったらどうにもならない…」

紬「それなら大丈夫よ！今家の系列の会社のイベント会社に電話したら舞台を組んでくれるって！♪」

律「なっ、なんじゃそりゃ…（汗）」

修一「機材なら任せてくれ、出来るだけの物を揃えるから」

圭吾「…金持ちは違うなあ…（汗）」ヒソヒソ

結花「…そっ、そうですね…（汗）」

梓「……」

慎弥「…良かったなあ…梓…無事にライブが出来るようになって…（笑）」

梓「…えっ！？（汗）」

慎弥「さっき圭吾と話したんだけどもしライブが中止になったらこの部屋使ってメイド喫茶でもしようかって話だったんだけど…メイド服着ずに済んだな（笑）」

梓「…えっ？（汗）」

さわ子「ん〜と…グラウンドはどこも使っていないわねえ…」ピラ…

慎弥「じゃあ決まりだな！」

奈々「やったあ〜♪野外ライブだあ〜♪」

修一「…そうだ！」

結花「…どうかしたんですか？」

修一「みんな今度の日曜は暇か？」

圭吾「日曜？」

滯「暇だけど…どうしてだ？」

修一「まあそれはお楽しみだ！ここに書いた所に来てくれ」スツ…

慎弥「ん〜？どこだココ？」

圭吾「何があるんだ？」

結花「…気になりますね…」

……………

〜日曜日〜

圭吾「確かこの辺だと思うんだけど…」スタスタ…

慎弥「…! あれじゃないか？」

修一「おう、みんないるか？」

圭吾「なあ修一、そろそろ教えてくれよ(汗) 気になって仕方がない(汗)」

修一「あれだよ、イヤモニの型取りだよ」

律「イヤモニ？」

漣「…確か…プロのミュージシャンが耳にしているあれか？」

修一「そっ!」

唯「イヤモニって？」

慎弥「イヤモニはあれだ、周囲の音を聞きやすくするモンだ」

唯「へえ…そうなんだ…」

奈々「慎弥くん物知りだね♪」

慎弥「いやいや、バンドやってるならそれぐらい知ってるだろ普通(汗)」

修一「それじゃ行こうか」ガチャ…

紬「楽しみね♪」ワクワク：

.....

女性A「それでは今から形を取りますけど…どなたからやりますか？」

紬「はいっ!!」

律「やけに張り切ってるなムギ（汗）」

漚「怖いもの知らずと言うかなんと言うか…（汗）」

女性A「それじゃリラックスして下さいね…」スッ：

紬「はいっ!!」

女性A「…」カチッ：

紬「…わっ!？何か入って来た!（汗）」

律「なんか…怖くなってきた…（汗）」

漚「…私も…（汗）」

……数分後……

女性A「…はい、これで終了です」

紬「楽しかった〜♪」

律・漣「何っ！？（汗）」ガビーン！

唯「大丈夫だった〜？」

紬「うん♪なんか癖になるわ♪あの感触♪」

圭吾「癖にはなりたくねえな（汗）」

修一「…俺はもう作ってあるから俺抜きで順番を決めててくれ」

律「じゃあ…じゃんけんで決めるか？」

漣「そうだな…」

唯「負けないぞ〜♪」

奈々「何を〜？♪私だって負けないぞお〜？♪」

圭吾「頼むから静かにじゃんけんやってくれ（怒）」

…じゃんけんの結果…

一番…慎弥

二番…梓

三番…律

四番…圭吾

五番…唯

六番…滯

七番…結花

八番…奈々

………

奈々「ビッ、ビリ…（汗）」ズウ…

律「何故落ち込む？（汗）」

圭吾「…だいぶかかるな…こりや…」

………

……数時間後…

律「ふう…やっと終わった…」

慎弥「…てか…今何時だ？」

梓「もうすぐで4時ですね」

唯「…お腹すいたね…奈々ちゃん…」

奈々「…うん…甘いクッキーでも食べたいね…」

修一「みんなお疲れさん、多分イヤモニはライブ前には出来てると思うよ」

圭吾「…そうだ…そろそろ曲順を決めとかないとな…」

律「私らも明日決めるか…」

滯「そうだな…」

慎弥「そろそろ帰ろうぜ」

……………

慎弥「んじゃまた明日な」

奈々「バイバ～イ♪圭吾くんあずにゃ～ん♪」

圭吾「お」

梓「失礼します…」ペコリ…

圭吾「…俺らも帰るか…」

梓「はい…」

圭吾「……」スタスタ…

梓「……」スタスタ：

梓（…一時はどうなるかと思ったけど…ライブが中止にならなくてよかった…）スタスタ：

圭吾「…なあ梓…」スタスタ：

梓「は、はい…？」スタスタ：

圭吾「…今度…久々にデートでもするか？」スタスタ：

梓「…えっ！？／／／」スタスタ：

圭吾「ほら…ココ最近全然デートとかしてなかっただろ？だからさ…！」スタスタ

…

梓「…はい！！喜んで…！／／／」スタスタ：

圭吾「じゃあ今度の日曜でいいか？」スタスタ：

梓「はい…！／／／」スタスタ：

圭吾「よし…じゃあ梓が行きたい所に行こうか」スタスタ：

梓「…動物園…がいいです…／＼」スタスタ…

圭吾「梓お前ホント動物が好きだよなー（笑）」スタスタ…

梓「べっ、別にいいじゃないですかっ！！／＼（汗）」スタスタ…

……………

……数日後……

〵〵音楽準備室〵〵

修一「この前作ったイヤモニ出来たぞ」

律「おっ♪待ってました〜♪」

慎弥「遂に出来たのか」

修一「んじゃ配るぞ〜？

まずは…結花〜」スツ…

結花「ありがとうございます…／＼／」

修一「あっと！まだ開けるなよ？みんなのを配り終わってからの
お楽しみだからな〜」

圭吾「焦らすな〜修一（汗）」ハハハ…

修一「次は…滞！」スツ…

滞「ありがとう…／／／」

修一「ほいつ、律！」スツ…

律「サンキュー♪」

修一「次はっと…ほれっ！ムギ」スツ…

紬「ありがとう修一くん♪」

修一「次は…唯！」スツ…

唯「ありがとう♪」

慎弥「…でもこれ…高いんだろ？ホントに俺らが貰ってもいいのか？」

修一「何言ってんだよ今更…長い付き合いだから別に構わないよ…ほれっ、慎弥」スツ…

慎弥「あっ、ありがとう…」

修一「えっと…梓！」スツ…

梓「ありがとうございます」ペコリ…

修一「最後の2つは圭吾と奈々…ほいつ！」スツ…

奈々「ありがと〜♪」ダキッ！

修一「…何故抱きつく…／＼／＼」

圭吾「…何から何までホントにありがとな」

律「そろそろ開けてもいいか〜？」

修一「ああ、いいよ」

律「…おお〜！♪すげえ〜！♪」

滯「凄い…!!」

修一「みんなのイメージに合った色にしたんだけど…どうかな？」

各メンバーのイヤモニの色

律…グリーン

唯…レッド

滯…ブルー

紬…イエロー

梓…パープル

圭吾…ブラック

慎弥…ピンク

修一…ホワイト

奈々…オレンジ

結花…シルバー

……………

奈々「やったあ〜♪オレンジだあ〜♪」

圭吾「…黒か…まあ悪くないな…慎弥は何色だ？」

慎弥「ピッ、ピンク…(汗)」

修一「だってほら、たまにあのピンクのベース使ってんじゃん」

慎弥「そっ、そんな理由で？(汗)」

唯「あずにゃんは何色〜？」

梓「私は紫でしたよ？唯先輩は？」

唯「私は赤だよ〜♪」

奈々「ゆ〜かちゃん♪」ダキッ！

結花「ふぁいっ!？(汗)」

奈々「結花ちゃんのイヤモニ見せて〜♪」

結花「はっ、はい…（汗）どうぞ…」スッ…

奈々「わぁ…：銀色だぁ…：」

圭吾「…すっげえ…：銀か…」

慎弥「いいなぁ…：俺なんかピンクだぞ？（汗）」

さわ子「みんないる…？」ガチャ…

唯「あっ、さわちゃん…！」

さわ子「グラウンドの使用許可、無事に下りたわよ？」

律「よっしゃ…！♪」

唯「やったぁ…♪」

さわ子「そうだ、その舞台はいつから行けそう？」

紬「いつでもオッケーらしいです♪」

慎弥「野外ライブかぁ…：気合いが入るなぁ…：」

修一「学祭まであと5日か…：それまでしっかり練習しないと…」

さわ子「楽しみね…：特に女装コンテストが♪」

圭・慎「っ!!」(汗)「ギクッ!

梓「…さわ子先生(汗)」

さわ子「?」

圭吾「…そうだ…女装コンテストに出るんだっけ…俺…(汗)」
ズウ…ン…

慎弥「すっかり忘れてた…(汗)」ズウ…ン…

梓「だっ、大丈夫ですよ!!」(汗)お二人とも背が高いし…!!」(汗)
汗)「↑フォローになってない

圭・慎「っ!!」(汗)「グサッ!

律「あゝあ…トドメさしてどーすんだよ?」(汗)」

梓「はっ…!すみません…(汗)」

奈々「二人とも!メイクなら任せて!!」キラーン!

律「あのなゝ…(汗)」

圭吾「…ハァ…（汗）」

慎弥「…病んできそうだ…（汗）」

……………

）f i n（

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2807n/>

けいおん!パート3 Final

2012年1月10日01時52分発行